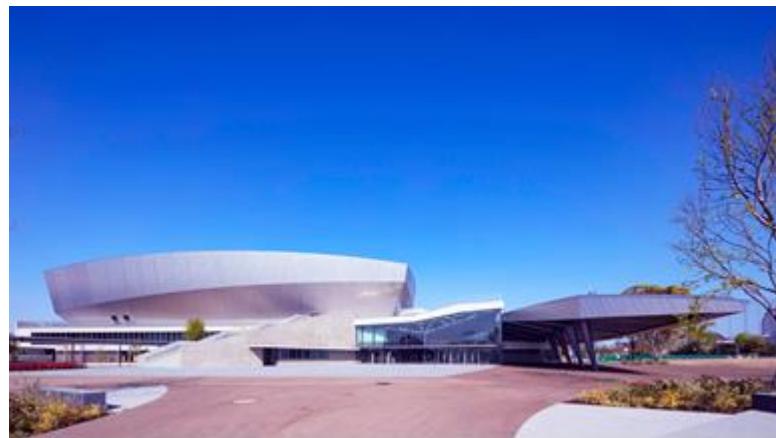


第4次四日市市 スポーツ推進計画



2022年（令和4年）3月

四日市市

目次

第1章 スポーツ推進計画策定にあたって	1
1 はじめに	1
2 計画の目的	2
3 計画の位置付け	2
4 市民アンケート調査の実施	3
第2章 四日市市のスポーツ活動の現状	4
1 市の人口と高齢化の状況	4
2 市民の運動・スポーツ活動の実態	5
3 子どもの体力・運動能力	11
4 スポーツ関連団体・指導者の現状	12
5 スポーツ選手の活動状況	16
6 市のスポーツ施設の現状と利用実態	17
7 スポーツ教室、大会・イベントの状況	19
8 新型コロナウイルス感染症のスポーツ活動への影響	21
9 本市のスポーツ推進についての意見	22
10 現状と課題のまとめ	24
第3章 スポーツ推進の基本的な考え方	28
1 目標像	29
2 基本政策	29
3 基本方針	31
4 計画の推進にあたっての考え方	33
第4章 施策の展開	36
基本方針 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	36
基本方針 2 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実	40
基本方針 3 競技力向上・スポーツを支える人材の育成	43
基本方針 4 安全で快適なスポーツ施設の管理運営	47
基本方針 5 スポーツを通じた交流の促進	50
基本方針 6 情報提供・発信の充実	53
第5章 計画の推進について	54
1 スポーツ推進に向けた主体と役割	54
2 計画の進行管理	55

資料編	56
1 四日市市みんなのスポーツ応援条例	56
2 四日市市のスポーツに関するアンケート調査結果	59
3 スポーツ施設一覧	84
4 四日市市スポーツ推進審議会委員名簿	89
5 用語集	90

1 はじめに

本市は、2007年（平成19年）2月に「四日市市スポーツ振興計画」を策定し、その後、2012年（平成24年）に「第2次四日市市スポーツ推進基本計画」、2017年（平成29年）に「第3次四日市市スポーツ推進基本計画」を策定し、5年ごとに計画の見直しを行いながら、市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、スポーツ振興を図るため、各種事業を推進してきました。

そのような中、2020年（令和2年）初頭から新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が始まり、感染拡大防止のため、多くのスポーツイベントが中止や縮小を余儀なくされ、現在も新型コロナウイルス感染症は収束していない状況です。

2021年（令和3年）7～9月には、新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期となりましたが、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されました。両大会は、多くの競技が無観客で実施される異例の大会となりましたが、日本は過去最高のメダル数を獲得し、本市出身の選手も金メダルを獲得するなど活躍し、多くの感動や夢を残しました。

また、2021年（令和3年）に開催予定であった「三重とこわか国体・三重とこわか大会」は、開催に向けて本市でも施設の整備や競技力の強化など万全の準備を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりました。

一方で、両大会に向けて整備した四日市市総合体育館や四日市テニスセンターのほか、県市の競技団体が培った競技会運営ノウハウや市民のスポーツに対する気運の高まりなど今後に遺していくべき財産を得ました。

今後も、「生涯スポーツ社会」の実現を目指すとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックで盛り上がった市民のスポーツに対する機運を今後につなげ、三重とこわか国体・三重とこわか大会を契機として得た財産を活用し、スポーツ振興並びに本市のシティプロモーションにつなげていきます。

2 計画の目的

本市では、2007年（平成19年）にスポーツ推進の基本的な方向性を示す「四日市市スポーツ振興計画」を策定し、スポーツ振興を目指して各種事業を実施してきました。その後、国では2011年（平成23年）に「スポーツ基本法」を定め、スポーツ振興は国家戦略として位置付けられ、県では2015年（平成27年）に「三重県スポーツ推進条例」が制定されました。

本計画は「第3次四日市市スポーツ推進基本計画」を継承するとともに、条例の内容や、本市のスポーツを取り巻く環境の変化を踏まえ、本市のスポーツ推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とし、2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間を計画期間として策定しました。

3 計画の位置付け

（1）国の計画

国が2011年（平成23年）に施行した「スポーツ基本法」第9条において、文部科学大臣は、「スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する基本的な計画を定めなければならない」と国の責務を位置付け、同時に第10条においては、市は「スポーツ基本計画を参照して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする」と市のスポーツ推進計画が位置付けられています。

（2）県の計画

県では、2015年（平成27年）にスポーツ基本法第10条に基づく「三重県スポーツ推進計画（2015年度（平成27年度）～2018年度（平成30年度））」が策定されました。

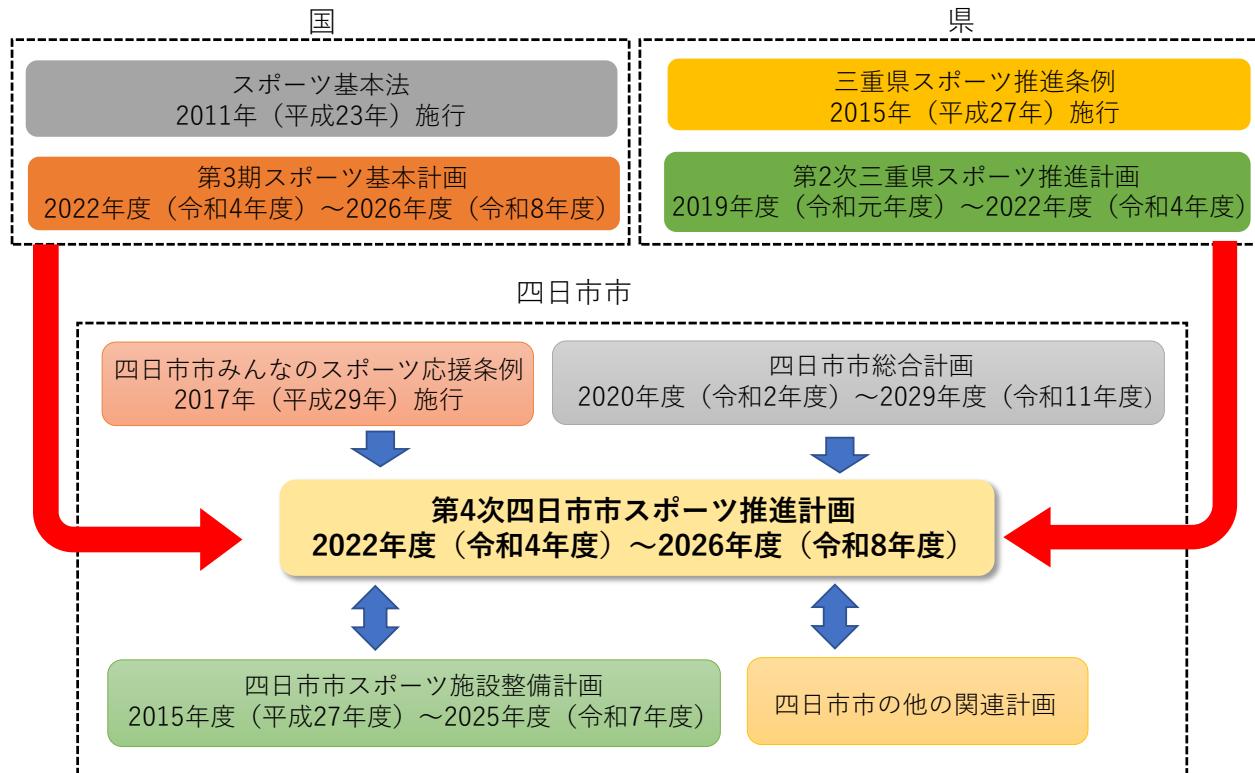
県においては、2018年（平成30年）に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催され、第76回国民体育大会（三重とこわか国体）及び第21回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の三重県での開催が決定されたことを受け、2019年（令和元年）3月に「第2次三重県スポーツ推進計画（2019年度（令和元年度）～2022年度（令和4年度））」が策定されました。

（3）市の計画

本市では、スポーツ基本法第10条に基づく「第2次四日市市スポーツ推進基本計画（2012年度（平成24年度）～2016年度（平成28年度））」を策定しました。

また、2016年度（平成28年度）に「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる活力のあるまちづくりの創生を目的として、基本政策やスポーツ推進にあたっての各主体の役割を定めた「四日市市みんなのスポーツ応援条例（2017年（平成29年）1月1日施行）」を制定しました。条例において「市は、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する基本的事項、具体的施策その他必要な事項を定めた計画を定めるものとする」としています。

本計画は、2020年度（令和2年度）に策定した、市の将来を見据えた総合的・計画的なまちづくりの指針となる「四日市市総合計画（2020年度（令和2年度）～2029年度（令和11年度））」を上位計画として、また、国の「第2期スポーツ基本計画（2017年度（平成29年度）～2021年度（令和3年度））」及び「第3期スポーツ基本計画（2022年度（令和4年度）～2026年度（令和8年度））」並びに四日市市の関連計画との整合性を図り、連携しながら推進します。



4 市民アンケート調査の実施

本計画策定にあたって、本市のスポーツの現状と課題や要望を把握するため、2021年（令和3年）6月にアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査対象	配布数	回収数	回収率
市民アンケート	18歳以上の市民から無作為抽出	3,000人	1,045人	34.8%
スポーツ関連団体 アンケート	四日市市スポーツ協会加盟団体	47団体	35団体	74.5%
	四日市市レクリエーション協会加盟団体	17団体	13団体	76.5%
	四日市市スポーツ少年団加盟団体	55団体	32団体	58.2%
	市内の総合型地域スポーツクラブ	7団体	4団体	57.1%
スポーツ推進委員 アンケート	四日市市スポーツ推進委員	77人	57人	74.0%

注) 本文中のアンケート調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。

第2章 四日市市のスポーツ活動の現状

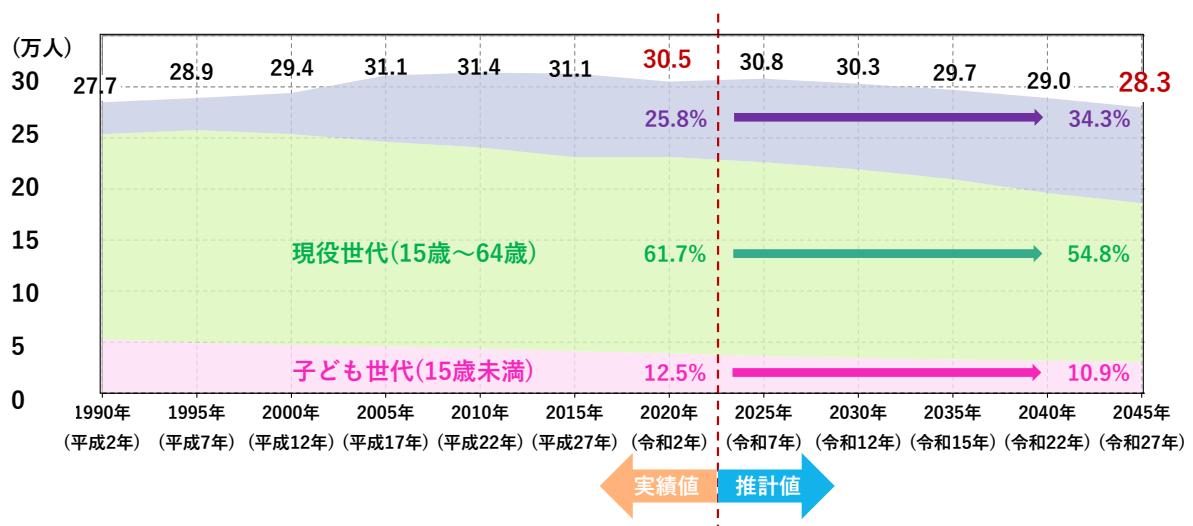
1 市の人口と高齢化の状況

四日市市の総人口は、2008年（平成20年）をピークに減少局面に入っています。2020年（令和2年）には約30.5万人であった人口が、2030年代前半に30万人を割った後、2045年（令和27年）に約28.3万人となり、2020年（令和2年）対比で92.8%程度の水準となる見通しです。一方、高齢化率は25.8%から34.3%と8.5ポイント上昇することが見込まれています。人口減少により、スポーツ団体では、会員数の減少とそれによる団体数の減少につながることが考えられ、また、子ども世代の人口減少は、少年スポーツ団体の減少や中学校の部活動実施種目の減少などのスポーツ活動に影響をもたらします。

さらに、高齢化が進行すると、スポーツ団体では、指導者や役員の高齢化による人材不足などの問題を引き起こす可能性が高まります。

図表1 四日市市人口及び3区分人口比率の推移・将来予測

【人口の推移及び将来推計】



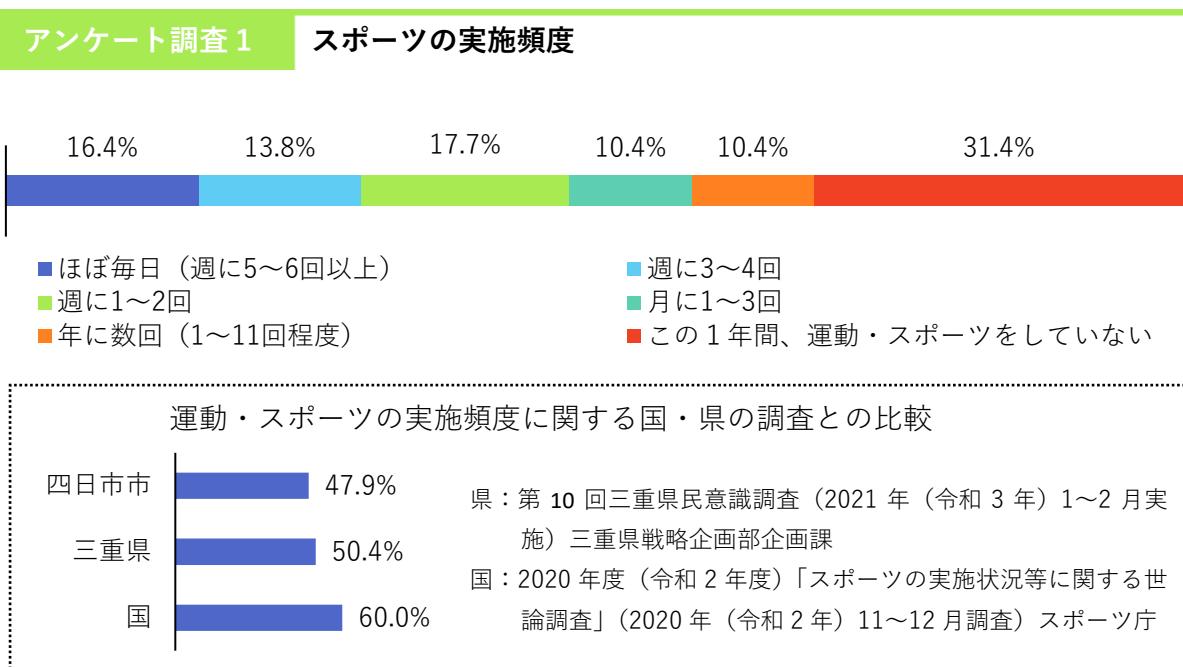
※実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)』より。2020年（令和2年）年齢3区分別人口比は四日市市住民基本台帳データ（10月1日）より。

2 市民の運動・スポーツ活動の実態

(1)市民アンケート調査による「する」スポーツの実態

①スポーツの実施頻度

週に1回以上運動・スポーツをしていると答えた人の割合は47.9%となっています。国や県の同様の調査と比較すると、本市は国(60.0%)や県(50.4%)よりも低くなっています。週に1回以上運動・スポーツをしていないと答えた人は、30歳代の63.1%が最も多く、40歳代が60.5%と続き、60歳代、50歳代も含めて半数以上の人人が定期的な運動・スポーツをしていないとみられます。

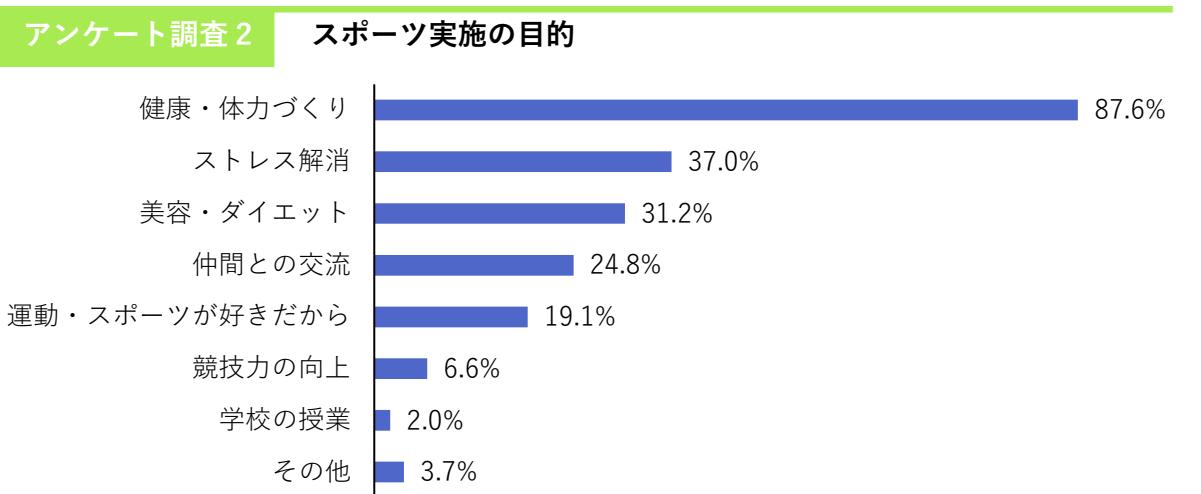


◆年齢によるスポーツの実施頻度

	N	ほぼ毎日（週に5～6回以上）	週に3～4回	週に1～2回	月に1～3回	年に数回（1～11回程度）	この1年間、運動・スポーツをしていない
全体	1032	16.4	13.8	17.7	10.4	10.4	31.4
29歳以下	95	16.8	11.6	24.2	13.7	17.9	15.8
30歳代	122	13.1	8.2	15.6	13.1	21.3	28.7
40歳代	175	8.6	12.6	18.3	9.7	17.7	33.1
50歳代	178	14.6	13.5	21.3	11.8	6.7	32.0
60歳代	178	14.6	16.9	15.2	10.1	5.6	37.6
70歳以上	278	24.5	16.2	15.5	7.6	4.0	32.4

②スポーツを実施した目的

スポーツを実施した目的は、「健康・体力づくり」と答えた人が 87.6%と、ほとんどの人が目的にあげており、「ストレス解消」が 37.0%、「美容・ダイエット」31.2%で続いています。



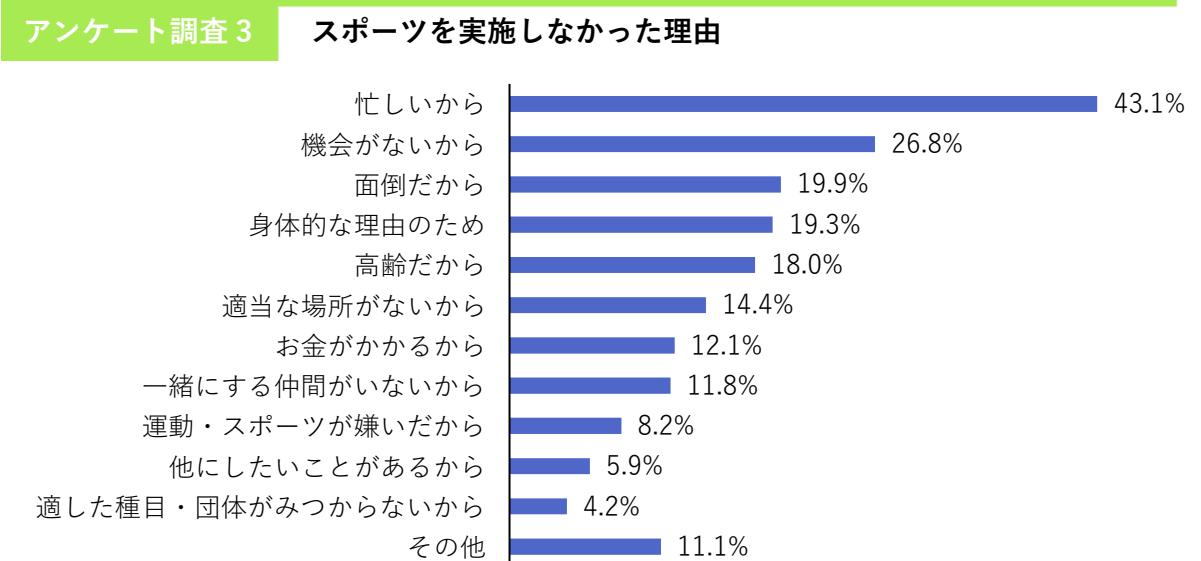
◆ スポーツを実施した年代別の目的

スポーツを実施した目的を年代別に見ると、「健康・体力づくり」と答えた人は 60 歳代が 92.0%で最も高く、29 歳以下が 75.8%と最も低くなっています。「美容・ダイエット」と答えた人は 60 歳代以上を除く年代で 40%を超えていました。また、「ストレス解消」と答えた人は 30 歳代、40 歳代、50 歳代いずれも 40%を超えており、ビジネスパーソンがスポーツを実施する主な目的の一つになっています。「仲間との交流」と答えた人の割合は、70 歳以上で 33.5%、60 歳代で 30.7%と続いています。

	N	健康・体力づくり	ストレス解消	仲間との交流	競技力の向上	美容・ダイエット	運動・スポーツが好きだから	学校の授業	その他
全体	1,008	87.6	37.0	24.8	6.6	31.2	19.1	2.0	3.7
29歳以下	95	75.8	38.9	25.3	10.5	43.2	31.6	8.4	1.1
30歳代	118	83.1	49.2	13.6	7.6	49.2	19.5	1.7	5.1
40歳代	172	89.5	40.7	17.4	5.2	48.8	18.0	0.6	2.9
50歳代	178	87.6	41.6	20.8	5.6	41.0	18.5	1.7	4.5
60歳代	176	92.0	35.2	30.7	6.8	21.0	19.3	1.1	2.8
70歳以上	263	89.4	26.2	33.5	6.5	7.6	16.0	1.5	4.6

③スポーツを実施しなかった理由

スポーツを実施していない理由は、「忙しいから」と答えた人が 43.1%で最も多く、「機会がないから」が 26.8%、「面倒だから」が 19.9%で続いています。



◆スポーツを実施しなかった年代別の理由

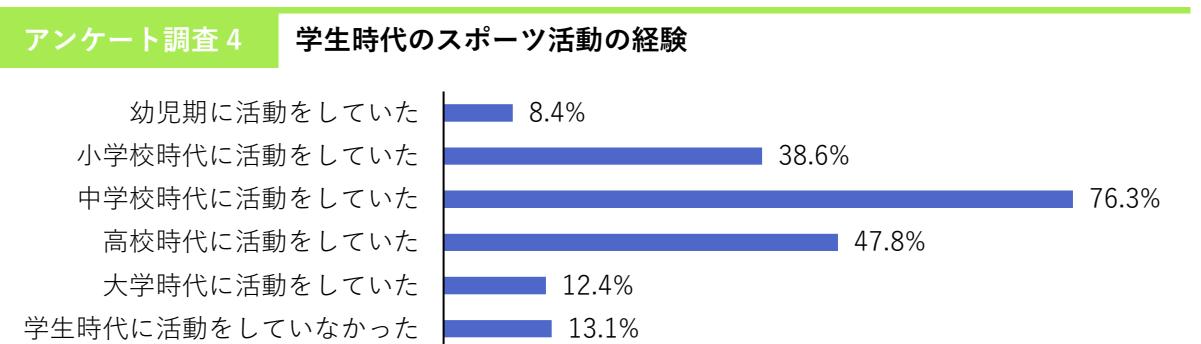
スポーツを実施しなかった理由を年代別に見ると、「忙しいから」と答えた人は 30 歳代が 70.6%で最も多く、29 歳以下から 50 歳代まででいずれも 5 割を超えており、また「機会がないから」と答えた人の割合は、70 歳以上を除くいずれの年代でも 3 割前後となっています。また、70 歳以上の 53.7%が高齢だからと答えています。

(%)

N	忙しいから	運動・スポーツが嫌いだから	面倒だから	お金がかかるから	適当な場所がないから	機会がないから	適した種目・団体がみつからないから	一緒にする仲間がないから	高齢だから	身体的な理由のため	他にしたいことがあるから	その他	
全体	306	43.1	8.2	19.9	12.1	14.4	26.8	4.2	11.8	18.0	19.3	5.9	11.1
29歳以下	15	66.7	13.3	33.3	13.3	26.7	33.3	6.7	20.0	-	6.7	6.7	6.7
30歳代	34	70.6	8.8	35.3	23.5	20.6	38.2	8.8	17.6	-	5.9	8.8	11.8
40歳代	56	57.1	5.4	35.7	16.1	19.6	26.8	3.6	7.1	1.8	10.7	10.7	7.1
50歳代	52	55.8	15.4	23.1	19.2	15.4	38.5	5.8	15.4	5.8	17.3	3.8	7.7
60歳代	65	38.5	9.2	10.8	9.2	10.8	33.8	4.6	13.8	10.8	30.8	7.7	7.7
70歳以上	82	12.2	3.7	6.1	2.4	8.5	7.3	1.2	7.3	53.7	25.6	1.2	19.5

④学生時代のスポーツ経験

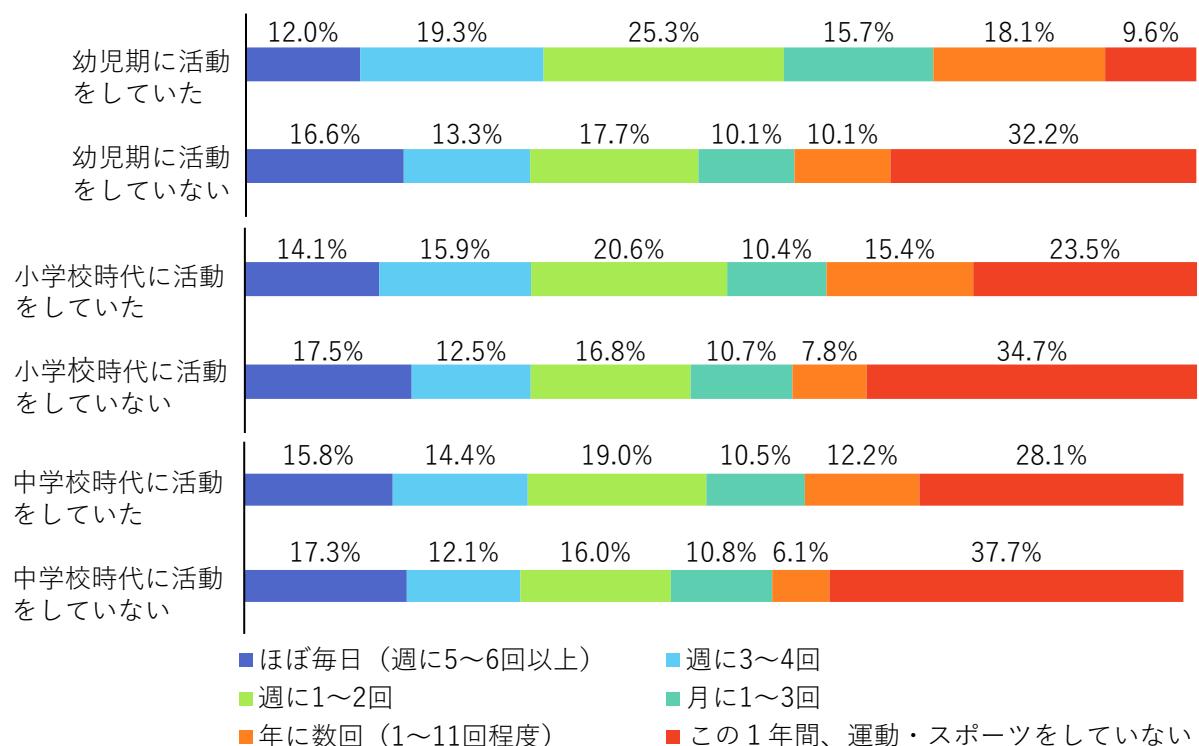
学生時代のスポーツ経験を問う質問に対して、「中学校時代に活動していた」と答えた人が 76.3%で最も多く、「高校時代に活動していた」と答えた人が 47.8%、「小学校時代に活動していた」と答えた人が 38.6%で続いています。



◆中学校時代までのスポーツ経験と現在の実施頻度のクロス集計

中学校時代までの運動・スポーツ経験と現在のスポーツ実施頻度の関係を分析すると、「幼児期に活動をしていた」人のうち、現在の運動・スポーツの実施頻度が月 3 回以下と答えた人は、「幼児期に活動をしていない」人より、9.0 ポイント低くなっています。「小学校時代に活動をしていた」人のうち、現在の運動・スポーツの実施頻度が月 3 回以下と答えた人は、「小学校時代に活動をしていない」人より、3.9 ポイント低くなっています。「中学校時代に活動をしていた」人のうち、現在の運動・スポーツの実施頻度が月 3 回以下と答えた人は、「中学校時代に活動をしていない」人より、3.8 ポイント低くなっています。

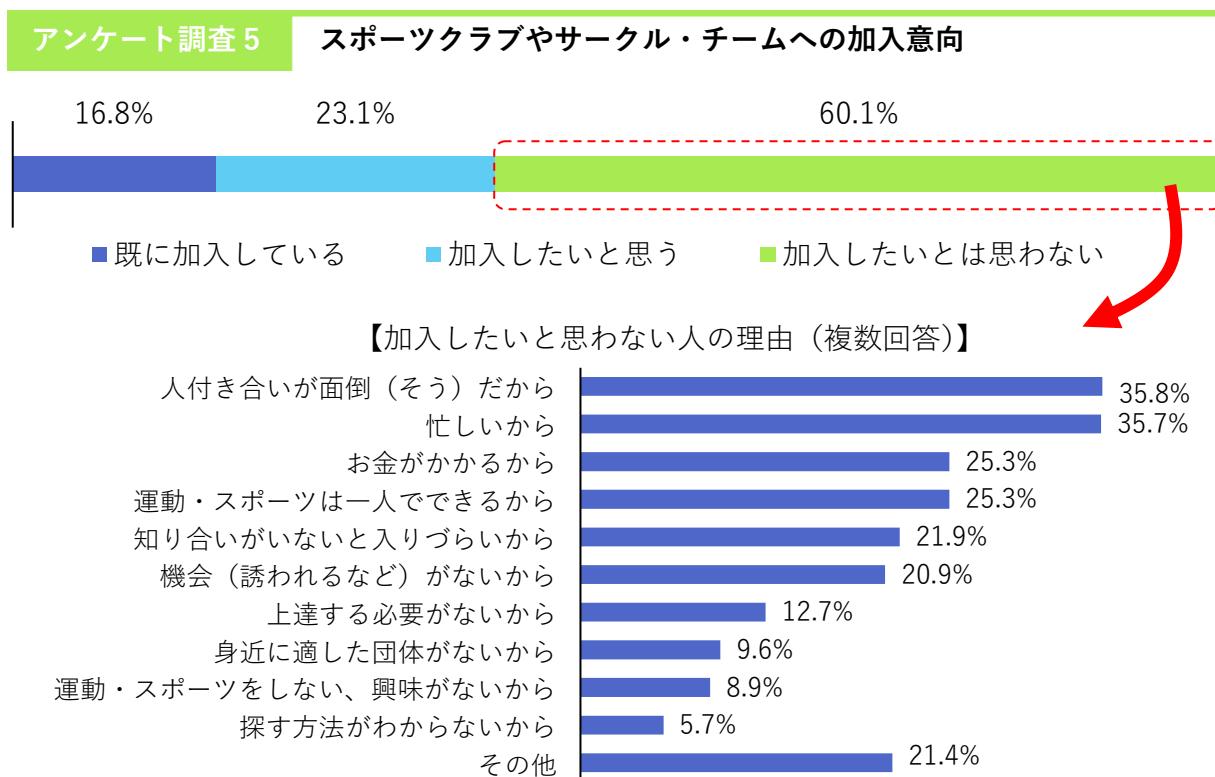
したがって、中学校時代までの運動経験は、大人になってからの運動・スポーツの実施にプラスの影響があり、運動・スポーツを経験した年齢が低いほど、その効果が大きいと考えられます。



⑤スポーツクラブやサークル・チームへの加入意向

スポーツクラブやサークル・チームに「加入したいと思わない」と答えた人が 60.1%と、半数を超えていいます。

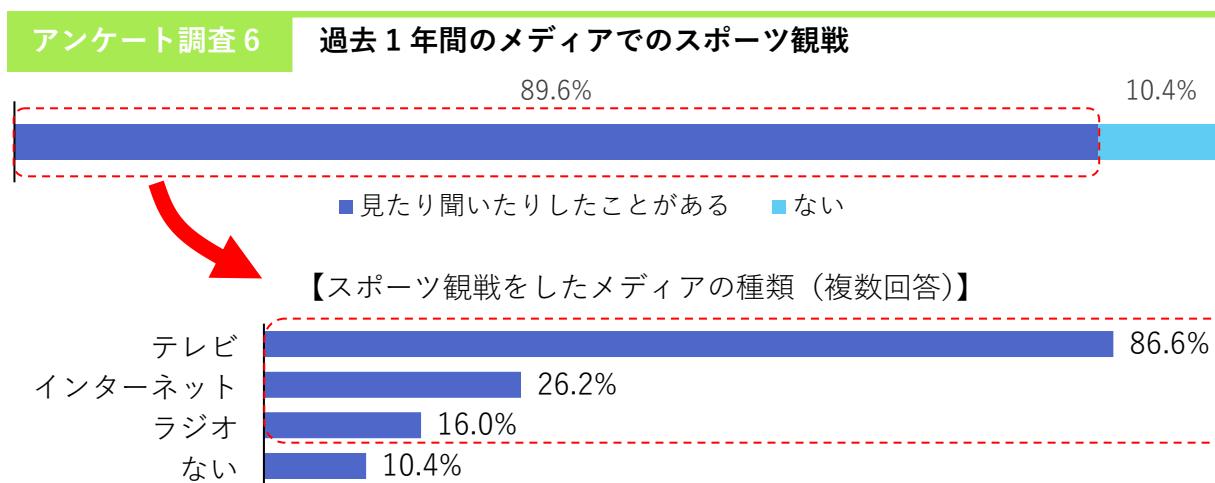
加入したいと思わない理由として、「人付き合いが面倒（そう）だから」と答えた人が 35.8%で最も多くなっており、「忙しいから」が 35.7%で、僅差で続いています。



(2)市民アンケート調査による「観る」スポーツの実態

①メディアでのスポーツ観戦について

スポーツ観戦について、ほぼ 9 割の人がメディアで観戦したことがあると答えています。メディアの内訳は、テレビが 86.6%、インターネットが 26.2%、ラジオが 16.0%となって います。

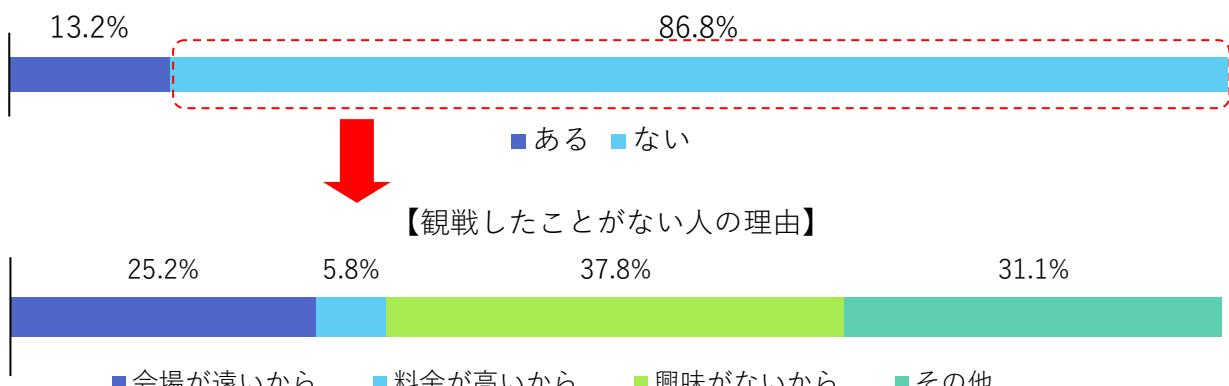


②競技場などのスポーツ観戦について

過去1年間の競技場などのスポーツ観戦の経験について、「ある」と答えた人は13.2%にとどまっています。

直接観戦しなかった理由について、「興味がないから」と答えた人が37.8%で最も多くなっており、「会場が遠いから」と答えた人が25.2%で続いています。

アンケート調査7 過去1年間の競技場などのスポーツ観戦の経験



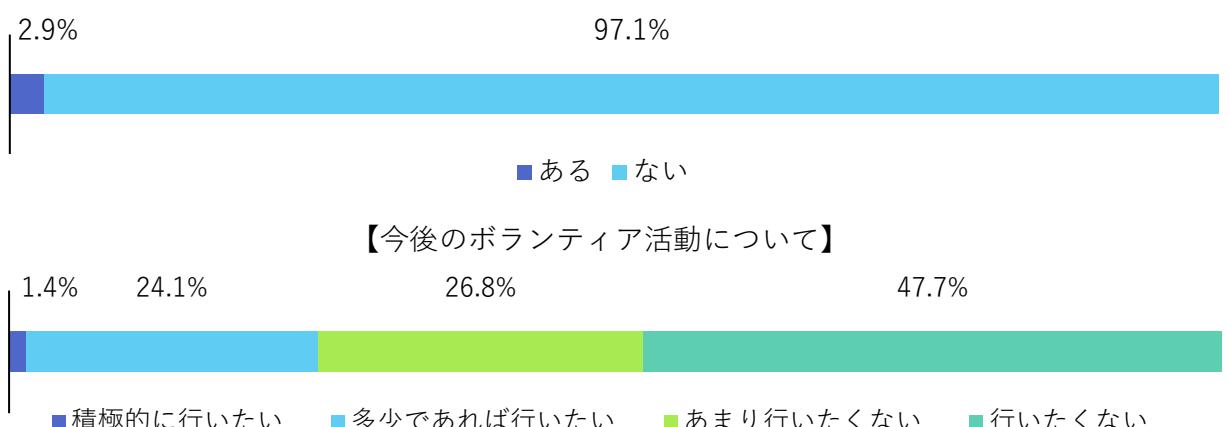
(3)市民アンケート調査による「支える」スポーツの実態

①スポーツに関するボランティア活動

過去1年間に運動・スポーツに関するボランティア活動への参加経験がある人は2.9%にとどまっています。

一方、今後のボランティア活動の意向について、「積極的に行いたい」と「多少であれば行いたい」を合わせると参加経験がある人を大幅に上回る25.5%となっています。

アンケート調査8 過去1年間のスポーツに関するボランティア活動の参加経験



3 子どもの体力・運動能力

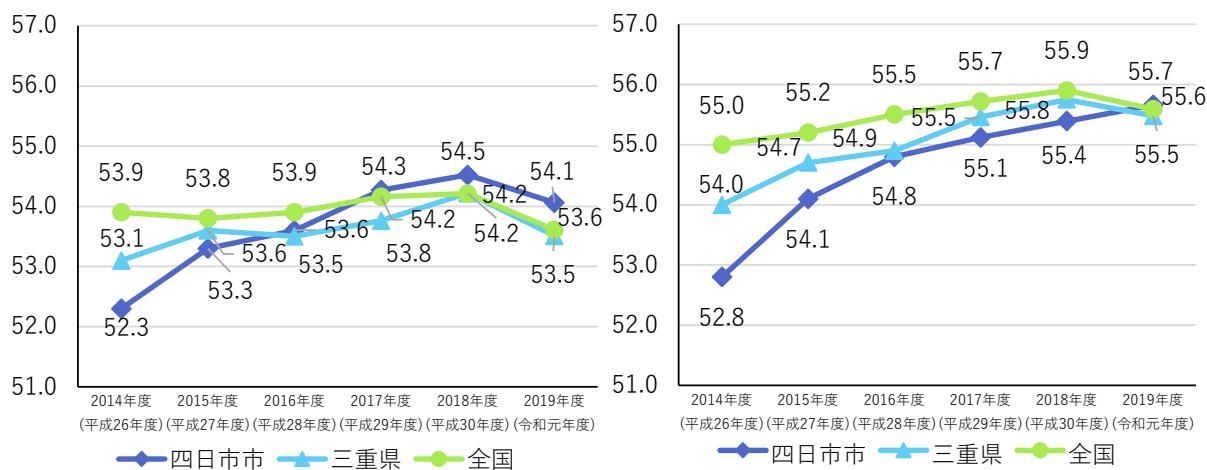
スポーツ庁では毎年小学5年生と中学2年生を対象に、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」により実技に関する能力や運動習慣、生活習慣の調査を実施しています。

調査の中の男女別体力合計点の推移を全国、県と比較すると、小学5年生男子において、本市は2014年度（平成26年度）には全国、県を下回っていましたが、2017年度（平成29年度）以降は全国、県を上回っています。小学5年生女子において、2018年度（平成30年度）までは全国、県を下回っていましたが、2019年度（令和元年度）には全国、県を上回っています。

中学2年生男子は、全国、県を上回る年もあれば下回る年もあり、2018年度（平成30年度）には県と並んで全国を上回っていましたが、2019年度（令和元年度）には全国、県を下回っています。中学2年生女子は、2015年度（平成27年度）には全国と並んで県を上回っていましたが、それ以降は2019年度（令和元年度）まで全国も上回っています。

図表2 小学5年生と中学2年生の男女別体力合計点

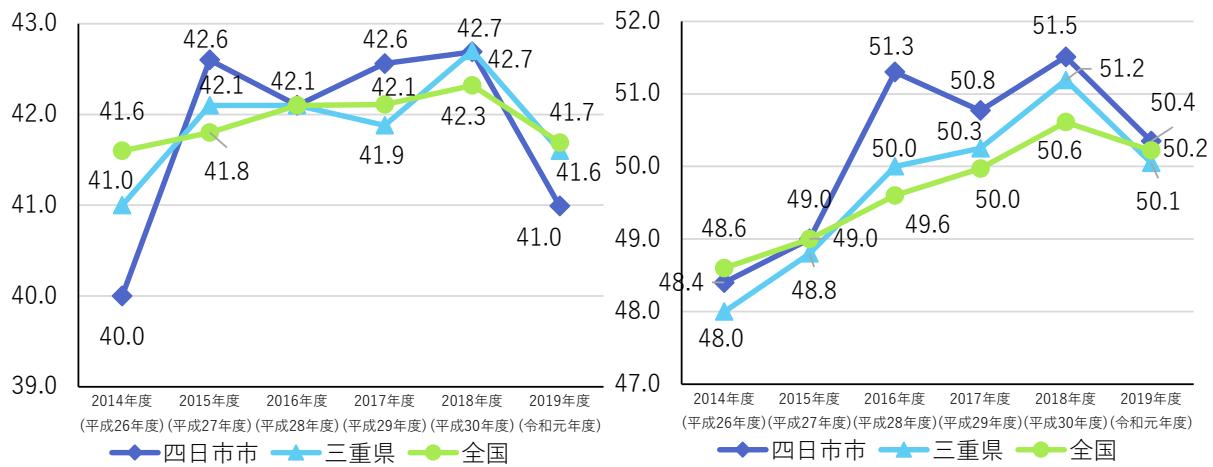
【小学5年生男女別体力合計点】



【男子】

【女子】

【中学2年生男女別体力合計点】



【男子】

【女子】

4 スポーツ関連団体・指導者の現状

(1) スポーツ関連団体の現状

① スポーツ関連団体の団体数及び会員数の推移

本市のスポーツ協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会並びにこれらの加盟団体、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関連団体は、スポーツの普及・競技力の向上において大きな役割を担っています。

スポーツ協会加盟団体、総合型地域スポーツクラブ及びレクリエーション協会は、団体数は横ばいですが、会員数は減少傾向にあります。スポーツ少年団は団体数が2020年度(令和2年度)には大きく減少しており、会員数も減少傾向にあります。

図表3 スポーツ関連団体の団体数及び会員数の推移

団体種類	区分	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
四日市市スポーツ協会	団体数(団体)	45	45	45	45	45
	会員数(人)	36,524	36,633	37,370	36,124	35,502
四日市市レクリエーション協会	団体数(団体)	19	19	18	18	18
	会員数(人)	3,260	3,213	3,182	3,005	3,005
四日市市スポーツ少年団	団体数(団体)	62	65	66	64	55
	団員数(人)	1,014	1,035	968	937	823
総合型地域スポーツクラブ	団体数(団体)	6	6	6	6	6
	会員数(人)	4,198	4,044	3,961	3,913	3,591

② スポーツ関連団体の活動の状況

団体アンケート調査結果による、団体の活動状況は次頁のグラフの通りです。

ここ5年間の団体の活動頻度は、全体では「週に3~4回」と答えた団体が34.1%で最も多く、「週に1~2回」が24.4%で続いています。団体別に見ると、総合型地域スポーツクラブはすべての団体が「ほぼ毎日」と回答しています。一方、四日市市スポーツ協会加盟団体は、「年に数回」と答えた団体が29.4%で、「この1年間活動していない」と答えた団体は2.9%いました。

会員数の傾向は、全体では「減少傾向」と答えた団体が38.6%で最も多く、「あまり変わらない」と答えた団体が28.9%で続いています。団体別に見ると、四日市市レクリエーション協会は「やや減少傾向」を合わせると84.6%が減少傾向と答えています。また、総合型地域スポーツクラブは、4団体が「やや減少傾向」または「減少傾向」と答えています。

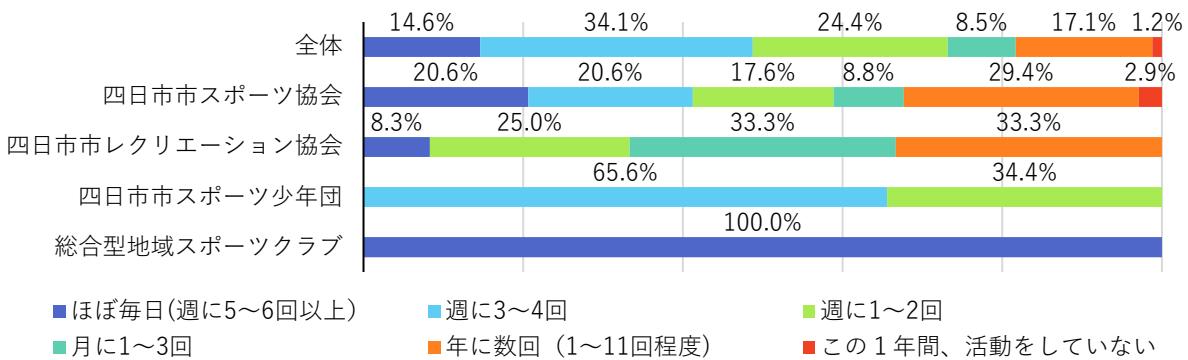
指導者数の傾向は、全体では「あまり変わらない」と答えた団体が58.5%で半数を超えており、四日市市レクリエーション協会以外は、「あまり変わらない」と答えた団体がいずれも半数を超えており、四日市市レクリエーション協会も、「当団体には指導者は置いていない」と答えた団体を除くと、半数以上が「あまり変わらない」と答えています。

これらの結果をまとめると、団体の活動状況は、いずれの団体種別においても月1回以上活動している団体が大勢を占めており、指導者数はあまり変わらないと答えた団体が多いものの、高齢化と人口減少が進行する中で、会員数は全体的に減少傾向にあります。

アンケート調査9

スポーツ関連団体の活動頻度・会員数の傾向・指導者数の傾向

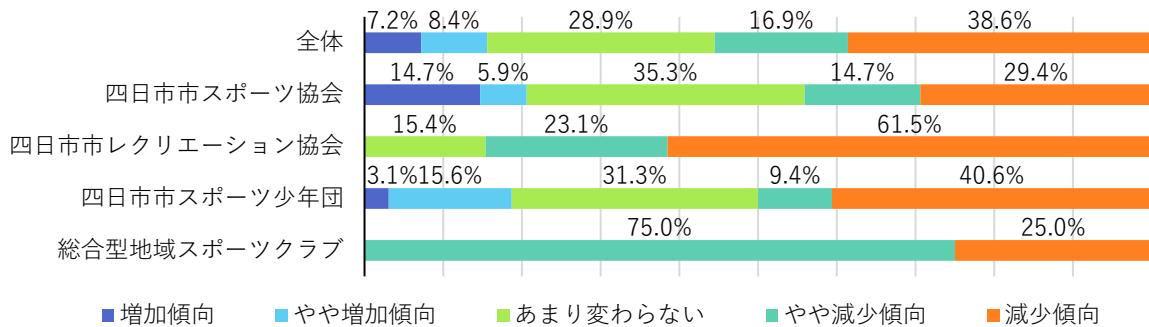
【スポーツ団体の活動頻度】



■ ほぼ毎日(週に5~6回以上)
■ 月に1~3回

■ 週に3~4回
■ 週に1~2回
■ 年に数回(1~11回程度)
■ この1年間、活動をしていない

【スポーツ団体の会員数の傾向】



■ 増加傾向

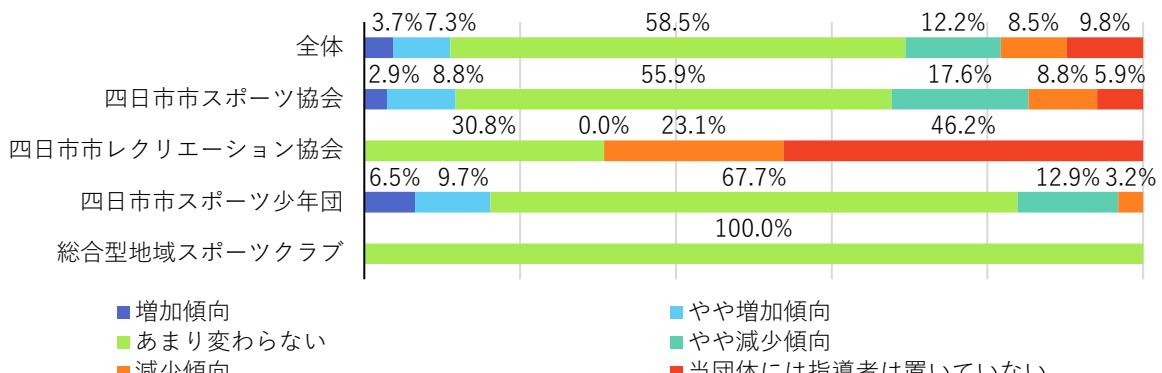
■ やや増加傾向

■ あまり変わらない

■ やや減少傾向

■ 減少傾向

【スポーツ団体の指導者数の傾向】



■ 増加傾向

■ あまり変わらない

■ 減少傾向

■ やや増加傾向

■ やや減少傾向

■ 当団体には指導者は置いていない

(2) スポーツ推進委員の現状

スポーツ推進委員は、地域においてスポーツ推進を図るために、スポーツの実技指導やスポーツに関するさまざまな指導・助言・住民と行政を結ぶコーディネーターとしての役割を担っており、スポーツ基本法第32条に基づき市が委嘱しています。2020年度（令和2年度）は73名の人に委嘱し、経験や能力を生かして地域の運動・スポーツの普及・啓発に努めていますが、地区によっては欠員が生じています。

図表4 スポーツ指導者の推移

指導者の区分	H28	H29	H30	R1	R2
スポーツ推進委員(人)	76	76	77	72	73

(3) ホームタウンチームとの連携

本市では、本市に活動拠点を置き、広く市内外での活躍が期待できるスポーツ団体3団体とホームタウン包括連携協定を締結しています。それにより、市民や企業などがチームを応援する機運を高め、本市に対する誇りや愛着を醸成し、スポーツ文化の定着を図るとともに、ホームタウンチームと連携・協働して、スポーツを通じた地域振興や情報発信による元気なまちづくりを目指します。

① PEARLS（パールズ）



2016年（平成28年）に発足し、太陽生命ウィメンズセブンズシリーズをはじめ全国で活躍する女子ラグビーフットボールチームです。これまでに女子日本代表選手も輩出しています。

協定締結日	2019年（令和元年）11月1日
チーム名	PEARLS（パールズ）
法人名	一般社団法人 PEARLS
所在地	四日市市十七軒町10-19
設立	2016年（平成28年）3月
主な戦績	<ul style="list-style-type: none">・第5回全国女子ラグビーフットボール選手権大会 準優勝・太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2018 年間総合 2位・太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2019 年間総合 3位・第22回女子ラグビー関西大会 優勝・第7回全国女子ラグビーフットボール選手権大会 優勝

② ヴィアティン三重バレーボール



2016年（平成28年）に発足し、三重県初のVリーグチームとしてV2男子で活躍するバレーボールチームです。

協定締結日	2019年（令和元年）11月8日
チーム名	ヴィアティン三重バレーボール
法人名	株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ
所在地	四日市市稻葉町10-1 コスモ石油体育館内
設立	2013年（平成25年）7月
主な戦績	<ul style="list-style-type: none">・2017/18 V・チャレンジリーグⅡ 4位・2018-19 V.LEAGUE Division3 2位・2019-20 V.LEAGUE Division2 6位・2020-21 V.LEAGUE Division2 7位

③ ヴィアティン三重バスケットボール



2020年（令和2年）に発足し、2021年度日本社会人バスケットボール連盟地域リーグ男子東海・北信越リーグで活躍するバスケットボールチームです。2022-23シーズンに向けてB3リーグ公式試合参加資格審査へ申請中です。

協定締結日	2021年（令和3年）6月24日
チーム名	ヴィアティン三重バスケットボール
法人名	株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ
所在地	四日市市稻葉町10-1 コスモ石油体育館内
設立	2013年（平成25年）7月
主な戦績	<ul style="list-style-type: none">・第74回三重県総合バスケットボール選手権大会 優勝・第3回三重県社会人バスケットボール選手権大会 優勝・2020年度東海総合バスケットボールチャンピオンシップ 優勝・第75回三重県総合バスケットボール選手権大会 優勝

5 スポーツ選手の活動状況

本市のスポーツ選手が全国大会や国際大会で活躍することは、市民に誇りと喜びを与えることに加えて、青少年をはじめとする市民がより一層運動・スポーツに熱意をもって取り組むきっかけとなります。1996 年のアトランタパラリンピックから 6 大会連続でパラリンピックに出場した本市出身の齋田悟司選手は、2004 年のアテネパラリンピックでは、車いすテニス男子ダブルスで金メダルを獲得するなど、3 大会でメダルを獲得する活躍をしました。また、東京 2020 オリンピックでは、本市にゆかりのある選手が 7 人出場し、レスリング女子 53kg 級では、本市出身の向田真優選手が金メダルを獲得するなどの活躍をしました。

本市では全国大会で活躍する選手及びその関係者を支援するために、「四日市市スポーツ激励金」を交付しており、2015 年度（平成 27 年度）には 1,199 人に交付しています。なお、2018 年度（平成 30 年度）から減少しているのは、自然災害や新型コロナウィルス感染症の影響により大会が中止されたことが要因と考えられます。

また、全国大会等で優秀な成績を挙げた人に対して、スポーツ栄光賞・スポーツ奨励賞を授与し、その実績を讃えています。受賞者数が 2020 年度（令和 2 年度）に大きく減少しているのは、スポーツ激励金と同様に新型コロナウィルス感染症の影響により大会が中止されたことが要因と考えられます。

図表 5 スポーツ激励金の交付者数の推移

交付区分	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
全国大会	895	801	805	678	610	154
国民体育大会	85	103	105	92	109	1
高等学校選抜大会	198	182	165	221	111	258
国際大会	21	22	27	34	24	0
合計	1,199	1,108	1,102	1,025	854	413

図表 6 スポーツ栄光賞・奨励賞の受賞者数の推移

受賞区分	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
個人種目	受賞者数	42	47	42	39	33
団体種目	受賞者数	34	51	34	44	47
	団体数	8	6	5	9	11
合計	受賞者数	76	98	76	83	50

図表 7 スポーツ選手の本市への表敬訪問件数の推移

区分	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
訪問件数	42	43	35	38	32	14

6 市のスポーツ施設の現状と利用実態

(1)市のスポーツ施設の状況

本市では、2015年（平成27年）3月に「四日市市スポーツ施設整備計画」を策定し、三重とこわか国体・三重とこわか大会の競技会場として、アリーナや弓道場、トレーニングルーム等を備えた四日市市総合体育館、3面の四日市市中央フットボール場、屋根付き8面を含む16面の四日市テニスセンターそして四日市市霞ヶ浦第3野球場を整備しました。

新たな施設の中央フットボール場では、大規模改修によりリニューアルした四日市市中央陸上競技場と合わせて4面のサッカー場で2018年（平成30年）に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）を開催し、総合体育館では2020年（令和2年）に全日本トランポリン選手権大会、同年からバレーボールのV1女子リーグ戦が行われています。また四日市テニスセンターでは、2018年（平成30年）インターハイ、2019年（令和元年）ATP（男子プロテニス協会）四日市チャレンジャー、同年から全豪オープンジュニアシリーズのワイルドカード選手権、そして2020年（令和2年）からは全日本学生選手権（インカレ）が行われています。

一方、老朽化が進んだ施設等の既存施設は、スポーツ施設整備計画及び四日市市公共施設等総合管理計画に基づき、中央陸上競技場、霞ヶ浦第1野球場、四日市ドーム等計画的に改修を進めてきました。

それにより、さまざまな国際大会、全国大会など大規模大会の開催が可能になるとともに、四日市市全体のスポーツ施設のキャパシティは増加しており、施設の利用率は休日や夜間は比較的高い状況ですが、平日の日中は利用が少ない施設が見受けられます。また、2020年（令和2年）の初頭より始まった新型コロナウィルス感染症の影響を受け、施設の利用は全体的に大きく落ち込んでいます。

図表8 スポーツ施設の施設数内訳・利用者数の推移

区分	施設数	利用者数（単位:人）					
		2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
ドーム	1	159,994	197,569	190,745	224,830	191,085	39,530
体育館	4	249,088	255,331	229,268	204,493	210,682	178,946
野球場・ソフトボール場	8	167,812	146,181	132,795	139,190	90,329	99,988
サッカー場・ラグビー場	3	47,619	46,743	59,480	144,609	163,141	136,136
テニスコート	4	114,261	109,514	108,066	184,931	168,292	152,131
プール	2	82,903	81,073	74,978	69,824	63,065	18,750
陸上競技場	1	82,550	80,021	67,947	70,985	26,386	24,514
武道館	1	30,845	29,451	29,467	30,251	28,111	20,268
弓道場	1	12,461	12,333	12,330	13,382	11,756	350
舟艇場	1	8,712	7,905	7,518	7,873	6,938	8,257
（その他の施設）	5	54,339	50,585	48,683	71,174	50,405	33,708
合計	31	1,010,584	1,016,706	961,277	1,161,542	1,010,190	712,578

◆ 学校開放施設の状況

学校施設の開放は市立小中学校の運動場や体育館等で実施され、登録団体数は 626 団体（2020 年度（令和 2 年度））と多くの団体に利用されており、地域スポーツの場として重要な役割を担っています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の休業や学校開放の利用制限等を実施したことから、2019 年度（令和元年度）及び 2020 年度（令和 2 年度）の利用時間数が減少しています。

図表 9 学校開放施設の施設数内訳・利用時間数の推移

区分	施設数	利用時間数（単位:時間）					
		2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
小学校	39	98,790	93,429	96,187	93,563	87,319	82,394
中学校	22	24,988	25,807	26,269	26,327	27,356	22,476
合計	61	123,778	119,236	122,456	119,890	114,675	104,870

注) 小学校には橋北交流会館、旧笹川西小学校を含む。

◆ 地区運動広場の状況

開発行為等に伴い設置された公園にグラウンドやテニスコートが整備された施設などで、地域の利用者等によって維持管理されている地区運動広場は 15箇所あり、多くの地域の人々に利用されています。

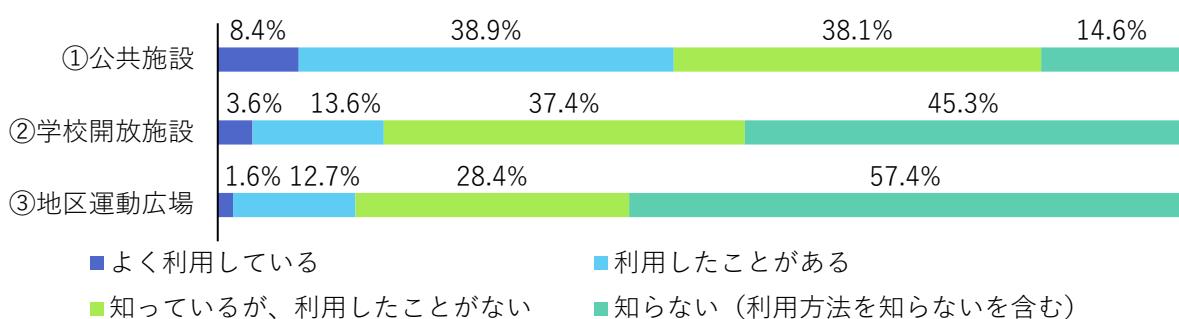
(2)市民のスポーツ施設等の利用状況

市民アンケート調査による市のスポーツ施設の利用実態は以下のとおりです。

①市内の公共スポーツ施設については、「よく利用している」と「利用したことがある」を合わせた、利用したことがある人は 47.3%であり、約半数は利用経験がありました。②学校開放施設は、「よく利用している」と「利用したことがある」を合わせた、利用したことがある人は 17.2%であり、「知らない（利用方法を知らないを含む）」と答えた人は、45.3%と約半数に上ります。③地区運動広場は、「よく利用している」と「利用したことがある」をあわせた、利用したことがある人は 14.3%とさらに少なく、「知らない（利用方法を知らないを含む）」と答えた人は、57.4%と半数を超えていました。

アンケート調査 10

市民のスポーツ施設等の利用状況



7 スポーツ教室、大会・イベントの状況

(1) スポーツ教室の開催状況

本市では、スポーツを始めるきっかけづくりやトップアスリートと触れ合えるようなスポーツ教室を実施しています。

市主催教室については、三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向けて、2017年度(平成29年度)から国体開催種目支援事業として教室数を増やしました。また、2020年度(令和2年度)には、四日市市総合体育館のオープンに伴い、教室数を増やしたことが参加者数の増加につながっています。

指定管理者主催教室については、2020年度(令和2年度)は、新型コロナウイルス感染症の影響によって、参加者数が減少しました。

図表 10 スポーツ教室の開催状況

大会・イベントの区分		2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
市主催教室	教室数(種)	4	3	5	6	8	18
	参加者数(人)	334	342	457	466	719	1,306
指定管理者 主催教室	教室数(種)	67	75	75	72	70	65
	参加者数(人)	4,517	4,871	4,660	4,770	4,630	3,241
合計	教室数(種)	71	78	80	78	78	83
	参加者数(人)	4,851	5,213	5,117	5,236	5,349	4,547

(2) 大会・イベントの開催状況

本市では、市民がスポーツに親しむことができるようさまざまなスポーツ大会やイベントを実施しています。

市民大会・イベントについては、2017年度(平成29年度)、2018年度(平成30年度)において、四日市シティロードレースが中止となり参加者数が減少しました。

スポーツ推進委員関係の大会・イベントについては、2019年度(令和元年度)において、市民スポーツフェスタが中止となり参加者数が減少しました。

四日市市スポーツ協会関係の大会・イベントについては、2016年度(平成28年度)において、総合駅伝大会が中止となり参加者数が減少しました。

総合型地域スポーツクラブ関係の大会・イベントについては、開催する内容によって参加者数の増減はありますが、2019年度(令和元年度)において、四日市市総合型地域スポーツクラブ協議会合同イベントのグラウンド・ゴルフ大会が中止となり参加者数が減少しました。

2020年度(令和2年度)については、新型コロナウイルス感染症の影響により、全体的に参加者数が減少しました。

図表 11 大会・イベントの開催状況

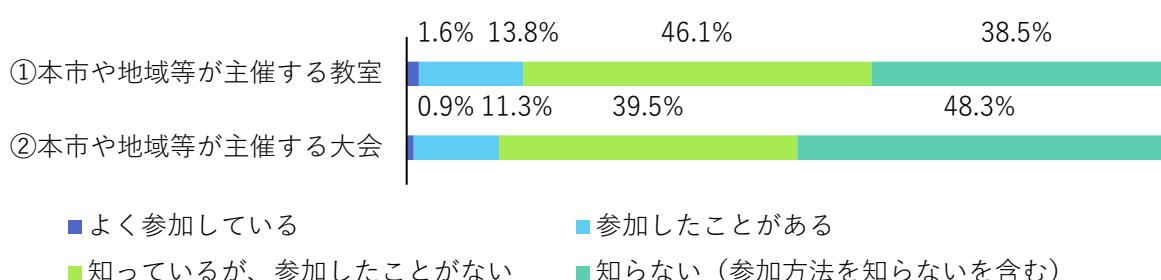
大会・イベントの区分		2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
市主催の 市民大会等	事業数（種目）	3	3	2	2	3	1
	参加者数（人）	4,587	4,993	1,232	463	3,294	381
スポーツ推進 委員関係	事業数（種目）	6	6	6	6	5	5
	参加者数（人）	2,786	2,475	2,828	2,846	399	348
四日市市スポーツ 協会関係	事業数（種目）	13	12	12	13	11	5
	参加者数（人）	4,462	3,316	3,260	3,420	3,240	992
四日市市レクリエ ーション協会関係	事業数（種目）	8	7	7	7	7	1
	参加者数（人）	2,039	1,939	1,734	2,020	1,982	103
少年スポーツ大会	事業数（種目）	8	8	7	8	7	4
	参加者数（人）	2,424	2,414	2,420	2,329	1,960	1,341
総合型地域スポーツ クラブ関係	事業数（種目）	7	7	7	9	5	5
	参加者数（人）	1,990	1,653	1,212	1,085	630	818
合計	事業数（種目）	45	43	41	45	38	21
	参加者数（人）	18,288	16,790	12,686	12,163	11,505	3,983

(3)スポーツ教室や大会・イベントに対する市民の意識

市民アンケート調査による、スポーツ教室についての市民の参加意向は、「よく参加している」及び「参加したことがある」を合わせ、参加経験のある人は 15.4%となっています。一方、「知っているが参加したことがない」と答えた人が 46.1%で、「知らない」と答えた人の 38.5%より多くなっています。

大会・イベントは、「よく参加している」及び「参加したことがある」を合わせた、参加経験のある人は 12.2%と、スポーツ教室よりもさらに少なくなっています。また、「知らない」と答えた人は 48.3%とほぼ半数となっています。

アンケート調査 11 スポーツ教室や大会・イベントに対する意識



8 新型コロナウイルス感染症のスポーツ活動への影響

(1)市民のスポーツ活動への影響

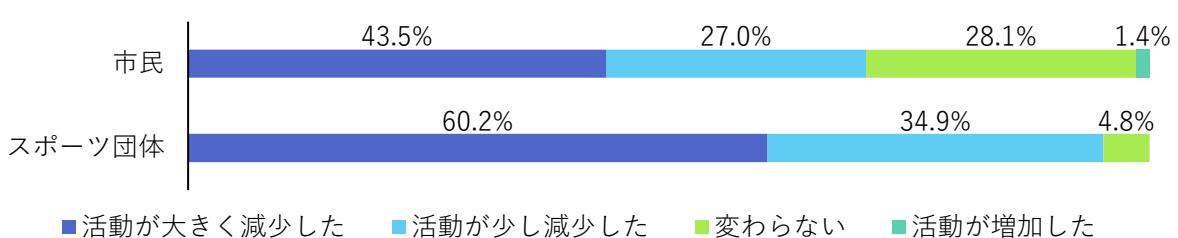
新型コロナウイルス感染症は、2019年（令和元年）12月に確認されて以降、世界中で猛威を振るい、日本でも2020年（令和2年）3月に小中学校が一斉に休校になり、4月には全国を対象に緊急事態宣言が発出され、2021年（令和3年）においても、8月には三重県に2度目の緊急事態宣言が発出されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年（令和2年）に開催される予定だった東京2020オリンピック・パラリンピックが1年延期されて2021年（令和3年）に開催され、本市においても2021年（令和3年）3月の開催を予定していた「四日市ハーフマラソン」を当分延期し、2021年（令和3年）の開催を目指して準備を進めていた三重とこわか国体・三重とこわか大会が中止となるなど、多くのスポーツイベントにも影響を与えただけでなく、人々の行動への制約は今でも続いている。新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐためには「密閉」「密集」「密接」の3密と言われる状態を避けるなど新しい生活様式を実践する必要があり、運動・スポーツ活動に大きな影響を与えています。

市民アンケート調査では、「活動が大きく減少した」と答えた人が43.5%に上り、「活動が少し減少した」と答えた人と合わせて約7割の人が、運動・スポーツ活動が減少したと答えています。

団体アンケート調査では、「活動が大きく減少した」と答えた団体は60.2%と半数を超えており、「活動が少し減少した」と答えた団体と合わせると95.1%とほとんどの団体が影響を受けています。

このように新型コロナウイルス感染症の影響により、個人も団体も運動・スポーツ活動が大きく制約を受けています。

アンケート調査12 新型コロナウイルス感染症へのスポーツ活動への影響（市民・団体）



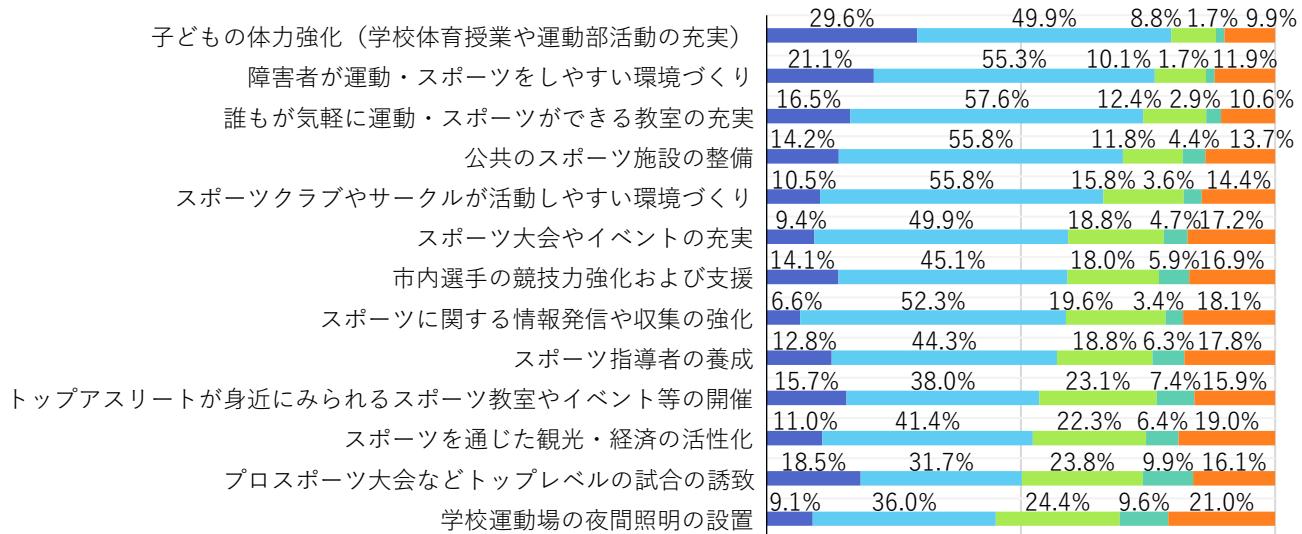
9 本市のスポーツ推進についての意見

スポーツ振興に関する13のテーマについて、力を入れるべきかどうかを市民及びスポーツ推進委員アンケート調査でたずねました。下のグラフは、「特に力を入れるべき」及び「力を入れるべき」と答えた人の割合の合計が多い順に並べ替えをしています。

アンケート調査13

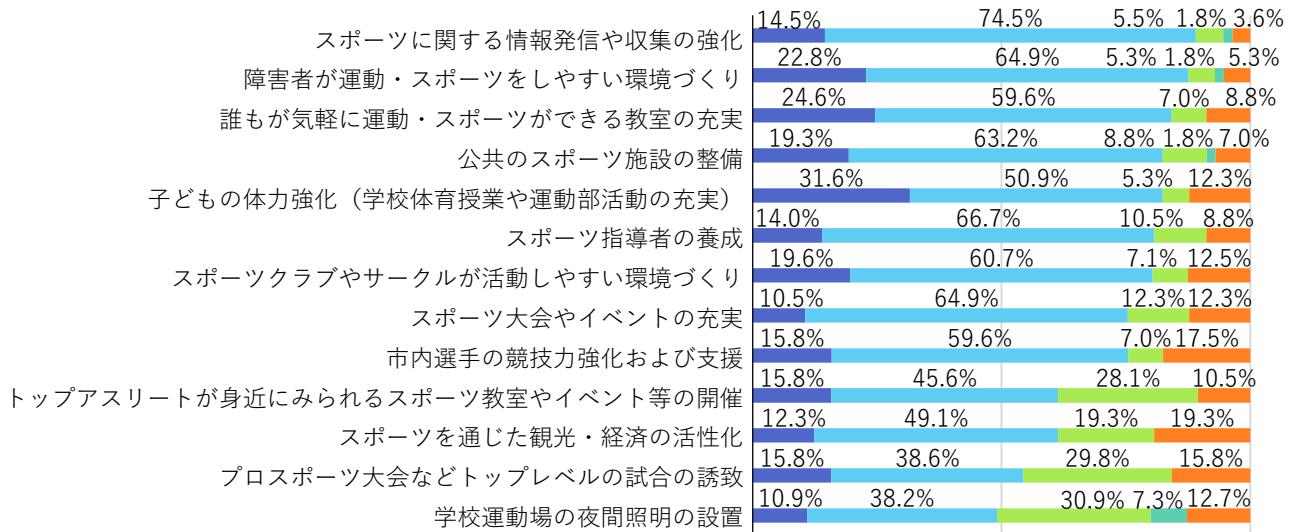
スポーツ振興で力を入れるべき13のテーマ

【市民アンケート】



■特に力を入れるべき ■力を入れるべき ■あまり力を入れなくてもよい ■力を入れなくてもよい ■わからない

【スポーツ推進委員アンケート】



■特に力を入れるべき ■力を入れるべき ■あまり力を入れなくてもよい ■力を入れなくてもよい ■わからない

市民アンケート調査では、「子どもの体力強化（学校体育授業や運動部活動の充実）」が最も高く、「障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり」が続いています。一方、スポーツ推進委員アンケート調査では、「スポーツに関する情報発信や収集の強化」が最も高く、2番目は市民と同じで「障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり」が続いています。

【スポーツ振興で力を入れるべきテーマ 上位5項目】

市民アンケート			スポーツ推進委員		
1	子どもの体力強化（学校体育授業や運動部活動の充実）	79.5%	1	スポーツに関する情報発信や収集の強化	89.0%
2	障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり	76.4%	2	障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり	87.7%
3	誰もが気軽に運動・スポーツができる教室の充実	74.1%	3	誰もが気軽に運動・スポーツができる教室の充実	84.2%
4	公共のスポーツ施設の整備	70.0%	4	公共のスポーツ施設の整備	82.5%
5	スポーツクラブやサークルが活動しやすい環境づくり	66.3%	4	子どもの体力強化（学校体育授業や運動部活動の充実）	82.5%

10 現状と課題のまとめ

(1)市民がスポーツ活動に取り組むための課題

① 子どものスポーツ活動推進の必要性

子どもの体力強化は市民及びスポーツ推進委員調査のいずれでも関心が高く、また子どもの頃のスポーツ経験は成人してからのスポーツ活動を高めることが判明しており、特に幼少期からスポーツの楽しさを経験することも、生涯スポーツの実践につながります。

一方、本市の子どもの体力水準については、学校体育の取り組み等により一定の成果が表れてきていますが、全国や県よりも下回る年もあるため、体力強化に取り組む必要があります。

子どものスポーツ活動を推進するには、学校の授業や部活動を通じた取り組み、スポーツ少年団等の取り組み、子どもがスポーツに触れるきっかけをつくる取り組みが重要です。また、保護者に子どもがスポーツを実施することによる効果を理解してもらい、子どもがスポーツを実施しやすくする取り組みも必要となります。

②ビジネスパーソンのスポーツ活動の推進

ビジネスパーソンの約半数が定期的な運動ができていないという状況の中、スポーツ活動を実施しない理由のうち「忙しいから」が最多く、「機会がないから」「面倒だから」が続いている。一方、「美容・ダイエット」、「ストレス解消」を目的にスポーツ活動を行う人が多くみられます。

定期的なスポーツ活動は、心身の健康を高めることに加え、高齢者になったときの運動の習慣化につながります。仕事や子育てで多忙な年代の人のスポーツ活動を促進するためには、ニーズに応じた環境やプログラムが求められます。

③高齢者、障害者のスポーツ活動の推進

高齢者の健康に対する意識は高く、また仲間との交流の場としてスポーツを実施される方多くみられます。高齢者のスポーツに対する意識が高まることは、介護予防や健康寿命の延伸などの効果につながります。一方で、体の不調や高齢であることを理由にスポーツを実施しない人も多くみられます。

高齢者が身近な場所で、気軽に健康状況に応じた運動・スポーツを行うことができる環境を整備することが重要であり、また運動・スポーツを通じて地域の人や多世代と交流し、高齢者の社会参加や生きがいづくりにつなげることが求められます。

また、東京 2020 パラリンピックで活躍する選手が注目を浴びるなど、近年障害者スポーツは競技性が向上しており、従来の福祉の観点のみならずスポーツ振興の観点からも推進していく必要性が高まっています。一方で、障害者がスポーツを行う環境はまだ十分とは言えない状況です。東京 2020 パラリンピックの開催を契機に、障害者がスポーツを行う環境を充実させるとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、地域でスポーツを通じて障害者との交流が生まれる体制づくりが必要です。

④新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を踏まえたスポーツの振興

新型コロナウイルス感染症の流行は、市民や団体のスポーツ活動を減少させただけでなく、リモートワークや在宅授業の普及、ネット通販や飲食の取り寄せの興隆など、生活様式の一部に変化を生じさせています。現在、新型コロナウイルス感染症はまだ収束を見通すことができないため、万全の感染防止対策を講じながら事業を実施するとともに、スポーツ施設においては、検温や手指消毒器具の配備など感染防止対策を講じて市民が安心してスポーツを楽しむことができる環境を整えることが必要です。

感染症が収束した後も、感染防止のためのさまざまな取り組みを契機に、プロスポーツの鑑賞がネットを通じて容易にできたり、スポーツによる地域交流がSNSを通じて行われるなど、スポーツも新たな動きが加速することが考えられます。

新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えて、スポーツ活動を迅速に再開できるよう支援するとともに、新しい生活様式に対応していくことができるよう取り組むことが求められます。

(2)環境整備に関する課題

①スポーツ関連団体への支援充実と指導者の育成

身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備するためには、地域でさまざまなスポーツ団体が活発に活動をしていることが重要です。一方で、多くのスポーツ団体は会員や団員の減少が課題となっており、スポーツ団体の活動や、指導者育成を支援することが必要です。

また、大規模スポーツイベントの開催に向けてボランティアを募集し、運動・スポーツ活動を支える人材の育成・確保が必要です。

②スポーツ施設・設備の整備と活用

四日市市スポーツ施設整備計画に基づき、三重とこわか国体・三重とこわか大会の競技会場として、新たに総合体育館、中央フットボール場、四日市テニスセンター、霞ヶ浦第3野球場の整備を2021年度（令和3年度）までに完了したほか、中央陸上競技場など老朽化した既存施設を順次改修してきました。

一方、まだ多くの施設は経年に伴う劣化等が進んでおり、市全体の四日市市公共施設個別施設設計画及びスポーツ施設整備計画に基づき計画的な改修を行うとともに、新施設についても天然芝、人工芝、サーフェスや設備等の機能を維持するために、利用方法に応じた維持管理並びに計画的な設備更新・改修が必要です。改修にあたっては地球温暖化対策の観点を踏まえるとともに、バリアフリー化など、年齢、性別や障害の有無等に関わらず、すべての人々が安全にかつ快適にスポーツを楽しむことのできる施設にすることが必要です。

また、これまでの高規格、大規模な施設の整備や改修により、プロスポーツや全国大会等の大規模スポーツ大会の開催のための基本的機能は備えるものの、大規模大会等の開催に必要な備品やミーティングルームなど不足する付帯諸室・設備を加える必要があります。

さらに、中央緑地内スポーツ施設は、複数競技の大会が重なると周辺道路の渋滞や駐車場が不足します。最寄り駅の四日市あすなろう鉄道日永駅及び近鉄新正駅からの動線となる歩道整備を完了しており、路線バスとともに公共交通の十分な周知による利用促進と渋滞緩和に向けた調査研究が必要です。

③情報提供および発信の充実

市民アンケート調査では、スポーツ教室やイベントについて「知らない」と答えた人が3割を超え、また、大会・イベントに至っては半数近くの人が「知らない」と回答しています。

一方で、スポーツ推進委員へのアンケートでは情報発信や収集について「力を入れるべき」と答えた人が約9割を占めるなど、情報提供や発信については積極的に行う必要があります。特に、新型コロナウイルス感染症の収束後、元の活動状況に戻したり、新しい環境に適応させるためにも情報提供及び発信が重要になります。関連団体、関連部署との連携を図りながら充実させることが必要です。

(3) スポーツによる地域づくりの課題

① スポーツ教室、イベントの充実

ビジネスパーソンは「忙しいから」「機会がないから」「面倒だから」を理由に約半数が定期的な運動ができていないという状況です。一方で、「美容・ダイエット」、「ストレス解消」を目的にスポーツ活動を行う人が多くみられます。

また、高齢者は「高齢だから」「身体的な理由のため」を理由に約半数が定期的な運動ができていないという状況の中、「仲間との交流」を目的にスポーツ活動を行う人が多くみられます。

さらに、本市や地域が主催するスポーツ教室や大会・イベントは、市民アンケートでは参加したことがある人は1~2割にとどまっています。スポーツ教室は約4割を超える人が「知っているが参加したことがない」と答えており、大会・イベントは約半数の人が「知らない」と答えています。

スポーツ教室や大会・イベントは、スポーツを実施していない人が始めるきっかけとなるものであり、スポーツ人口を拡大するためにも重要です。スポーツ教室や大会・イベントについて、多様化する市民ニーズに対応できるよう対象や内容を検討するとともに、情報発信についても強化することが必要です。

② 総合型地域スポーツクラブの育成

総合型地域スポーツクラブは「多種目・多世代・多志向」という特徴をもった地域住民により運営されるスポーツクラブです。地域の特性を活かした世代を超えた交流事業を展開するなど、地域コミュニティの活性化に貢献をしています。

本市では7つの総合型地域スポーツクラブがありますが、ほとんどが設立から10年以上を経過し、育成期から安定期に移行しつつあるものの会員数は減少傾向にあります。さらなる活性化を目指し新規会員の加入促進と会員の定着、指導者やスタッフの確保と育成を図ることが必要です。

③ スポーツに触れる機会の不足

市民アンケート調査では、スポーツの観戦について、メディアで観戦したことがあると答えた人は89.6%いる一方で、直接、競技場などで観戦したことがあると答えた人は13.2%にとどまり、25.2%の人が「会場が遠いから」を理由としています。

トップアスリートによるトップレベルの競技を身近で観戦できる機会を創出するためのプロスポーツや全国大会等大規模スポーツ大会の誘致、ホームタウンチームの浸透などを図りながら市民がスポーツの魅力を感じることのできる「観る」スポーツの環境づくりが必要です。

第3章 スポーツ推進の基本的な考え方

【施策の体系】

目標像	基本政策	基本方針	基本施策
スポーツによる活気あるまちづくり～活力のある生活の実現～	I 誰もがスポーツに親しみを持てる機会の提供	1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	①誰もが参加しやすいスポーツイベント・教室の充実 ②体力・健康づくりのための運動・スポーツ活動の推進 ③障害のある人のスポーツ機会の充実
	II スポーツを支える環境の充実	2 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実	①スポーツに親しむきっかけづくり ②子どもの体力・運動能力向上のための支援 ③スポーツを親子で楽しむ機会の充実
	III スポーツによる地域活性化の推進	3 競技力向上・スポーツを支える人材の育成	①競技力向上のための支援 ②スポーツ指導者等の育成・支援 ③総合型地域スポーツクラブの活動支援 ④スポーツ関連団体の活動支援
		4 安全で快適なスポーツ施設の管理運営	①スポーツ施設の適正管理 ②安全・安心な環境整備 ③スポーツ施設の利用促進
		5 スポーツを通じた交流の促進	①大規模スポーツイベント等の誘致 ②スポーツイベントの開催によるシティプロモーション ③ホームタウンチーム・トップアスリートと連携した取り組み
		6 情報提供・発信の充実	①スポーツに関する情報提供・発信の充実

1 目標像

スポーツによる活気あるまちづくり ～活力のある生活の実現～

スポーツは生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠なものであり、青少年の体力向上と人格形成に大きな影響を与え、多世代の交流や生きがいを生み出します。

本市は、市民がそれぞれの目的（健康、生涯スポーツ、競技スポーツ等）に応じて「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも」、さまざまな形でスポーツを「する、観る、支える」ことができ、スポーツを通じて健康づくり、仲間づくり、生きがいづくりを促進し、市民の活力のある生活を実現できるよう取り組みます。

加えて、2020年（令和2年）にオープンした四日市市総合体育館をはじめとしたスポーツ施設では、プロスポーツイベントや全国大会等、市内でさまざまな大規模スポーツイベントが開催され、市外から多くの参加者、観戦者が本市を訪れる「スポーツによる活気あるまちづくり～活力のある生活の実現～」を目標像とします。

2 基本政策

本市は、目標像の「スポーツによる活気あるまちづくり」を実現するため、市民、スポーツ関連団体、事業者等と相互に協力して、「Ⅰ誰もがスポーツに親しみを持てる機会の提供」「Ⅱスポーツを支える環境の充実」「Ⅲスポーツによる地域活性化の推進」の3つの基本政策を定めて取り組みを進めます。

取り組みを進めるにあたっては、三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けて整備したスポーツ施設と競技団体が培った競技力や競技会運営ノウハウを活用し、東京2020オリンピック・パラリンピックの盛り上がりを今後のスポーツ振興に活かすとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中長期に渡り感染症対策と向き合う新たな生活様式の中でのスポーツ振興を図ります。

Ⅰ 誰もがスポーツに親しみを持てる機会の提供

市民が、年齢、性別や障害の有無等に関わらず、それぞれの目的に応じてスポーツを楽しむ（「する」）ことができるような取り組みとして「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」を基本方針に定め、市民がスポーツを始めるきっかけづくりや、障害の程度や年齢に関わらずスポーツに親しむことができるよう、レクリエーションスポーツや障害者スポーツ等の普及に努めます。また、幼少期から生涯にわたり、スポーツを楽しむ（「する」）ができるような取り組みとして「子どもの体力向上とスポーツ活動の充実」を基本方針に定め、子どもの頃からスポーツに親しみを持てる機会の充実と、子どもの体力・競技水準の向上に努めます。

II スポーツを支える環境の充実

スポーツを実施している市民の競技レベルの向上を支援（「支える」）する取り組みとして「競技力向上・スポーツを支える人材の育成」を基本方針に定め、スポーツの取り組みに対する支援を行うとともに、スポーツ指導者やボランティアなどのスポーツを支える人材の育成などの支援に努めます。

また、多世代・多種目・多志向のスポーツ振興に取り組む総合型地域スポーツクラブをはじめとした各種スポーツ団体の支援（「支える」）を行い、スポーツに取り組む市民に対する間接的な支援に努めます。

さらには、安全・安心にスポーツに取り組める（「支える」）よう「安全で快適なスポーツ施設の管理運営」を基本方針に定め、スポーツ施設の適切な維持管理を行うとともに、利用促進に努めるなど、スポーツを支える環境の充実を図ります。

III スポーツによる地域活性化の推進

市民がスポーツを楽しむ（「観る」）ことができるよう、また、市外の人に本市を知って（「観せる」）もらえるよう「スポーツを通じた交流の促進」を基本方針に定め、大規模スポーツ大会の誘致やホームタウンチームと連携・協働した取り組みを進めます。

また「情報提供・発信の充実」を基本方針に定め、本市のさまざまなスポーツ活動の積極的な情報提供及び発信によって市民のスポーツ活動の促進とシティプロモーションに努めます。

3 基本方針

本計画では、3つの基本政策、「Ⅰ誰もがスポーツに親しみを持てる機会の提供」「Ⅱスポーツを支える環境の充実」「Ⅲスポーツによる地域活性化の推進」に基づき、施策を推進する方向性として、以下の6つの基本方針を定めます。

基本政策Ⅰ 基本方針1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

年齢、性別や障害の有無等に関わらず、市民の誰もが、運動・スポーツに親しみを持つために、運動・スポーツを始めるきっかけとなるような取り組みや、体力・健康づくり等市民のニーズに応じた事業を実施します。

実施にあたっては、スポーツ実施率が低い子育て世代、ビジネスパーソンが参加しやすいよう託児付き教室の充実や日程等に配慮するとともに、高齢者でも無理なく参加できる種目を取り入れます。

また、東京2020パラリンピックで注目を集めたボッチャなどの障害者スポーツの大会や普及を目指したイベントを開催する等、障害の程度に関わらず、それぞれのライフステージに応じてスポーツを楽しむことができるよう取り組みます。

基本政策Ⅰ 基本方針2 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実

子どもがスポーツを始めるきっかけとなるスポーツイベントを開催することにより、子どもがスポーツに親しみを持つことができる機会の充実を図ります。

また、親子で参加できる事業を実施し、体を動かす楽しさや喜びを親子で体感できるような取り組みを行い、スポーツを親子で楽しみ、子どもがスポーツを実施するための環境づくりに取り組みます。

さらに、学校体育を充実させることで子どもの体力の向上を図るとともに、スポーツ活動の充実を図ります。

基本政策Ⅱ 基本方針3 競技力向上・スポーツを支える人材の育成

世界大会や全国大会等の出場者への激励金やスポーツ顕彰制度の充実等を行い、スポーツの活動に対する支援を行うとともに、市民の競技力向上を図るためのトップアスリート等によるスポーツ教室等を開催します。

また、スポーツを支える人材の育成として、スポーツ指導者に対する支援や顕彰等に取り組むとともに、四日市ハーフマラソン等の大規模スポーツイベントの実施の際には、スポーツボランティアの発掘、育成に努めます。

さらに、総合型地域スポーツクラブをはじめとしたスポーツを支える各種スポーツ団体の活動を支援することで、多様なスポーツの振興、地域スポーツの促進、競技力の向上等を図り、スポーツ人口の拡大に努めます。

基本政策Ⅱ 基本方針4 安全で快適なスポーツ施設の管理運営

施設利用者が安全・安心、快適に利用できるように新型コロナウイルス感染症対策を含めた施設の適正な管理運営を行うとともに、大会運営等に支障が生じないように計画的な修繕等に努めます。また、老朽化した施設の大規模改修を行う際には、ユニバーサルデザインをはじめとした誰もが快適に利用できる施設としての環境整備も併せて検討します。

なお、施設の有効利用を図るため市民のニーズに合った、一般公開やスポーツ教室等を開催するとともに、市民利用とのバランスも踏まえた大規模スポーツ大会等の誘致に努めます。

基本政策Ⅲ 基本方針 5 スポーツを通じた交流の促進

国際大会、全国大会や国内トップレベルのリーグ戦等大規模スポーツ大会の誘致により、市民がトップレベルのスポーツを「観る」機会を提供するとともに、四日市ハーフマラソン等のスポーツイベントの開催と合わせて、市外からの集客を行う等、スポーツを通じた地域活性化、交流の促進に努めます。

また、市民が地域に根差したホームタウンチームの応援やホームタウンチームと連携したスポーツ教室等の取り組みを実施することで、市民が直接スポーツに触れる機会の充実や市民の連帯感の醸成に努めます。

基本政策Ⅲ 基本方針 6 情報提供・発信の充実

本市のホームページや広報よっかいちのほか、地域スポーツの振興に関する包括連携協定により開設した「スポーツタウン四日市」の活用など、多様な手段による積極的な情報提供・発信の充実を図り、市民が自分に合ったスポーツ活動を知り、参加することができる環境の構築に努めます。

また、シティプロモーションを促進するため、ホームタウンチームや本市ゆかりのアスリートによる本市の情報発信に努めます。

4 計画の推進にあたっての考え方

①東京 2020 オリンピック・パラリンピックと三重とこわか国体・

三重とこわか大会に向けて培ったレガシーの継承

2021 年（令和 3 年）に東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催され、本市出身の向田真優選手のレスリング女子 53 kg 級金メダルをはじめ、日本がオリンピックで過去最多のメダルを獲得、パラリンピックで過去 2 番目のメダルを獲得するなど盛り上がりを見せ、本市においてもオリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバルが開催されて市民のスポーツや障害者スポーツ、アスリートへの関心が高まりました。また、四日市市総合体育館ではカナダ体操チームが事前キャンプを行うなどオリンピックを通じた国際交流が行われました。

2021 年（令和 3 年）に開催予定だった三重とこわか国体・三重とこわか大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になりましたが、両大会に向けて整備した施設と培い蓄積された選手の競技力、競技団体の競技会運営ノウハウや市民や各種団体で醸成されたスポーツの気運の高まりを活用し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの盛り上がりを今後のスポーツ振興に活かしていきます。

②スポーツ関連団体との連携

市内には地域で市民が主体となって多世代・多種目・多志向のスポーツ振興のための取り組みを行っている総合型地域スポーツクラブ等の団体や、競技力の向上や普及などの取り組みを行っている各競技団体が加盟する四日市市スポーツ協会をはじめとしたスポーツ関連団体があります。本市がスポーツ振興を進めていくうえでは、スポーツ関連団体の役割は重要であり、「みんなのスポーツ応援条例」にも規定されているとおり、スポーツ関連団体と密接に連携してスポーツ振興を目指して取り組んでいきます。

③SDGs とスポーツ振興

「SDGs」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年（平成 28 年）から 2030 年（令和 12 年）までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されています。国連は「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである」としています。

本市がスポーツ振興の取り組みを進めるにあたっては、SDGs の目標 3「すべての人に健康と福祉を」をはじめとする目標を念頭において取り組んでいきます。

④新たな時代に対応したスポーツ振興

国は、目指すべき未来社会の姿として「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」（「Society 5.0」）という概念を発表しています。

このような新たな時代において、スポーツ分野においても、トップアスリートのトレーニングにおいてＩＣＴ技術が不可欠なものとなっており、アスリートから介護予防のために運動をする高齢者まで一人ひとりに適した運動・スポーツの実施や指導も可能になるといわれています。また、ＩＣＴやデータ活用による施設の維持管理・更新の効率化も期待できます。

今後、新しい考え方や技術等を取り入れながら、新たな時代に対応してスポーツ振興を推進していきます。

⑤地球温暖化対策の推進

温室効果ガス排出量削減に向けて、スポーツ施設の省エネルギー化や照明器具のＬＥＤ化を進めるとともに、新エネルギー設備や効率的なエネルギーシステムの導入を検討します。

また一人ひとりがC O O L C H O I C E（賢い選択）を心がけ、スポーツ活動の中でもできる地球温暖化対策に取り組んでいきます。

⑥新型コロナウイルス感染症対策について

現在、新型コロナウイルス感染症の収束は見通せていないため、市が実施するスポーツ振興のための事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じて事業を実施していきます。その際は、参加者の健康確認・検温の徹底や3密回避に十分に留意していくこととし、自由参加など参加者の健康確認が難しい事業については、事業内容の見直しや事業中止を含めて検討します。

また、運動・スポーツは肥満防止や免疫力の向上の効果が期待でき、新型コロナウイルス感染症をはじめとしたウイルス感染症予防や生活習慣病予防としても有効であることから、運動・スポーツの習慣化を推進していきます。

【成果指標一覧】

基本方針	項目	現状	目標
1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	市民の週1回以上の運動・スポーツの実施率	R2 47.9% (H28 49.9%)	70%
	スポーツイベント・教室の参加人数	R2 3,983人 (H30 12,163人)	25,000人
2 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実	「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学生 男子 71.3% 女子 52.0%	小学生 94.0%
		中学生 男子 63.5% 女子 44.3%	中学生 88.0%
3 競技力向上・スポーツを支える人材の育成	全国大会等出場選手激励金の交付延べ人数	R2 413人 (H30 1,025人)	1,300人
	過去1年間にスポーツ指導またはスポーツに関するボランティア活動を行った割合	R2 2.9% (H28 5%)	10%
4 安全で快適なスポーツ施設の管理運営	スポーツ施設利用者数	R2 712,578人 (H30 1,161,542人)	1,300,000人
5 スポーツを通じた交流の促進	直接、競技場等でスポーツを観戦した割合	R2 13.2% (H28 27.5%)	35%
	スポーツ関連の事業補助金の活用件数	R2 6件 (H30 8件)	20件
6 情報提供・発信の充実	市内の公共スポーツ施設の認知度	R2 85.4%	90%
	市主催の大会・イベントの認知度	R2 51.7%	70%

◆ 基本方針1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【現状と課題】

ビジネスパーソン世代の30歳代から50歳代の市民は「忙しいから」「機会が無いから」「面倒だから」との理由で定期的な運動をしていない一方で、「美容・ダイエット」や「ストレス解消」のために、スポーツ活動を行う人が多く見えます。こうしたことから、ビジネスパーソンのニーズに合ったスポーツ教室の開催などが必要です。

また、60歳以上の高齢者の中には仲間との交流の場としてスポーツ活動を行う人も多く見られますが、「高齢だから」または、「身体的な理由のため」との理由で定期的な運動ができていません。こうしたことから、高齢者が身近な場所で、気軽に健康状況に応じた運動・スポーツを行うことができる環境を整備することが重要であり、また運動・スポーツを通じて地域の人や多世代と交流し、高齢者の社会参加や生きがいづくりにもつなげていくことが必要です。

さらに、東京2020パラリンピックで活躍する選手が注目を浴びるなど、近年障害者スポーツは競技性が向上しており、従来の福祉の観点のみならずスポーツ振興の観点からも推進していく必要性が高まっています。一方で、障害者がスポーツを行う環境はまだ十分とはいえず、障害者がスポーツを行う環境を充実させるとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき、地域でスポーツを通じて障害者との交流が生まれる体制づくりが必要です。

【成果指標】

項目	現状	目標
市民の週1回以上の運動・スポーツの実施率	R2 47.9% (H28 49.9%)	70%
スポーツイベント・教室の参加人数	R2 3,983人 (H30 12,163人)	25,000人

■ 基本施策1-① 誰もが参加しやすいスポーツイベント・教室の充実

運動・スポーツに取り組む市民を増やすために、広い年代の誰もが参加しやすいスポーツイベント・教室を充実させます。特に、ビジネスパーソンや子育て世代、高齢者など、年代ごとの特徴に配慮したイベント・教室を開催します。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
四日市市民スポーツフェスタ、四日市市レクリエーション大会、各種市民スポーツ大会の開催	スポーツ推進委員、スポーツ協会、レクリエーション協会と連携して市民が参加しやすいイベントを開催します。また、参加者の増加につながる工夫も行います。	スポーツ課

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
ファミリーロゲイニング大会の開催	スポーツ実施率が比較的低い子育て世代をターゲットとした、家族で取り組めるアウトドアスポーツのロゲイニング大会を開催します。	スポーツ課
四日市サイクル・スポーツ・フェスティバルの開催	青少年の自転車競技への関心を高めるとともに、サイクルスポーツの全国大会開催を通じて地域の活性化を図ります。	観光交流課
市民ウォーキング大会、グラウンド・ゴルフ大会の開催	スポーツ推進委員と連携して高齢者に人気のあるウォーキング大会やグラウンド・ゴルフ大会を開催します。	スポーツ課
総合型地域スポーツクラブの自主事業・イベントの支援	多世代にわたって多くの人がスポーツに親しめるよう、総合型地域スポーツクラブが地域で実施する自主事業やイベントを支援します。	スポーツ課
スポーツ教室の充実	スポーツ施設及び四日市ドームにおいて、世代やニーズに合った魅力あるスポーツ教室を開催します。また、スポーツ実施率が比較的低いビジネスパーソンが参加しやすい日程や託児付きの教室を拡充します。	スポーツ課
高齢者大運動会の支援	高齢者の健康保持や地域内の老人クラブ間の交流等を目的として四日市老人クラブ連合会が開催する高齢者大運動会の事業費を補助します。	高齢福祉課



四日市ファミリーロゲイニング大会

■ 基本施策 1-② 体力・健康づくりのための運動・スポーツ活動の推進

市民の体力維持・向上のため、健康に主眼をおいたヨガ・ストレッチ等の教室や軽スポーツを気軽に体験できる教室をスポーツ施設の指定管理者等と連携して開催します。また、高齢者等を対象とした地域での自主的な取り組みに対して支援します。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
健康系スポーツ教室事業の開催	スポーツ施設及び四日市ドームにおいて、指定管理者と連携してヨガ・ストレッチ教室等多様化する市民ニーズに対応したスポーツ教室を開催します。	スポーツ課
ファミリー健康体力測定会の開催	スポーツ推進委員と連携し、自分の体力を測定・把握し、健康的な生活習慣を身につけることを目的に多世代を対象とした体力測定会を開催します。	スポーツ課
総合型地域スポーツクラブの自主事業・イベントの支援 【再掲】	多世代にわたって多くの人がスポーツに親しめるよう、総合型地域スポーツクラブが地域で実施する自主事業やイベントを支援します。	スポーツ課
市民の健康づくりの推進	自然と健康づくりに関心をもつききっかけとなるよう、歩くことやからだを動かすことを積極的に進め、楽しみながら健康づくりに親しむ環境づくりを進めます。	健康づくり課
健康ボランティアと連携した健康づくりの推進	健康づくりに取り組む機会を広げ、機運が高まるよう、健康ボランティアを養成し、地域での健康づくりの普及や実践方法の伝達を推進します。	健康づくり課
市民が身近な場所で参加できる教室・イベントの開催	地区市民センターなど市民が身近な場所で気軽に参加することができる運動・スポーツの教室・イベントの充実を図ります。	市民生活課 地区市民センター
スポーツ関連団体、民間スポーツクラブ・事業者のノウハウを活用した事業の実施	スポーツ関連団体、民間スポーツクラブ・事業者のノウハウを活用し、市民が運動・スポーツを楽しむことができる事業を実施します。	スポーツ課
民間スポーツクラブと連携した健康づくり事業の実施	ファミリー健康体力測定会の結果を基に、民間スポーツクラブで体組成計測や健康づくりのための運動アドバイスを実施します。	スポーツ課

■ 基本施策 1-③ 障害のある人のスポーツ機会の充実

東京 2020 パラリンピックの開催により障害者スポーツの認知度は高まっている一方で、障害のある人のスポーツ実施率はまだ低い状況です。関連団体と連携して障害者スポーツの普及促進を目指して普及事業や大会を開催するとともに、施設のバリアフリー化や施設利用料の減免を実施し、障害のある人が障害の程度や年齢にかかわらずスポーツをしやすい環境の整備に努めます。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
障害者スポーツの普及事業の実施	障害者団体をはじめ、さまざまな団体と連携しながら、障害者スポーツの普及事業を実施します。	障害福祉課 スポーツ課
障害者スポーツの大会の開催	障害者団体をはじめ、さまざまな団体と連携しながら、東京 2020 パラリンピックで注目を集めたボッチャ等の障害のある人もない人も楽しむことができる障害者スポーツの大会を開催します。	スポーツ課
スポーツ・レクリエーション大会の補助	障害のある人の社会参加を促進し、健康で文化的な生活を営むため、スポーツ・レクリエーション大会の補助等スポーツ・レクリエーションの振興に努めます。	障害福祉課
スポーツ施設利用料の減免等	日頃スポーツをする機会の少ない障害のある人に、健康の増進や体力の増強をしていただくために、スポーツ施設の利用料の減免等を行います。	スポーツ課 障害福祉課
スポーツ施設のバリアフリー化及び環境負荷低減の推進	すべての人々のスポーツの機会を広げるため、スポーツ施設の改修にあわせて「する」「観る」の視点でのバリアフリー化を進めるとともに、環境負荷低減に向け照明の LED 化等を進めます。	スポーツ課
障害者スポーツ指導者の育成	障害者スポーツに取り組むスポーツ推進委員をはじめ、障害者スポーツ指導者資格の取得を支援します。	スポーツ課

◆ 基本方針 2 子どもの体力向上とスポーツ活動の充実

【現状と課題】

本市の子どもの体力水準は、過去 6 年間でみると上昇傾向にあり、一定の成果が表れてきていますが、全国や県よりも下回る年もあるため、体力強化に取り組む必要があります。一方で、幼少期のスポーツを経験することは、成人してからのスポーツ活動を高めることも判明しています。さらには、市民アンケート調査の結果に最も重視すべき施策として「子どもの体力強化」が選ばれているように、子どもがスポーツを実施しやすくする取り組みが求められています。

また、全国的にもスポーツをする子どもとしない子どもの二極化がみられます。子どものスポーツ活動を推進するには、学校の授業や部活動を通じた取り組み、スポーツ少年団等の取り組み、子どもがスポーツに触れるきっかけをつくる取り組みのほか、保護者に子どもがスポーツを実施することによる効果を理解してもらい、子どもがスポーツを実施しやすくする取り組みも必要です。

【成果指標】

項目	現状	目標
「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学生 男子 71.3% 女子 52.0%	小学生 94.0%
	中学生 男子 63.5% 女子 44.3%	中学生 88.0%

■ 基本施策 2-① スポーツに親しむきっかけづくり

幼少期からスポーツに親しみ体を動かすことは、成長・発達に必要な体力を高め、心身の健康につながります。アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）の取り組みや、スポーツ能力測定会等を行い、スポーツが身近にある環境づくりを進め、スポーツに親しむきっかけとなる機会を充実させます。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ能力測定会の開催	小学生を対象にモーションセンサー等の測定機器により運動能力を測定し、自分にあったスポーツ種目等アドバイスが受けられるイベントを開催します。	スポーツ課
アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）講習会の開催	子どもが日常の遊びを通して運動の楽しさを感じ、運動能力の向上を図るためにプログラムを子どもの指導に活用してもらうため、指導者向けの講習会を開催します。	スポーツ課

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ体験会の開催	スポーツ能力測定会などのイベントと同時にスポーツ体験会を開催し、スポーツに興味がある子どもたちがスポーツを始めるきっかけを創出します。	スポーツ課

■ 基本施策 2-② 子どもの体力・運動能力向上のための支援

スポーツ庁が行っている「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」により、現在の子どもと親世代である30年前の結果とを比較すると、身長など体格については子どもが親世代を上回っている一方で、体力・運動能力はほとんどのテスト項目において下回っています。本市において、児童生徒の体力については、一定の成果が現れてきている一方、「運動やスポーツをすることが好き」と答える児童生徒の割合は低下傾向にあります。子どもの体力・運動能力向上のため、スポーツ教室等の開催やトップアスリートとふれあう機会を提供するほか、学校体育の充実を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
トップアスリートによる スポーツ教室の開催	トップアスリートによるスポーツ教室の開催を通じて、子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を知ってもらうとともに、ジュニア世代の競技力強化及びスポーツの普及・振興を図ります。	スポーツ課
少年スポーツ大会の開催	学童水泳大会や学童野球大会等小学生を対象としたスポーツ大会を開催します。	スポーツ課
アクティブ・チャイルド・ プログラム（ACP）講習会 の開催 【再掲】	子どもが日常の遊びを通して運動の楽しさを感じ、運動能力の向上を図るためのプログラムを子どもの指導に活用してもらうため、指導者向けの講習会を開催します。	スポーツ課
部活動の段階的な地域移行の 推進	休日部活動の段階的な地域移行の実現に向け、市内中学生が休日に地域において部活動（スポーツ）に打ち込める環境を整備します。	指導課 スポーツ課
学校体育の充実	「体を動かす楽しさ、心地よさを味わえる」「各種の運動を適切に行うことを通してさまざまな基本的な体の動きを身に付け、結果として体力の向上を図ることができる」など、どの子も運動の特性に触れながら達成感や成就感が感じられる授業づくり、日常的に運動したくなる環境づくりを進めます。	指導課

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
三重県中学校体育連盟三泗支部への補助	市内の中学生が日頃の部活動の練習成果を確かめる大会として位置付けられる三重県中学校総合体育大会やスポーツ教室の事業費を補助します。	指導課
中学校体育大会出場選手奨励金による支援	中学校体育大会の全国大会・東海大会・県大会に出場する選手に対して、奨励金を交付し活動を支援します。	指導課

■ 基本施策 2-③ スポーツを親子で楽しむ機会の充実

親子でスポーツを楽しむことにより、子どもがスポーツを始めるきっかけとなるだけでなく、親子のコミュニケーションが増え、絆が深まるなど、さまざまな効果が期待されます。

親子で楽しむことができるファミリーロゲイニング大会やスポーツ教室を開催し、スポーツを親子で楽しむ機会の充実を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
親子で楽しめるスポーツ教室事業の開催	スポーツ施設及び四日市ドームにおいて、親子で参加できるスポーツ教室を開催します。	スポーツ課
四日市市民スポーツフェスタ、四日市市レクリエーション大会、各種市民スポーツ大会の開催 【再掲】	スポーツ推進委員、スポーツ協会、レクリエーション協会と連携して市民が参加しやすいイベントを開催します。また、参加者の増加につながる工夫も行います。	スポーツ課
スポーツが子どもにもたらす効果を伝える取り組み	保護者に子どもがスポーツを実施することによる効果を伝え、子どもがスポーツを実施することへの理解を促す取り組みを行います。	スポーツ課
ファミリーロゲイニング大会の開催 【再掲】	スポーツ実施率が比較的低い子育て世代をターゲットとした、家族で取り組めるアウトドアスポーツのロゲイニング大会を開催します。	スポーツ課

◆ 基本方針 3 競技力向上・スポーツを支える人材の育成

【現状と課題】

多くの市民にスポーツを親しんでもらうためには、さまざまなスポーツ団体が活発に活動し、市民の身近にスポーツの普及や指導を行う人材がいることが不可欠ですが、これを担うスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブをはじめとしたスポーツ団体は会員や団員の減少が課題となっており、スポーツ団体の活動や、指導者育成を支援することが必要です。

また、スポーツの実技指導やスポーツに関するさまざまな指導・助言のほか住民と行政を結ぶコーディネーターとしての役割を担うスポーツ推進委員は、自主的に協議会を設置して自主事業や研修会に積極的に取り組むなど活発に活動しています。2020年度（令和2年度）は73名の人に委嘱し、前年度に比べ微増したものの地区によっては未だ欠員が生じています。

スポーツ少年団指導者数は減少傾向にあり、団体数や会員数の減少と合わせて、その要因を検証する必要があります。

【成果指標】

項目	現状	目標
全国大会等出場選手激励金の交付延べ人数	R2 413人 (H30 1,025人)	1,300人
過去1年間にスポーツ指導またはスポーツに関するボランティア活動を行った割合	R2 2.9% (H28 5%)	10%

■ 基本施策 3-① 競技力向上のための支援

全国大会等で活躍する本市在住や本市出身のアスリートやスポーツ団体に対して支援や助成を行うことで競技力の向上、並びに競技人口の拡大を図ります。また、トップアスリートによるスポーツ教室やホームタウンチームと連携した教室などの開催により、スポーツの裾野の拡大を図るとともに、将来活躍が期待できる選手の発掘と育成を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
トップアスリートによるスポーツ教室の開催 【再掲】	トップアスリートによるスポーツ教室の開催を通じて、子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を知ってもらうとともに、ジュニア世代の競技力強化及びスポーツの普及・振興を図ります。	スポーツ課
全国大会等出場選手激励金（スポーツ激励金）による支援	国際大会や全国大会等に出場する選手に対して、激励金を交付し活動を支援します。	スポーツ課

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
四日市市スポーツ協会加盟種目団体への支援	四日市市スポーツ協会を通じて、各種目加盟団体やスポーツ少年団の活動の支援を行い、競技力向上や競技人口の拡大を図ります。	スポーツ課
スポーツ顕彰制度の充実	国際大会や全国大会等で優秀な成績を収めた選手の功績を称えるとともに「スポーツ栄光賞」「スポーツ奨励賞」等の表彰を行い、競技意欲の向上を図ります。	スポーツ課
表敬訪問に係る情報発信	国際大会や全国大会等で活躍した選手の表敬訪問については、その情報を積極的に発信し、スポーツの機運醸成を図ります。	スポーツ課
美し国三重市町対抗駅伝への出場	美し国三重市町対抗駅伝に出場とともに本市代表チームの選考会や練習会の開催を支援し、ジュニア世代の発掘・育成とスポーツをする・観る・支えるすべての市民の意識高揚を図ります。	スポーツ課
ホームタウンチームと連携・協働したスポーツ教室等の開催	ホームタウンチームと連携・協働し、スポーツ教室や学校への出前授業等を実施します。	スポーツ課
国体までの取り組みをレガシーとして継承発展させるための大規模大会誘致	新たなスポーツ施設に加え、国体等に向けて培い蓄積された選手の競技力、競技団体の競技会運営ノウハウ、市民や各種団体で醸成されたスポーツの気運の高まりを活かした全国大会等の誘致を行います。	スポーツ課



全国大会で活躍した選手の表敬訪問

■ 基本施策 3-② スポーツ指導者等の育成・支援

スポーツ競技は多様化しており、それぞれに応じた指導者の確保とともに質の向上を図る必要があります。また、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度や、学校部活動の地域移行の動きなど、今後、地域においてスポーツ指導者の育成が求められます。そこで、スポーツ推進委員の活動支援やスポーツ指導者資格取得の支援を行い、指導者の育成・支援に努めます。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ推進委員の活動推進	スポーツ推進委員の確保に向けて、公募を実施するほか、自主的な運営による普及活動や研修会への参加活動を推進します。また、障害者スポーツ指導者資格の取得を支援します。	スポーツ課
スポーツ少年団と連携した指導者育成に関する取り組みの検討	スポーツ少年団と連携して、指導者の知識・資質の向上を目指した取り組みを検討します。	スポーツ課
国体までの取り組みをレガシーとして継承していくためのスポーツ指導者の育成	国体等に向けて培い蓄積された指導者の選手育成のノウハウをレガシーとして継承していくため、スポーツ関連団体と連携してスポーツ指導者の育成を行います。	スポーツ課
スポーツ指導者資格取得助成金の交付	スポーツ指導者の養成と資質の向上及びジュニア層のスポーツ活動環境の向上を図るため、各種指導者資格の取得経費を補助します。	スポーツ課
スポーツ指導者育成事業の実施	地域スポーツを支える人材を発掘・育成するため、スポーツ協会と連携してスポーツ指導者の育成に取り組みます。	スポーツ課
スポーツ顕彰の実施	永年にわたり地域スポーツの普及・発展に貢献された人に対して、「スポーツ功労賞」「スポーツ有功賞」「スポーツ地域有功賞」の表彰を行います。	スポーツ課
スポーツ分野における男女共同参画の推進	女性のスポーツ実施率向上に向けた取り組みとともに、女性スポーツ指導者の育成、スポーツ団体における女性役員の育成に取り組みます。	スポーツ課
スポーツボランティアの育成	四日市ハーフマラソン等大規模イベントにおける受付や給水所等のランナーのサポートについて、大会ボランティアを募集し、スポーツ活動を支える人材の育成・確保を図ります。	スポーツ課

■ 基本施策 3-③ 総合型地域スポーツクラブの活動支援

総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核として重要な役割を果たしています。それぞれの地域の特徴を活かしたイベント等の活動を支援し、地域のスポーツ活動の充実を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
総合型地域スポーツクラブの強化、質的充実に向けた支援	地域スポーツ振興の中心的な役割を担う総合型地域スポーツクラブの自立と安定した運営に向け、クラブの強化、質的充実を支援します。	スポーツ課 市民生活課 地区市民センター
総合型地域スポーツクラブ協議会の活動支援	市内の総合型地域スポーツクラブで構成する協議会が実施する会員の増加、会員間の交流を図るための事業に対して支援を行います。	スポーツ課
総合型地域スポーツクラブの自主事業・イベントの支援 【再掲】	多世代にわたって多くの人がスポーツに親しめるよう、総合型地域スポーツクラブが地域で実施する自主事業やイベントを支援します。	スポーツ課

■ 基本施策 3-④ スポーツ関連団体の活動支援

スポーツ協会やレクリエーション協会など、競技スポーツ・レクリエーションスポーツを振興する団体が行うイベント等、スポーツの普及活動を支援するとともに、地域スポーツの推進役やコーディネーターとして期待されるスポーツ推進委員の活動を推進し、地域スポーツの振興を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ関連団体の事業に対する支援	スポーツ協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団などのスポーツ関連団体が実施するスポーツの普及や振興を目的とした取り組みを支援します。	スポーツ課
スポーツ推進委員の活動推進 【再掲】	スポーツ推進委員の確保に向けて、公募を実施するほか、自主的な運営による普及活動や研修会への参加活動を推進します。また、障害者スポーツ指導者資格の取得を支援します。	スポーツ課

■ 基本方針 4 安全で快適なスポーツ施設の管理運営

【現状と課題】

本市では、新たに整備した総合体育館や四日市テニスセンターなどスポーツ課が所管する30の運動施設と四日市ドームがあり、多くの市民のスポーツ活動をはじめプロスポーツや全国大会等の大規模スポーツ大会も開催されており、施設の利用率は休日や夜間は比較的高い状況であるものの、平日の日中は利用が少ない施設が見受けられるうえ、2020年（令和2年）からは、新型コロナウィルス感染症の影響を受け、全体的に落ち込んでいます。

施設の日常管理にあたっては、2006年度（平成18年度）からスポーツ施設の指定管理者制度を導入し、現在、総合体育館を除く施設について、スポーツ団体や民間の持つノウハウを活かした管理運営を行っています。

このほか地域では、学校施設や地区運動広場を、利用者の自主的で適正な管理運営のもと地域やスポーツクラブなどに開放し、地域スポーツの場として利用されています。

一方、温水プール、四日市ドーム、各野球場、各体育館等、経年に伴う劣化等が進んでいく施設は、引き続き計画的な改修が必要であり、改修にあたっては地球温暖化対策の観点を踏まえるとともに、バリアフリー化など、年齢、性別や障害の有無等に関わらず、すべての人々が安全にかつ快適にスポーツを楽しむことのできる施設にすることや、大規模大会等の開催に必要な備品やミーティングルームなど不足する付帯諸室・設備を加える必要があります。

また、指定管理者と連携して、施設の利用方法に応じた適切な維持管理、設備更新が必要です。

さらに、中央緑地運動施設は、複数競技の大会が重なると周辺道路の渋滞や駐車場が不足していることから、公共交通の利便性を十分な周知による利用促進と渋滞緩和に向けた調査研究が必要です。

【成果指標】

項目	現状	目標
スポーツ施設利用者数	R2 712,578人 (H30 1,161,542人)	1,300,000人

■ 基本施策 4-① スポーツ施設の適正管理

競技水準の高い大会を開催することができる高規格、大規模なスポーツ施設をはじめ、それぞれの施設の目的や利用状況に応じて指定管理者による適切な維持管理を行います。

また、市全体の四日市市公共施設個別施設計画及びスポーツ施設整備計画に基づき施設の計画的な改修を進めます。さらに、利用者の安全性や利便性を考慮し、スポーツ施設や設備の点検を行うとともに、四日市市スポーツ施設利用者協議会等を通じてスポーツ施設に対する市民ニーズの把握に努め、必要に応じて適切な改修等を行います。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ施設の効率的かつ安全で適正な管理	指定管理者制度による、スポーツ施設の目的や利用状況に応じた効率的かつ安全で適正な管理を行います。	スポーツ課
スポーツ施設の計画的な改修等の実施	「四日市市スポーツ施設整備計画」で予定している改修について、計画的に実施するとともに必要に応じて利用者ニーズを踏まえた施設環境の整備を検討します。	スポーツ課
スポーツ施設のバリアフリー化及び環境負荷低減の推進 【再掲】	すべての人々のスポーツの機会を広げるため、スポーツ施設の改修にあわせて「する」「観る」の視点でのバリアフリー化を進めるとともに、環境負荷低減に向け照明のLED化等を進めます。	スポーツ課
学校開放施設の夜間照明設備整備の検討	2021年度（令和3年度）に整備した2校の運動場と既設7校の夜間照明設備の利用状況や課題を検証し、今後の整備について検討します。	スポーツ課

■ 基本施策 4-② 安全・安心な環境整備

大規模改修等の機会をとらえ、バリアフリー化をはじめユニバーサルデザインを取り入れた誰もが利用しやすく、環境への負荷にも配慮したスポーツ施設づくりを進めていきます。

また、新型コロナウィルス感染症への対応についても十分な対策を実施のうえ施設運営を行います。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ施設のバリアフリー化及び環境負荷低減の推進 【再掲】	すべての人々のスポーツの機会を広げるため、スポーツ施設の改修にあわせて「する」「観る」の視点でのバリアフリー化を進めるとともに、環境負荷低減に向け照明のLED化等を進めます。	スポーツ課
新しい生活様式に対応した大会やイベント、教室の運営	検温アラームシステムや自動手指消毒器設置施設の拡充など非接触型機器等導入への対応を促進します。	スポーツ課
スポーツ施設における感染症拡大防止ガイドラインの周知徹底	感染拡大防止とスポーツの両立を目指すため、スポーツ大会の開催やスポーツ施設の感染症拡大防止ガイドラインの周知徹底を図ります。	スポーツ課

■ 基本施策 4-③ スポーツ施設の利用促進

スポーツ施設の効果的、効率的な有効活用を図るために、空いている時間帯を利用して、競技を特定した一般公開やスポーツ教室等を開催します。

また、スポーツ施設に係る各種情報を広く提供するとともに、さまざまなスポーツイベントの開催や市民利用とのバランスも踏まえた大規模スポーツ大会等の誘致を通じて施設の認知度を高めながら利用促進を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
スポーツ教室の充実 【再掲】	スポーツ施設及び四日市ドームにおいて、世代やニーズに合った魅力あるスポーツ教室を開催します。また、スポーツ実施率が比較的低いビジネスパーソンが参加しやすい日程や託児付きの教室を拡充します。	スポーツ課
スポーツ施設についての手引きの発行	市内のスポーツ施設を紹介する手引きを発行し、施設を積極的に周知し利用率向上に努めます。	スポーツ課
公共施設案内・予約システムの充実	スポーツ施設を気軽に利用していただけるよう、インターネットからの施設予約について利便性の向上やシステムの周知を図ります。	スポーツ課
スポーツ施設におけるキャッシュレス化の調査研究	利用者の利便性向上と現金収受による接触機会の低減を図るため、スポーツ施設におけるキャッシュレス化の調査研究を行います。	スポーツ課
スポーツ施設利用者の公共交通利用促進	中央緑地内スポーツ施設利用者には、利便性を周知し、公共交通利用を促進します。	スポーツ課



四日市テニスセンター



総合体育館トレーニングルーム

◆ 基本方針 5 スポーツを通じた交流の促進

【現状と課題】

2020 年度（令和 2 年度）にスポーツ大会、合宿開催補助金制度を設け、バレーボールの V1 女子リーグ戦や、テニスの ATP 四日市チャレンジャー、全日本学生選手権大会等が行われていますが、プロスポーツや全国大会等の大規模スポーツ大会誘致の地域間競争が激化する中、本市の優位性を最大限活用しながら大会関係者や選手のニーズに合った受入態勢のさらなる充実が必要です。

また、初開催を 2021 年（令和 3 年）3 月に計画していた四日市ハーフマラソンは新型コロナウイルス感染症の影響により、感染症の収束が見通せる段階まで開催を見合わせている状況です。

【成果指標】

項目	現状	目標
直接、競技場等でスポーツを観戦した割合	R2 13.2% (H28 27.5%)	35%
スポーツ関連の事業推進補助金の活用件数	R2 6 件 (H30 8 件)	20 件

■ 基本施策 5-① 大規模スポーツイベント等の誘致

コートやグラウンドが集中する四日市テニスセンター、霞ヶ浦第 1・2・3 野球場、中央フットボール場や、大規模な観客席を有する総合体育館、四日市ドーム等を活用し、プロスポーツや全国大会等大規模スポーツ大会の誘致を行い、市民がトップレベルのスポーツを観戦する機会を創出します。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
プロスポーツや全国大会等大規模スポーツ大会の誘致	プロスポーツや全国大会等の大規模スポーツ大会や合宿の誘致を行い、市民がトップレベルの競技を観戦する機会の創出、交流人口の拡大を図ります。	スポーツ課
スポーツ大会等開催費補助金、コンベンション事業推進補助金の活用	大規模スポーツ大会や合宿誘致の地域間競争が激化する中で、主催者に開催経費の一部を補助することにより、効果的な支援を行い、誘致を推進します。	スポーツ課 観光交流課
国体までの取り組みをレガシーとして継承発展させるための大規模大会誘致 【再掲】	新たなスポーツ施設に加え、国体等に向けて培い蓄積された選手の競技力、競技団体の協議会運営ノウハウ、市民や各種団体で醸成されたスポーツの気運の高まりを活かした全国大会等の誘致を行います。	スポーツ課

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
大規模スポーツ大会の開催に係る環境の整備	プロスポーツ大会や全国大会等の大規模スポーツ大会の開催に必要な諸室や設備の調査を行い、誘致競争力強化に向けた周辺環境整備に取り組みます。	スポーツ課
地域スポーツコミッショングの調査研究	スポーツを通じて地域の活性化を図るために、市、スポーツ関連団体及び事業者等が連携・協働する地域スポーツコミッショングについて、引き続き先進事例等の調査研究を行います。	スポーツ課
プロスポーツ興行を前提としたスポーツ施設の誘致	プロスポーツチームのホームスタジアムとしての利用が可能な大規模スポーツ施設の本市への整備について、関係機関に働きかけを行います。	スポーツ課

■ 基本施策 5-② スポーツイベントの開催によるシティプロモーション

市民はもちろん、多くの市外の人の参加を見込む四日市ハーフマラソン等の大規模スポーツイベントを開催し、地域の活性化につなげます。また、スポーツを本市のシティプロモーションの手段として活用する地域スポーツコミッショングなどについて検討を行います。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
四日市ハーフマラソンの開催	本市の都市魅力の発信、生涯スポーツ人口の拡大等につなげるとともに、地域活性化による経済効果の創出を目指してハーフマラソン大会を開催します。	スポーツ課
四日市サイクル・スポーツ・フェスティバルの開催 【再掲】	青少年の自転車競技への関心を高めるとともに、サイクルスポーツの全国大会開催を通じて地域の活性化を図ります。	観光交流課
地域スポーツコミッショングの調査研究 【再掲】	スポーツを通じて地域の活性化を図るために、市、スポーツ関連団体及び事業者等が連携・協働する地域スポーツコミッショングについて、引き続き先進事例等の調査研究を行います。	スポーツ課

■ 基本施策 5-③ ホームタウンチーム・トップアスリートと連携した取り組み

ホームタウンチームやトップアスリートと連携・協働しながら、イベントやスポーツ教室等を開催し、チームの市民への浸透を図るとともに地域に根差したスポーツの推進を図ります。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
ホームタウンチームの地域密着支援	本市に活動拠点を置き全国で活躍するホームタウンチームの浸透を図るため、市民への周知を行います。	スポーツ課
ホームタウンチームと連携・協働したスポーツ教室等の開催 【再掲】	ホームタウンチームと連携・協働し、スポーツ教室や学校への出前授業等を実施します。	スポーツ課
ホームタウンチームと連携・協働した運動動画の配信	ホームタウンチームと連携・協働し、コロナ禍においても自宅で実施できる運動動画を製作配信します。	スポーツ課
四日市市ゆかりのトップアスリートに対する応援活動の推進	四日市市にゆかりのあるトップアスリートに対して、市民一体となって応援活動を推進します。	スポーツ課



ホームタウンチーム応援横断幕



本市ゆかりのオリンピック選手記念展示

◆ 基本方針 6 情報提供・発信の充実

【現状と課題】

市民アンケート調査による市内の公共スポーツ施設については、「知らない（利用方法を知らないを含む）」と答えた人は 14.6%にとどまっていますが、学校開放施設は、45.3%と約半数に上り、地区運動広場に至っては 57.4%と半数を超えていました。

また、スポーツ教室について「知らない」と答えた人が 38.5%あり、また大会・イベントについても「知らない」と答えた人は 48.3%とほぼ半数であり、市民のスポーツ教室や大会・イベントへの参加を促すために、いかに周知するかが課題となっています。

一方で、2004 年のアテネパラリンピックでは、齋田悟司選手が車いすテニス男子ダブルスで金メダルを獲得し、東京 2020 オリンピックでは、レスリング女子 53kg 級で向田真優選手が金メダルを獲得するなど本市出身の選手が世界的な活躍を果たしています。

【成果指標】

項目	現状	目標
市内の公共スポーツ施設の認知度	R2 85.4%	90%
市主催の大会・イベントの認知度	R2 51.7%	70%

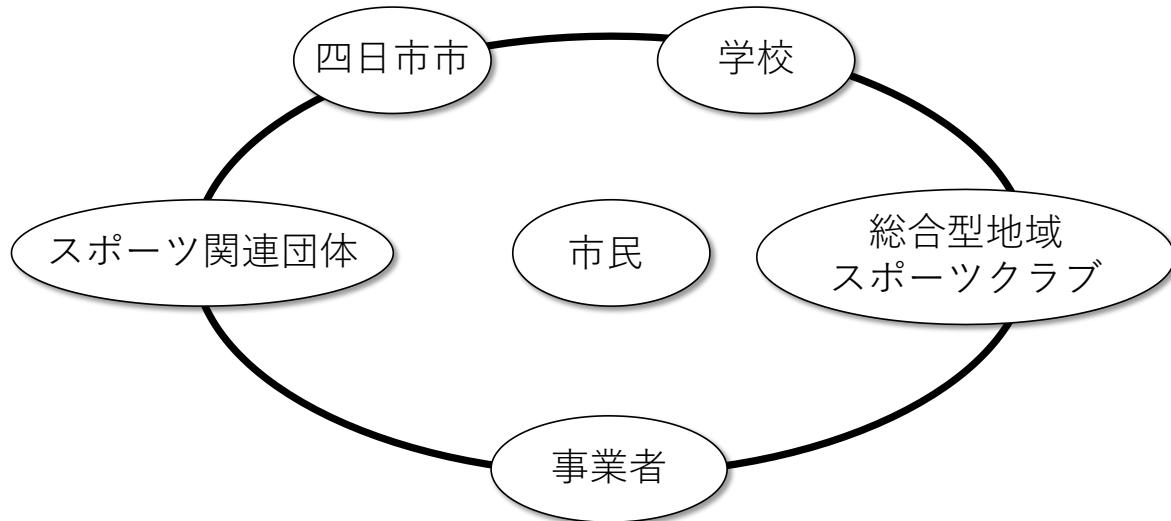
■ 基本施策 6-① スポーツに関する情報提供・発信の充実

スポーツ施設の利用率を高め、スポーツ教室等の参加者を増やすために、情報提供を利用者が利用しやすい形態で行います。また、市内のスポーツ活動やホームタウンチームに関心を持つ人を増やし、地域活性化や交流につなげるために、ポータルサイト「スポーツタウン四日市」での情報発信など多様な手段での情報発信に努めます。

主な取り組み	取り組みの概要	担当課
多様な媒体を活用したスポーツ情報の積極的発信	広報よっかいちや市のホームページ、包括連携協定に基づき開設されている「スポーツタウン四日市」などでスポーツイベントや教室等スポーツに関する情報を積極的に発信します。	スポーツ課
公共施設案内・予約システムの充実 【再掲】	スポーツ施設を気軽に利用していただけるよう、インターネットからの施設予約について利便性の向上やシステムの周知を図ります。	スポーツ課

1 スポーツ推進に向けた主体と役割

本計画を推進するためには、市民、地域、スポーツ関連団体、学校、事業者、総合型地域スポーツクラブ、行政等がそれぞれに役割を分担しながら連携・協働していくことが必要です。

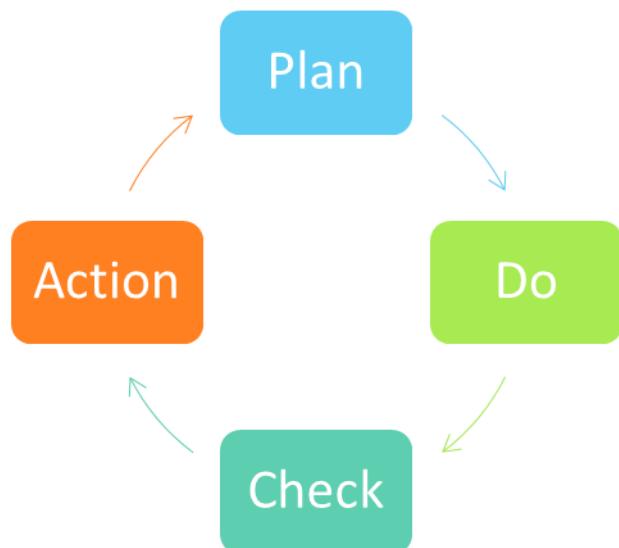


主体	役割
市民	自主的なスポーツ活動を通じて、自らの健康の保持及び増進に努めるとともに、スポーツに関する施策に協力します。
スポーツ関連団体	自主的なスポーツ活動を通じて、市民がスポーツに親しむ機会をつくるとともに、スポーツに関する施策に協力します。
学校	子どもの体力向上に努めるとともに、部活動等を通じて地域やスポーツ関連者と連携し、競技力の向上及び心身の健全な発達を図ります。
事業者	スポーツ活動をしやすい環境の整備に努めるとともに、スポーツに関する施策に協力するように努めます。
総合型地域 スポーツクラブ	地域において、スポーツ活動の普及やスポーツを通じた地域づくりなど、市民の健康の増進と地域の活性化を図ります。
四日市市 (行政)	総合計画や本計画等に基づき、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ります。

2 計画の進行管理

本計画は、目標年次である 2026 年度（令和 8 年度）に向けて施策の推進を図ります。また、進捗状況と成果を Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の一連の P D C A サイクルにより効果的な事業の実施を図ります。

Plan（計画）	市が中心となり、「四日市市みんなのスポーツ応援条例」に基づき、スポーツの推進を総合的に進めるため、本計画を策定します。
Do（実行）	計画に基づきそれぞれの主体がスポーツ推進のための施策を実施します。
Check（評価）	基本方針で定める評価指標を測定し実施状況を把握するとともに、施策毎に現状と課題を整理し、進捗を評価します。
Action（改善）	進捗評価及び環境の変化に基づき、計画を見直します。



資料編

1 四日市市みんなのスポーツ応援条例

みんながスポーツに親しむことができる生涯スポーツを推進し、スポーツを「する」、「観る」、「支える」ことにより、いつまでも健康であることの喜びを感じられることは、市民一人ひとりの生活の質や幸福度が高まるとともに、活力あるまちづくりの創生に大きくつながります。

スポーツは、人ととの交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成し、地域社会の活力向上に寄与する力を持っています。また、地元で育ったスポーツ選手の活躍は、みんなに夢、感動を届けるとともに、郷土への愛着を深め、一体感の醸成につながります。

さらに、スポーツは、健康の保持増進、体力や運動能力の向上はもとより、次代を担う子どもたちに体を動かす楽しさや喜び、爽快感や達成感をもたらすだけでなく、何事にもくじけない心や公正さと規律を尊重する精神を培い、他人に対する思いやりや感謝の心を育むなど、「心・技・体」が備わった人格の形成に大きく寄与します。

これらスポーツが持つチカラや可能性を理解し、市民等、スポーツ関連団体、事業者及び市が連携し、それぞれの役割を果たすことにより、スポーツを通じて活力のある四日市を築くため、ここに「四日市市みんなのスポーツ応援条例」を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、スポーツの推進について、基本政策を定め、並びに市の責務、市民等、スポーツ関連団体及び事業者の役割を明らかにするとともに、スポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツの推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって市民等の「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる活力あるまちづくりの創生に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 市民等 本市の区域内に居住する者のか、本市の区域内に存する事業所等に勤務する者及び本市の区域内に存する学校に通学する者をいう。
- (2) スポーツ関連団体 市内においてスポーツ関連活動を行う法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。）をいう。
- (3) 事業者 市内において事業活動を行うすべての者（スポーツ関連団体を除く。）をいう。
- (4) スポーツ活動 スポーツを「する」こと、「観る」こと又はこれらを「支える」ことをいう。
- (5) 地域スポーツコミッション スポーツをまちづくりや地域の活性化を図る手段のひとつと捉え、市、スポーツ関連団体、事業者等が連携及び協働して地域振興を目指すことを目的とした連携又は組織的な取組をいう。

(基本政策)

第3条 スポーツの推進によるまちづくりを総合的に実施するため、市民等、スポーツ関連団体、事業者及び市は、相互に協力して、次に掲げる基本政策の実現に努めるものとする。

- (1) スポーツを通じた健康長寿社会の創生
- (2) 地域スポーツとトップスポーツの好循環の推進
- (3) 地域スポーツコミュニケーションの推進

(市の責務)

第4条 市は、この条例の目的を達成するため、スポーツの推進に関する施策を総合的に策定し、及び計画的に実施する責務を有する。

(市民等の役割)

第5条 市民等は、自主的なスポーツ活動を通じて、自らの健康の保持及び増進に努めるとともに、スポーツに関する施策に協力するよう努めるものとする。

(スポーツ関連団体の役割)

第6条 スポーツ関連団体は、自主的なスポーツ活動を通じて、スポーツに関する施策に協力するよう努めるものとする。

(事業者の役割)

第7条 事業者は、スポーツ活動を行いやすい環境の整備に努めるとともに、スポーツに関する施策に協力するよう努めるものとする。

(スポーツ推進計画の策定)

第8条 市は、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、スポーツの推進に関する基本的事項、具体的施策その他必要な事項を定めた計画（以下この条において「推進計画」という。）を定めるものとする。

2 市は、推進計画を定めようとするときは、市民等の意見を反映することができるよう必要な措置を講ずるものとする。

3 市は、推進計画を策定するに当たっては、四日市市スポーツ推進審議会の意見を聴くものとする。

(スポーツを通じた健康の保持増進)

第9条 市は、市民等のスポーツ活動を通じた健康の保持増進、疾病予防、高齢者の介護予防等のための健康づくりを推進するため、スポーツ関連団体及び事業者と協力して、スポーツ活動に関する情報の適切な提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

(生涯スポーツの推進)

第10条 市は、全ての市民等が生涯にわたって、体力、年齢、技術、目的等に応じて、身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動に参加する機会の提供並びに地域のスポーツ活動及び地域スポーツクラブが行う地域におけるスポーツの推進に必要な施策を講ずるものとする。

(子どもの心身の健全な発達及びスポーツ活動の充実等)

第11条 市は、次代を担う子どもの心身の健全な発達及び体力の向上を図るため、科学的知見及び医学的知見を生かしたスポーツに関する知識の普及啓発、スポーツ教室の実施その他子どものスポーツ活動の充実に向けた取組の促進に関し必要な施策を講ずるものとする。

(競技水準の向上等)

第12条 市は、市のスポーツ選手及びスポーツチームの競技水準の向上を図るため、スポーツ関連団体等と協力して、競技会への派遣、研修会又は講習会の開催等による計画的な競技技術の向上及びその効果の十分な發揮を図る上で必要な施策を講ずるものとする。

2 市は、事業者が果たすスポーツの普及及び競技水準の向上に係る役割の重要性に鑑み、事業者が有するスポーツチームとの連携及び民間活力の有効活用に努めるものとする。

(指導者の確保及び育成)

第13条 市は、スポーツの指導者その他スポーツの推進に寄与する人材（以下この条において「指導者等」という。）を確保し、及び育成するため、スポーツ関連団体等と協力して、研修会又は講習会の開催等指導者の育成及び資質の向上に必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

2 市は、指導者等及び優秀なスポーツ選手が、その有する能力を地域スポーツクラブ及び地域におけるスポーツ活動に生かすことができるよう、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

3 市は、学校、スポーツ団体等の指導者等が相互に連携し、継続的かつ充実した指導を行うことができるよう、必要な施策を講ずるものとする。

(スポーツを通じた地域の活性化)

第14条 市は、スポーツを通じた地域の活性化を図るため、スポーツ関連団体及び事業者と協力して、あらゆる地域資源及び観光資源を活用し、各種のスポーツ大会及び競技会、スポーツイベント並びにプロスポーツの開催又は誘致に積極的に取り組むものとする。

(スポーツ施設の整備、利用促進等)

第15条 市は、市民等が身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設（スポーツの設備を含む。次項において同じ。）の整備、維持管理、利用の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 市は、前項の規定によりスポーツ施設を整備するに当たっては、当該スポーツ施設の利用の実態等に応じて、安全の確保を図るとともに、障害者等の利便性の向上を図るよう努めるものとする。

3 市は、市民等にとって身近なスポーツ活動の場の充実を図るため、学校その他の施設を容易に利用することができるよう必要な施策を講ずるものとする。

(顕彰)

第16条 市長及び議会は、市民等のスポーツに対する関心及びスポーツを行う意欲を高めるため、スポーツで顕著な成果を収めた者及び第3条に定める基本政策の実現に貢献したと認められる者を顕彰するものとする。

(条例の見直し)

第17条 市長は、この条例の施行から5年を超えない期間ごとに、検証を行い、必要と認めたときは、条例の改正その他の適切な措置を講ずるものとする。

(委任)

第18条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に規則で定める。

附 則

この条例は、平成29年1月1日から施行する。

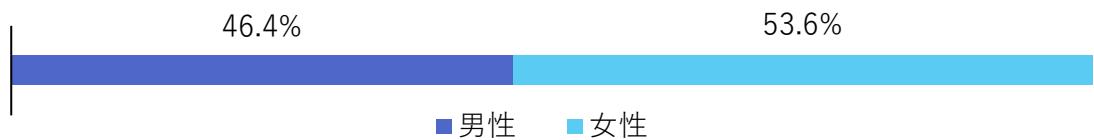
2 四日市市のスポーツに関するアンケート調査結果

※ここでは、アンケートの集計結果のうち、<本編>に掲載している以外のものを掲載します。

◆ 1 市民向けアンケート調査

(1)回答者の属性

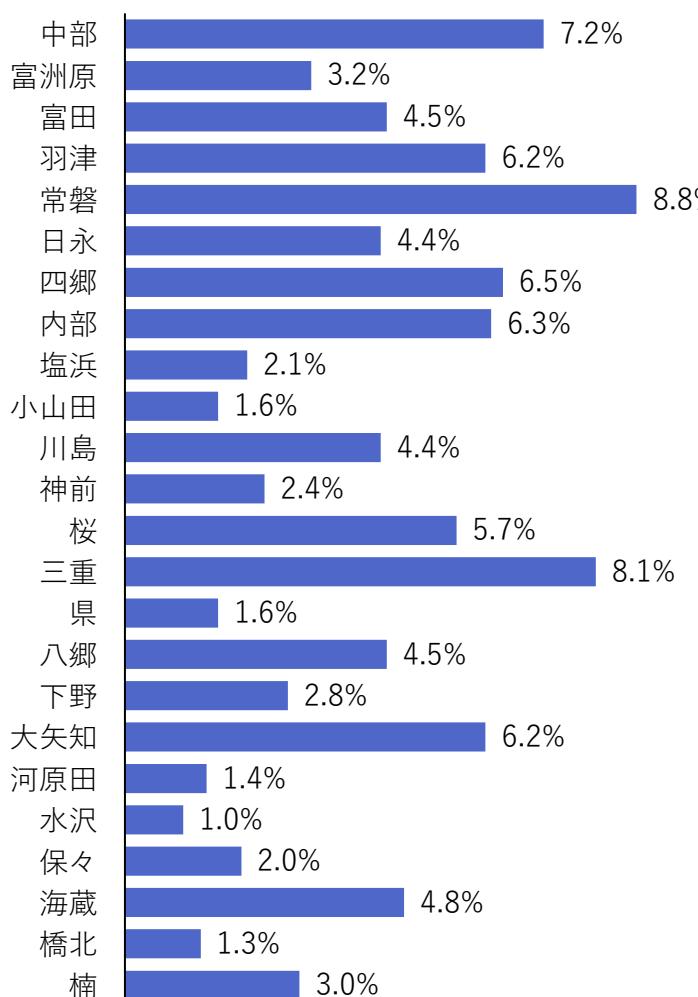
【性別 N=1,037】



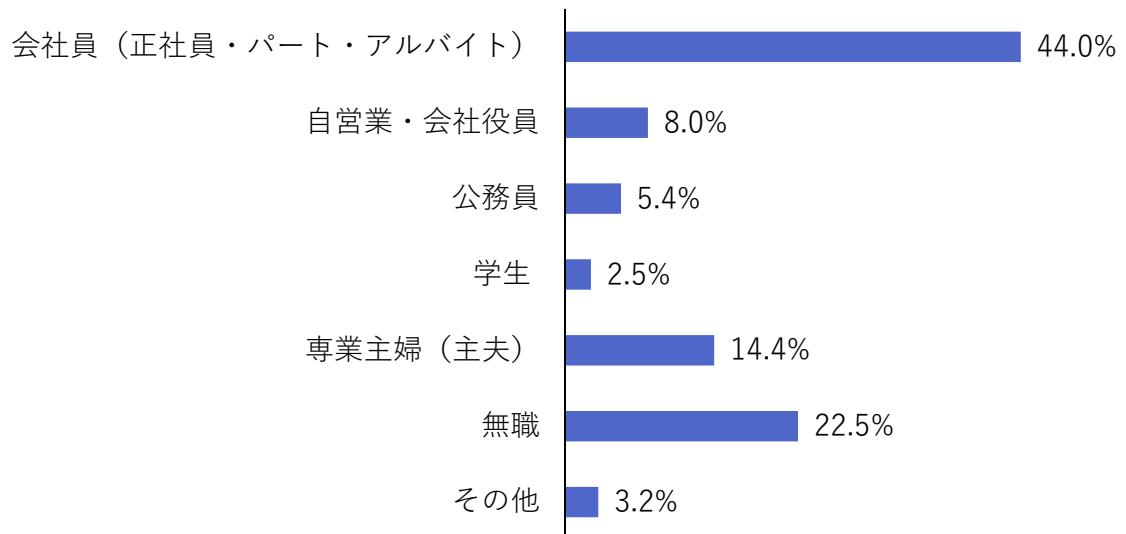
【年代 N=1,039】



【お住まいの地域 N=1,040】



【職業 N=1,039】



(2)回答結果

①運動・スポーツの1回あたりの実施時間

運動・スポーツを実施した人の実施時間（1回あたりの平均）は、31分以上が71.1%、61分以上が31.5%となっています。

男女別にみると、男性の方が、長い傾向がみられます。また、年代別にみると、実施率が比較的高い29歳以下では121分以上の長時間の割合が高く、70歳以上では90分以内や60分以内の比較的短い時間の割合が高くなっています。

【運動・スポーツの実施時間（1回あたりの平均、男女別・年代別）】

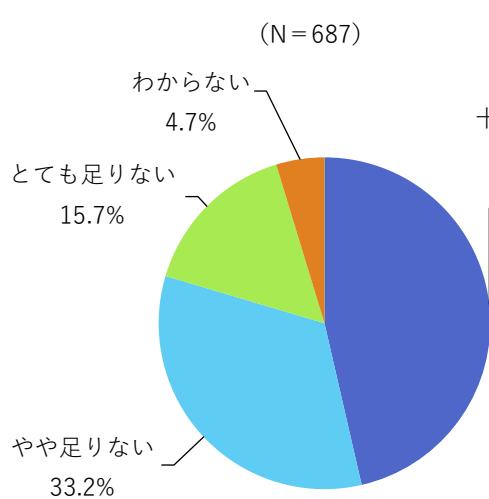
	30分以内	60分以内	90分以内	120分以内	121分以上	(再掲) 31分以上	(再掲) 61分以上	(%)
全体(N=693)	14.4	27.0	31.6	8.9	18.0	71.1	31.5	
男性(N=337)	9.2	24.3	32.3	10.7	23.4	81.5	42.1	
女性(N=353)	19.5	29.5	31.2	7.1	12.7	61.0	21.5	
29歳以下(N=77)	16.9	23.4	20.8	10.4	28.6	66.3	36.4	
30歳代(N=87)	21.8	25.3	36.8	5.7	10.3	56.3	27.5	
40歳代(N=113)	17.7	25.7	36.3	7.1	13.3	64.7	31.0	
50歳代(N=119)	10.1	23.5	34.5	11.8	20.2	79.9	43.0	
60歳代(N=110)	14.5	30.0	27.3	9.1	19.1	71.0	25.5	
70歳以上(N=183)	10.9	30.6	31.7	9.3	17.5	78.2	27.9	

②実施時間についての満足度と十分に実施できない理由

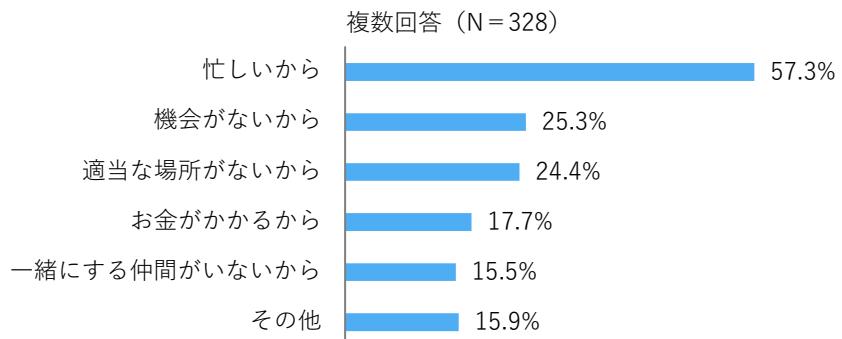
過去1年間に運動・スポーツを実施した人の実施時間に対する満足度は、「やや足りない」と「とても足りない」を合わせると約半数（48.9%）となっています。

「やや足りない」や「とても足りない」と回答した人の、十分に運動・スポーツができるていない理由は、「忙しいから」が57.3%で最も高くなっています、「機会がないから」（25.3%）、「適当な場所がないから」（24.4%）が続いています。

【実施時間についての満足度】



【十分に運動・スポーツができるていない理由】



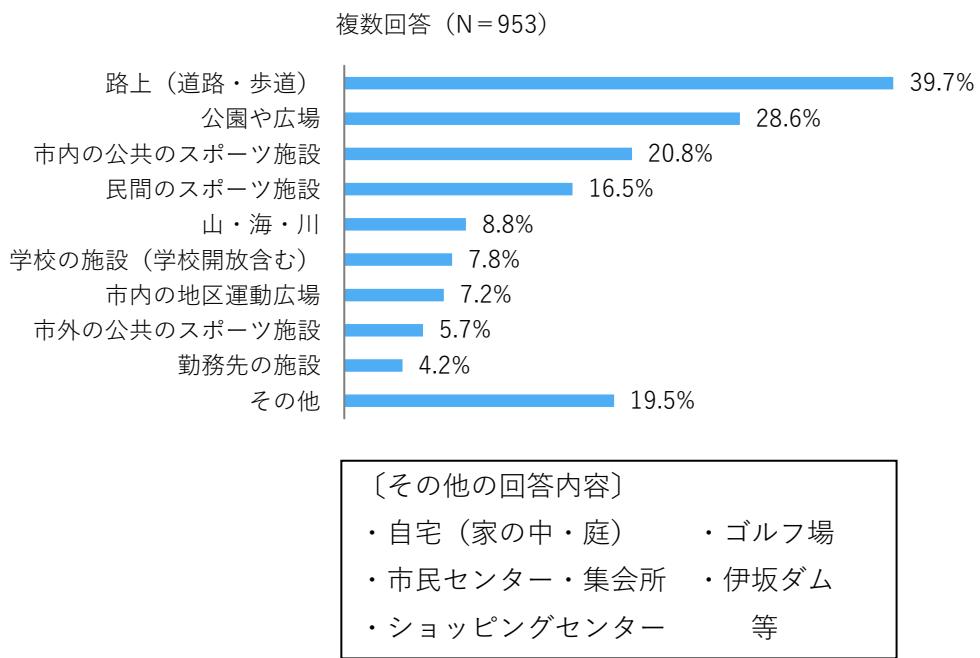
【その他の回答内容】

- ・コロナのため
- ・身体的な理由のため
- ・疲れるから
- ・面倒だから
- ・やりたいものがない、他にやりたいことがあるから 等

③運動・スポーツを実施する場所

運動・スポーツを実施している場所は、「路上（道路・歩道）」が39.7%で最も高く、次いで「公園や広場」（28.6%）が続いています。「その他」では、「自宅」との回答が多くみられました。

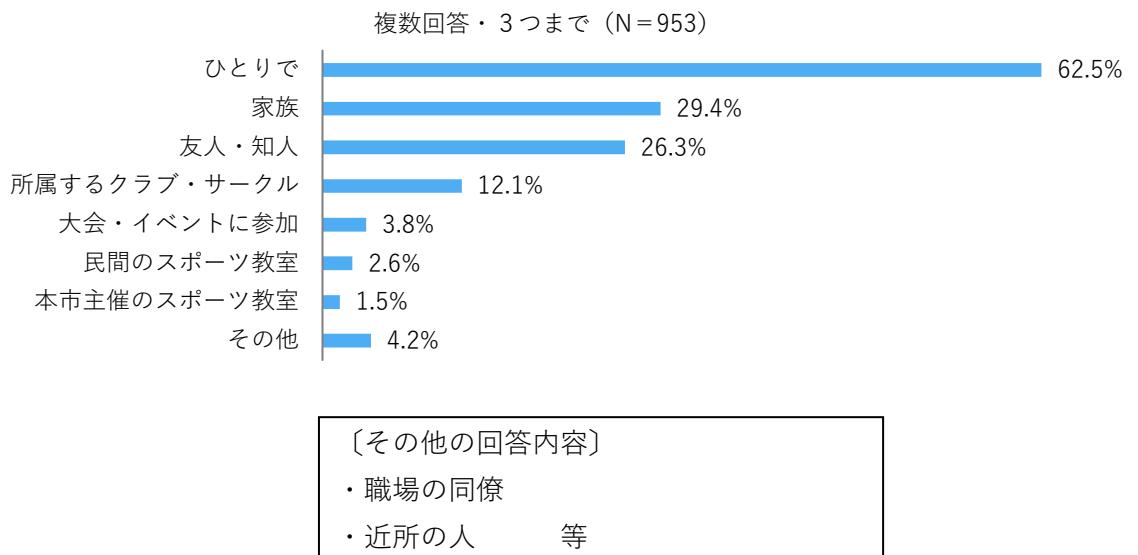
【運動・スポーツを実施している場所】



④運動・スポーツと一緒に実施する人

運動・スポーツと一緒に実施している人は、「ひとりで」が62.5%で最も高く、次いで「家族」が29.4%で続いています。「その他」では、「職場の同僚」や「近所の人」などが挙がっています。

【運動・スポーツと一緒に実施している人】

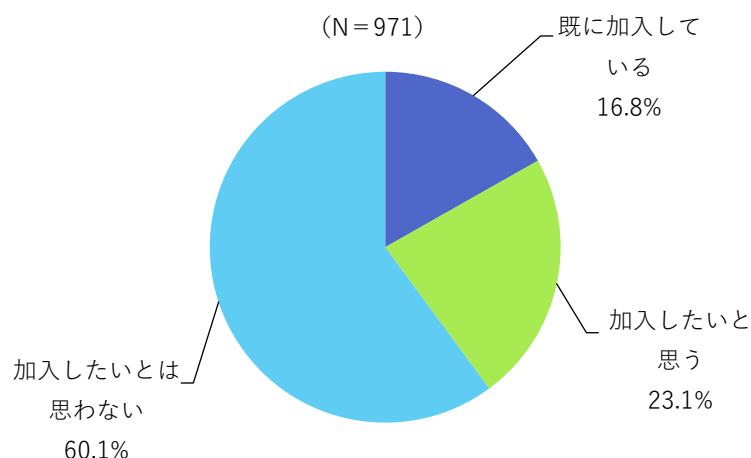


⑤スポーツクラブ・サークル・チーム、運動部への加入状況

◆現在の加入状況

運動・スポーツのクラブやサークルの加入状況・希望は、「既に加入している」が16.8%となっており、「加入したいと思う」は23.1%となっています。

【スポーツクラブやサークル・チームへの加入状況・希望】

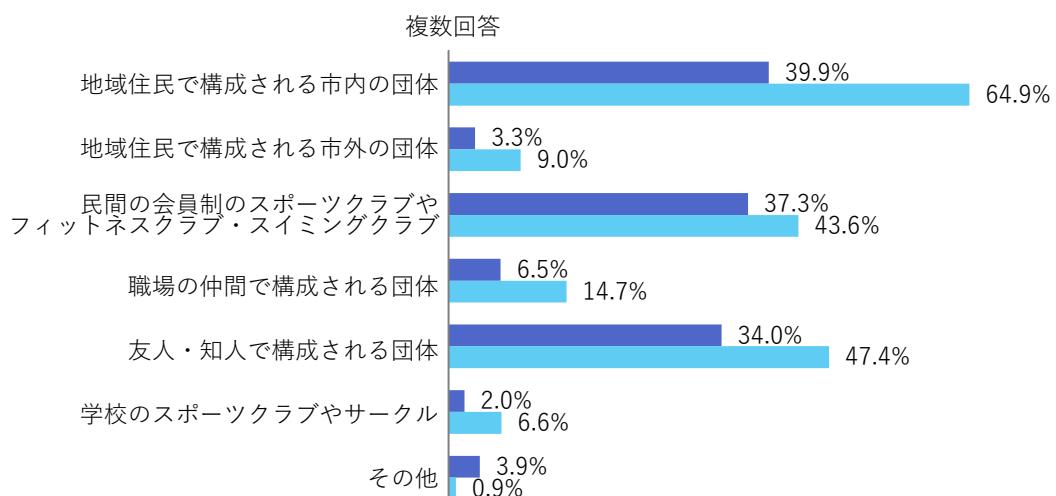


◆加入している団体、加入したい団体

加入している人に対して、加入している団体の種類を尋ねた結果では、「地域住民で構成される市内の団体」が39.9%で最も高く、次いで「民間の会員制のスポーツクラブやフィットネスクラブ・スイミングクラブ」が37.3%で続いています。

加入したいと思う人に対して、加入したい団体の種類を尋ねた結果では、「地域住民で構成される市内の団体」が64.9%で最も高くなっています。

【加入している団体・加入したい団体の種類】



〔その他の回答内容〕

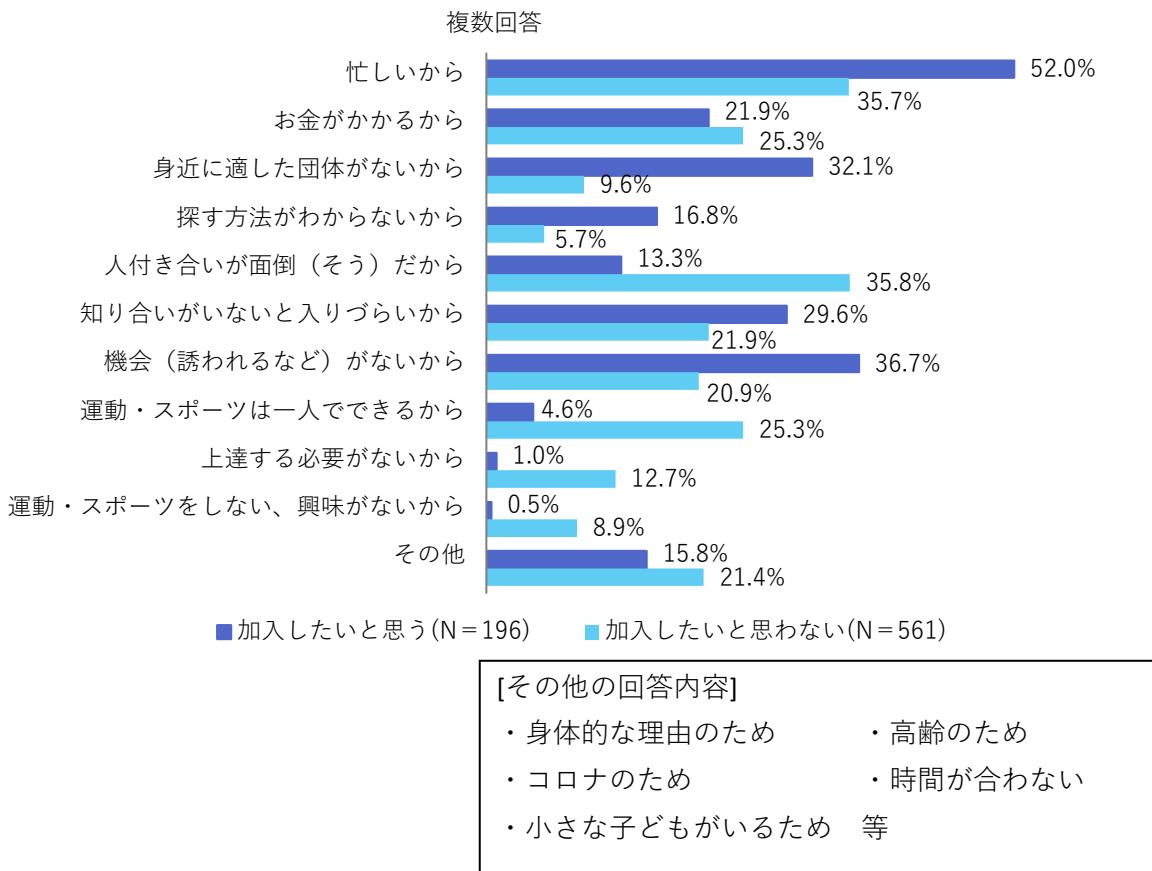
- ・市のスポーツ教室
- ・歴史をたずねて歩く 等

◆加入していない理由、加入したくない理由

加入したいと思う人に対して、その理由を尋ねた結果では、「忙しいから」が 52.0%で最も高く、「機会（誘われるなど）がないから」が 36.7%で続いています。

加入したいとは思わない人にその理由を尋ねた結果では、「人付き合いが面倒（そう）だから」が 35.8%で最も高く、僅差で「忙しいから」が 35.7%で続いています。

【加入していない理由・加入したくない理由】

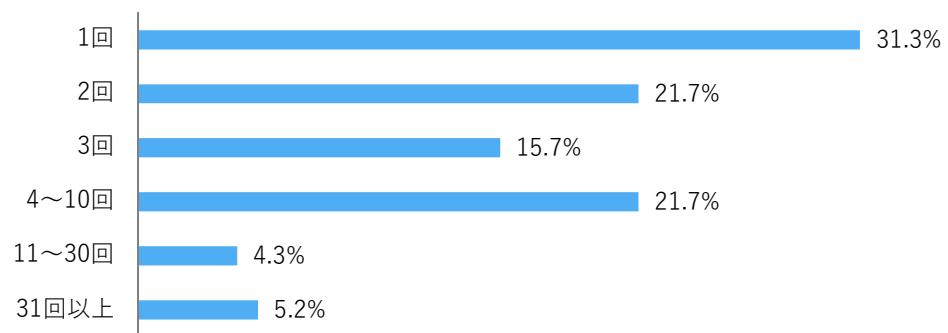


⑥直接の競技場等でのスポーツ観戦の頻度

過去 1 年間に、直接、競技場等で観戦したことのある人の 1 年間の観戦の回数は、1 回が 31.3%で最も多く、2 回、4~10 回が 21.7%で続いています。

【過去 1 年間の直接観戦の回数】

数値回答 (N=115)



◆観戦したい競技種目・リーグ等

今後、本市内で、直接、観戦したい競技種目やリーグ等を自由記述方式で尋ねた結果では、「野球」、「サッカー」、「バレー ボール」の順で回答が多くなっています。

【本市内で、直接、観戦したい競技種目・リーグ等】

順位	競技種目 (大分類)	回答数	主な回答内容	主な内訳 種目 (小分類)	回答数
1	野球	173	プロ野球、オープン戦、 高校野球、社会人野球、 中学野球	プロ野球	61
				高校野球	11
				アマチュア野球 (学生・社会人)	3
2	サッカー	97	Jリーグ、WEリーグ、 JFL、高校サッカー、 サッカー日本代表戦、フ ットサル	Jリーグ	32
				フットサル	2
				WEリーグ	1
3	バレー ボール	92	Vリーグ	Vリーグ	48
4	テニス	87	ソフトテニス、硬式テニ ス、プロテニス	ソフトテニス	2
				プロテニス	1
5	バスケットボーラー	69	Bリーグ	Bリーグ	43
6	体操	48	器械体操、新体操	新体操	6
7	ラグビー	44	ラグビートップリーグ	ラグビートップリーグ	6
8	ゴルフ	35	プロゴルフトーナメン ト、女子ゴルフ	プロゴルフトーナメント	8
9	卓球	22	Tリーグ	Tリーグ	10
10	陸上競技	16	陸上、日本陸上選手権	—	16
11	スケート	12	フィギュアスケート	フィギュアスケート	7
12	相撲	11	大相撲	—	11
12	水泳	11	アーティスティックスイ ミング	アーティスティックスイ ミング	1
14	バドミントン	10	—	—	10
15	モータースポーツ	9	F1、スーパーGT、ト ライアル、カート、モー ^ト ターサイクル、カーレー ^ス	F1	2
16	格闘技	8	プロレス、ボクシング、 レスリング	プロレス	4
				ボクシング	2
				レスリング	1
16	武道	8	剣道、柔道、空手、弓 道、少林寺拳法	剣道	4
16	ハンドボール	8	—	—	8
19	自転車競技	5	BMX、ロードバイク	BMX	1
				ロードバイク	1
19	ソフトボール	5	—	—	5
21	ダンス	4	—	—	4

順位	競技種目 (大分類)	回答数	主な回答内容	主な内訳 種目 (小分類)	回答数
21	マラソン・駅伝	4	—	マラソン	2
				駅伝	2
23	国体	3	—	—	3
24	アーチェリー	2	—	—	2
24	マリンスポーツ	2	—	—	2
24	アメリカンフットボール	2	—	—	2
24	チアリーディング・バトン・トワ リング	2	—	チアリーディング	1
				バトン・トワリング	1
28	馬術	1	—	—	1
28	競馬	1	—	—	1
28	スキー	1	—	—	1
28	スケートボード	1	—	—	1
28	フェンシング	1	—	—	1
28	ボッチャ	1	—	—	1
28	スカッシュ	1	—	—	1
28	水球	1	—	—	1

※自由記述による回答結果（493 サンプル）から分類したものです。

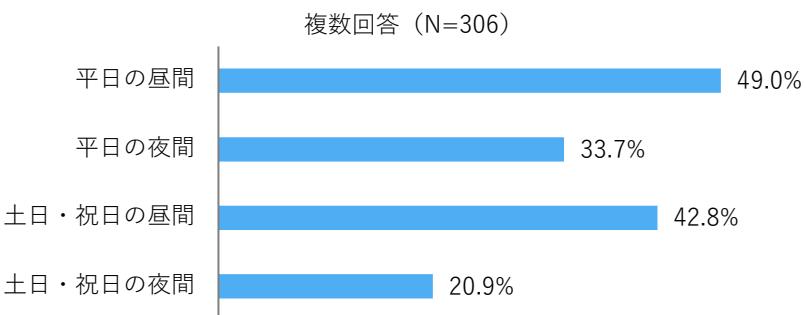
※競技種目ごとに分類し、主な回答を掲載しました（複数回答分は、記述内容ごとに1件と集計しました）。

⑦スポーツ教室の開催に対する希望

◆開催を希望する時間帯

自身に適した公共や地域主催の教室があった場合に参加したいと回答した人の開催してほしい時間帯は、「平日の昼間」が最も高くなっています（49.0%）。

【開催してほしい時間帯】



◆参加したいスポーツ教室

自身に適した公共や地域主催の教室があった場合に参加したいと回答した人の、参加したい教室（テーマや種目）は、「ヨガ・太極拳」、「体操」、「ダンス（エアロビクス、フラダンス等）」が上位となっています。

【参加したい教室のテーマや種目】

順位	競技種目 (大分類)	回答 数	主な回答内容	主な内訳 種目（小分類）	回答数
1	ヨガ・太極拳	133	ヨガ、太極拳、ピラティス、バランスボール	ヨガ	110
				太極拳	11
				ピラティス	11
				バランスボール	1
2	体操	52	体操・柔軟体操・健康体操、ダイエット体操、ストレッチ、ボクササイズ、リハビリ体操	体操・柔軟体操・健康体操、ダイエット体操	26
				ストレッチ	23
				ボクササイズ	2
				リハビリ体操	1
3	ダンス（エアロビクス、フラダンス等）	49	エアロビクス、フラダンス、ダンス、ジャズダンス、ベリーダンス、バレエ、J-POP	エアロビクス	17
				フラダンス	9
				ダンス	9
				ジャズダンス	4
				ベリーダンス	3
				バレエ	2
				J-POP	2
4	テニス、ソフトテニス	36	テニス、硬式テニス、ソフトテニス	テニス・硬式テニス	33
				ソフトテニス	3

順位	競技種目 (大分類)	回答 数	主な回答内容	主な内訳 種目 (小分類)	回答数
5	水泳	25	水泳・スイミング、水中ウォーキング、アクアビクス、ベビースイミング	水泳・スイミング 水中ウォーキング アクアビクス ベビースイミング	17 4 3 1
6	卓球	23	—	—	23
7	ウォーキング	13	—	—	13
7	バドミントン	13	—	—	13
7	武道	13	空手、合気道、弓道	空手 合気道 弓道	6 4 3
10	登山、ハイキング	11	登山、ハイキング、トレイルランニング	登山 ハイキング トレイルランニング	7 3 1
10	室内トレーニング運動	11	トレーニング、ウォーキングマシーン、パーソナルトレーニング	トレーニング	9
12	ランニング (ジョギング)	10	ランニング、ジョギング、マラソン	ランニング ジョギング マラソン	5 3 2
13	ゴルフ	9	—	—	9
14	サッカー	8	サッカー、フットサル	サッカー フットサル	4 4
15	バレーボール	6	バレーボール、ソフトバレーボール	バレーボール ソフトバレーボール	5 1
16	スケートボード	4	—	—	4
16	格闘技	4	ボクシング	ボクシング	4
18	グラウンド・ゴルフ	3	—	—	3
18	アーチェリー	3	—	—	3
20	野球	2	—	—	2
20	自転車	2	—	—	2
20	ボルタリング・スポーツクライミング	2	—	—	2
20	トライアル	2	—	—	2
20	ボーリング	2	—	—	2
20	スカッシュ	2	—	—	2
26	e スポーツ	1	—	—	1
26	サッป	1	—	—	1
26	スキー	1	—	—	1
26	スポーツ吹矢	1	—	—	1

順位	競技種目 (大分類)	回答 数	主な回答内容	主な内訳 種目 (小分類)	回答数
26	ダイビング	1	—	—	1
26	フェンシング	1	—	—	1
26	輪投げ	1	—	—	1
26	スケートボード	1	—	—	1
26	ハンドボール	1	—	—	1
26	陸上	1	—	—	1
26	ソフトボール	1	—	—	1

※自由記述による回答結果（293サンプル）から分類したものです。

※競技種目ごとに分類し、主な回答を掲載しました（複数回答分は、記述内容ごとに1件と集計しました）。

⑧市のスポーツ推進に対する意見（主な意見を抜粋して掲載）

本編 P22 に掲載したスポーツ振興のテーマに対する意見（具体的な意見等）には、以下のような記述がみられました。主なものを抜粋して掲載します（テーマ別に掲載）。

a. スポーツに関する情報発信や収集の強化

- ・SNSツールを使った情報発信もすればいいと思う。（女性・40歳代）
- ・公共施設の場所、スポーツ、時間、利用方法などが一度で見える様な表があると便利だと思う。（女性・50歳代）
- ・引っ越してきた者は何も情報無いので、住居関連の会社や市役所等から案内があるといいのではないか。（男性・50歳代）
- ・私はパソコン、スマホが不慣れである為、それ以外に情報が分かる方法がほしい。（男性・60歳代）

b. 公共のスポーツ施設の整備

- ・ウォーキング環境の整備。誰でも簡単にできる運動だと思う。（女性・50歳代）
- ・三滝テニスコートのナイターが4面しかないので増やしてほしい。（男性・29歳以下）
- ・誰もが使用できる広場をもっと増やしてほしい。（男性・70歳以上）
- ・ネットで施設を予約できるようにするなど、現代にマッチした使いやすく改革する必要がある。すぐにも、その気があれば可能である。（男性・60歳代）
- ・四日市市でプロの競技、及び全国へ出しても恥ずかしくない施設が必要。東海4県で一番劣っている。（男性・70歳以上）
- ・公共のスポーツ施設のプール、ジムが少ないと思います。混雑しているし、遠いしで、とても利用できません。（女性・50歳代）
- ・山間部を中心としたスポーツ施設の設置数を増やしてほしい。（男性・29歳以下）

c. 学校開放施設の整備

- ・運動場の照明に関しては、光害の観点で学校施設に限らず、進めるべきでない。（男性・30歳代）
- ・学生のスポーツの在り方、部活など、暗くなるまでやる必要はないのではないか。一部プロスポーツに進む野望のある生徒は、それなりの有料施設を利用すれば良いではないか。（男性・70歳以上）
- ・夜間照明があると日が暮れても練習が続いてしまうので、無くしてもいいと思う。（男性・30歳代）
- ・明るいと防犯にもつながるので必要だと思う。（女性・29歳以下）
- ・災害時にも役に立つ。（女性・50歳代）
- ・夜間照明設備が不備である。（男性・70歳以上）

d. スポーツクラブやサークルが活動しやすい環境づくり

- ・スポーツ教室について、参加できる年代を絞ってほしい。初めての競技にチャレンジしたいが、正直、10代、20代の若者とスポーツを始めるのには抵抗がある。仕事帰りの夜に同年代以上の人たちが集まって初步からスポーツを学べる機会があれば参加しやすい。（男性・40歳代）
- ・少人数の趣味、同好会的なものが多く、なかなかまとまらないと思う。（男性・70歳以

上)

- ・バドミントンのサークルが市内にあれば活動したいが、参加方法等が分からぬいため、案内があれば知りたい。(女性・29歳以下)
- ・利用しやすい料金の施設が必要。(女性・50歳代)
- ・公共施設の予約、使用がとりづらいので、たまにしか使わない人が使いやすいよう、マイナンバーを使ったり、やりやすくしてほしい。(男性・29歳以下)

e. スポーツ大会やイベントの充実

- ・四日市ドームを使った大規模な大会が行われていない。(男性・40歳代)
- ・総合体育館でバレーボールの国際大会を開催してほしい。(男性・40歳代)
- ・0歳ぐらいからでも参加できるような、子どもや赤ちゃん向けのスポーツイベントが増えればいいと思う。(女性・30歳代)
- ・誰もが気軽に参加出来るスポーツイベントがあれば良いと思う。(女性・30歳代)
- ・ランナーのイベントが少なすぎる。フル、ハーフ、10km、5km トレイル等安価で楽しく参加できるようなものを実現してほしい。(男性・50歳代)

f. 誰もが気軽に運動・スポーツができる教室の充実

- ・育児中の人が参加しやすい内容や預かりの強化。(女性・40歳代)
- ・予約なしで自由に集まれること。人数制限なしです。(女性・60歳代)
- ・公共スポーツ施設への無料送迎。(女性・60歳代)
- ・子どもの体操教室など数が少ない気がする。スイミングスクール等も増えると良いと思う。(女性・30歳代)
- ・現在、フルタイムで仕事をしており、市主催のスポーツ教室の存在は知っているが、平日の昼間がほとんどで、参加できない。夜間も行ってほしい。(女性・60歳代)
- ・高齢社会になるが、健康で長寿な生活が続けられるような気軽に参加できる教室があれば良いと思う。(女性・70歳以上)
- ・オンラインスポーツ。施設があってもコロナで行けない、集まれないため、ヨガやズンバ等を講師が施設からオンライン発信してほしい。(女性・29歳以下)

g. 子どもの体力強化（学校体育授業や運動部活動の充実）

- ・力を入れるべきだとは思うが、教員の負担増とならない方法で力を入れる方が良い。(女性・40歳代)
- ・学校での体育の基礎「生涯スポーツ／運動」を重きにかけるようにすべき。すなわち、一部の「出来る人」に向けるのではなく、すべての生徒たちが運動の大切さを教えながら、自分たちで気づいてもらえるようにすべきである。(男性・29歳以下)
- ・体育や運動の時間をもっと増やすことが理想だが、カリキュラム的には難しいと思うので、「毎日グラウンド1周走る」など日課にすると良いと思う。(女性・29歳以下)
- ・学校等に体操教室の先生等を時々呼んできてもらい、指導を授業（体育）で教えてほしい。(女性・30歳代)
- ・コロナの影響で子どもの体力低下、運動機会の減少が気になっている。運動活動の充実を願う。(女性・30歳代)

h. 障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり

- ・「四日市市障害者体育センター」に空調設備を整え、開所時間を午前中からにしてほしい

い。四日市市障害者体育センターのある「西日野福祉ゾーン」をきちんと再開発し、障害者が活動しやすい拠点（スポーツと健康増進）を作つてほしい。（男性・50歳代）

- ・障害者という枠にとらわれず、一緒に出来るようなイベント等をすれば良い。（男性・60歳代）

- ・障害者と健常者がともにスポーツできる環境を作つてほしい。個人的には伴走をしたいと思っているが、機会がない。（男性・50歳代）

i. トップアスリートが身边にみられるイベントの開催

- ・マラソン大会への五輪メダリストの招待。（男性・50歳代）
- ・トップアスリートの試合を観戦出来たり、実際にトップアスリートから指導される機会があると、子どもたちのやる気も上がり、夢も広がると思う。（女性・40歳代）
- ・三重県、四日市市出身のアスリートの講演、教室の開催により、子どもは夢に向かって目標を立て、取り組んでいくイメージがしやすいのでは。（女性・30歳代）
- ・子どもから大人まで、さまざまな人がアスリートを身边に感じられるイベントや教室を開催して、スポーツのすばらしさを教えてほしい。（女性・29歳以下）
- ・既にスポーツを楽しんでいる人向けよりも、すそ野を広げることを狙ったイベント、活動に力を入れてほしい。（男性・30歳代）

j. プロスポーツ大会などトップレベルの試合の誘致

- ・プロ野球が大好きなので、地方開催の場所として誘致し、実施していただきたい。バスケットのプロリーグも生で見てみたい。（女性・40歳代）
- ・せめてJ2の試合を間近で観戦したい。（男性・70歳以上）
- ・Tリーグの誘致。（女性・30歳代）
- ・ラグビー社会人大会。（男性・70歳以上）

k. スポーツ指導者の養成

- ・先生の負担軽減のため、小中高校の部活を指導できる人の育成が必要。（男性・50歳代）
- ・素晴らしい事とは思うが、必要以上に費用がかかってしまうと心配である。（女性・60歳代）
- ・ボランティアで指導に当たる現状が多い為、経済支援の仕組みがあるとスポーツの発展につながると思う。（女性・40歳代）

l. 市内選手の競技力強化および支援

- ・市内出身の選手の応援をもっと活発に行ってほしい。（女性・29歳以下）
- ・オリンピック候補選手が多数出ており、彼等のサポート並びに、それに続こうとしている人たちを応援・育成して頂きたい。（男性・60歳代）
- ・全国大会に出場する子どもたちへの支援にもっと力を入れてほしい。（女性・40歳代）

m. スポーツを通じた観光・経済の活性化

- ・スポーツと地域のコラボをたくさん増やしてほしい。（男性・30歳代）
- ・スポーツ団体と企業との連携を増やすだけでなく、学校スポーツ（体育）、特に公立の学校へ企業が支援できる仕組み作りに挑んでほしい。（女性・40歳代）
- ・Jリーグのスタジアム建設は推進するべき。経済効果も高いと思う。（男性・50歳代）
- ・交通の便が悪いと県外はおろか、県内に住む人も足を運ばない。駅の近くに会場を作る

など、気軽に立ち寄れる環境整備が必要。(女性・40歳代)

- ・コスモ石油のサッカーチームがあった時は試合を見に行ったりしていました。市内に誇れるスポーツチームがあれば、市民の方も応援すると思う。(男性・40歳代)

⑨「新型コロナウイルス感染症の感染拡大により困ったこと」についての 自由記述意見（主な意見を抜粋して掲載）

a. 運動・スポーツ機会の減少等について

- ・スタジオやジムに通っていたが、感染のリスクを考え、退会してしまった。(女性・30歳代)
- ・スポーツ観戦に行けなくなった。(女性・30歳代)
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、活動範囲が少なくなり、精神的、体力的に少し弱っている気がする。(女性・60歳代)
- ・感染拡大のため、現在楽しめるスポーツがウォーキングのみ。他のスポーツについては、感染の予防のため、難しい。(男性・60歳代)
- ・子どもが外に出ない期間が長く、家でゲームばかりするようになってしまい、外で遊ばなくなった。(男性・40歳代)
- ・ジムに行けなくなり、運動不足になった。(女性・50歳代)
- ・スポーツに限らず、外出を減らして活動量が少なくなり、フレイル状態が心配である。(女性・60歳代)

b. 大会、イベント、教室の中止や、施設等の休止について

- ・利用していた施設が休止するなどで、利用できなくなった。時間の制限や利用方法の変更など、仕方のない事だが戸惑う事も増えた。(女性・40歳代)
- ・クラブ活動が十分にできない状況になった。大会が中止になり、子どもたちのモチベーションが下がったと思う。(女性・40歳代)
- ・屋外での野球やソフトボールが殆ど中止になった。各自が注意しながら出来るスポーツだと思っているから、何もかもダメという空気になっているのがどうかと思っている。(男性・70歳以上)

c. マスク着用による負担について

- ・マスクをしながらの運動に危険を感じる。子どもを運動させたいが、心配で運動させづらい。(女性・40歳代)
- ・マスク着用で運動するのは大変辛く、運動する時間が減った。体には良くないと思う。(女性・60歳代)

d. コロナに対する社会のモラルについて

- ・利用しているスポーツジムの職員、利用者の感染リスクに対する意識が低い。ジムに申し込みしても改善が進まないので不安が増大。(男性・60歳代)

⑩ 「本市のスポーツについて」の自由記述意見

（主な意見を抜粋して掲載）

a. 公共のスポーツ施設の整備について

- ・四日市市は川原や土手が多いので、土手沿いの道がランニングコースとして充実していると、より身近で気軽な運動をする人が増えると思う。（男性・30歳代）
- ・一般でも利用できるスポーツ施設や公園を北方面にも増やしてほしい。（女性・30歳代）
- ・学校の施設開放だけでなく、スポーツ施設をもっと作るべき。また、指導者も育成し、専門的な技術指導を行ってほしい。（男性・70歳以上）
- ・施設の予約をもう少し取りやすくしてほしい。（男性・40歳代）

b. スポーツに関する情報発信等について

- ・市の広報紙に「市議会だより」のように別紙で「スポーツだより」を入れていただけると、スポーツに関する情報を得られやすくなると思う。（女性・50歳代）
- ・地域住民で構成される市内の団体に加入したいが、窓口が分からない。コロナで仕方ない面もあるが、もっと広く広報してほしい。（女性・50歳代）
- ・スポーツイベントや誘致等を行うのであれば、SNS等の広がりなど、現代的な要素を用いて告知や周知にもっと力を入れて、市民の多くが分かるようにしてもらいたい。（男性・40歳代）
- ・市内から全国や世界で戦っているアスリートは大勢いるが、知らないまま競技を終えてしまう事が多いと思うので、特集などで競技等をクローズアップして、次世代を担う子どもたちに刺激を与えられる環境づくりをお願いしたい。（男性・40歳代）

c. プロスポーツ大会などトップレベルの試合の誘致・チームへの支援について

- ・大都市に比して、本物に触れる機会の少ない四日市市民にとって、できる限りプロスポーツの大会に触れる機会が増えれば、子どもたちも興味を持つことが増え、関わりたいと思う子が増えると思う。（女性・60歳代）
- ・四日市を本拠地にしたプロスポーツ団体の支援を積極的に行っていただきたい。市民で応援できる団体が出来ると四日市の発展にも繋がると思う。（男性・40歳代）
- ・アリーナも完成し、受け入れる枠ができた。トップアスリートやプロを招致するのは、財政面もある。それより東海レベル、全国レベルの大会を誘致してほしい。それだけでも経済活性、競技力upに貢献すると思う。お楽しみの大会でいかにスポーツを楽しむかが目的である。三重の物産の紹介も会場でしたり、賞品にしたりするよい。（女性・60歳代）

d. 中央緑地について

- ・緑地公園の整備が素晴らしい、公園内にレストランや喫茶店等ができる、スポーツ以上にウォーキングだけでも行きたいと思う人が増え、人々の交流にも役立っていると思う。（女性・70歳以上）

e. 誰もが気軽に運動・スポーツができる環境整備について

- ・大きな施設でのスポーツ教室は敷居が高い。公民館、市民センターの小さめで近所なら行きやすいと思う。（女性・40歳代）

- ・地域のコミュニティとして、小学校や中学校で、親子で運動活動ができる機会をつくれたら嬉しい。(女性・30歳代)
- ・未就学児を連れて参加できる教室がもっとあればと思った。今もまだ2歳の子どもがいるので、預け先(日曜等)もないで、市のスポーツ教室にもなかなか行けない。平日は仕事もあるので。(女性・30歳代)
- ・スポーツを行う施設と商業施設の融合。総合運動施設とモールなどのショッピングセンター、大きな公園と図書館とか生活の中に気軽にスポーツが出来る環境があるといい。組み合わせ次第で、スポーツの敷居を低くしていけるようにしていただきたい。(男性・40歳代)

f. スポーツ大会やイベントについて

- ・コロナで行動やスポーツ大会が制限されてばかりの学生たちに、四日市市が何か大会等を企画してあげてほしい。学生生活は短いです。一度しかありません。(男性・50歳代)

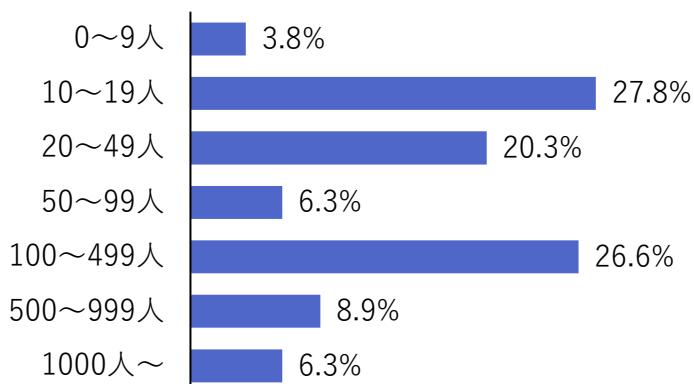
g. その他

- ・スポーツ施設への公共交通機関のアクセスを増してほしい。霞ヶ浦や中央緑地への近鉄名古屋線からのアクセスが悪く、自動車を使わないと不便。(男性・60歳代)
- ・子ども(低学年)のスポーツに携わる機会を増やしてほしい。運動離れにならないようなヒントがほしい。(男性・50歳代)
- ・公立学校で全国大会に出場し、頑張っている学校(高校)が多いので、しっかりサポートしていただきたい。(男性・60歳代)
- ・昨年からのコロナ禍、最近の東京オリンピック開催の賛否両論など、ここ1年でスポーツに対する考え方、あり方が従来とは異なってきていると思う。自治体におかれても、これからは今までのような単純なハコモノ建設、イベント運営ではなく、コロナ禍におけるスポーツ行政を再構築していただき、施策を決定、実行していただきたいと思う。(男性・50歳代)
- ・スポーツの効用により、身体的、精神的な健康につながると考えているので、市民が気軽にさまざまなスポーツを楽しめると良いと思う。特に障害を持たれた方や高齢の方は、スポーツを楽しむのは難しいので、環境を整えていく事が大切だと思う。市民の誰もがスポーツに親しみ、健康となるような施策に期待している。(男性・60歳代)

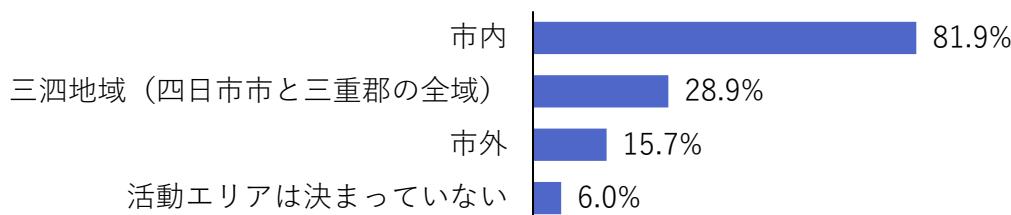
2 スポーツ団体向けアンケート調査

(1)回答者の属性

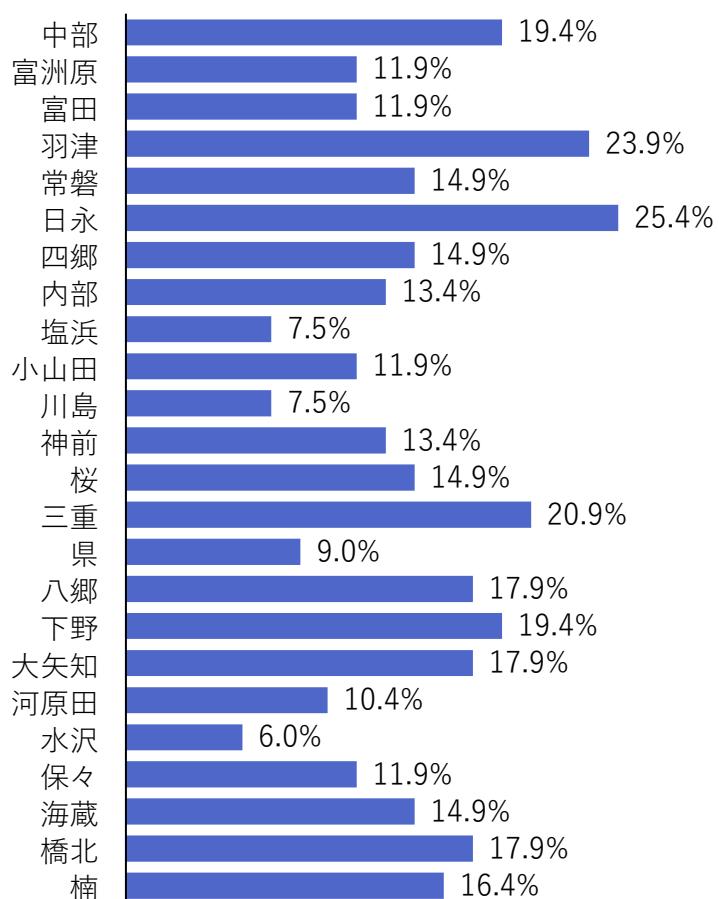
【団体の構成員数 N=79】(数値での回答、令和3年4月末時点のもの)



【団体の主な活動エリア N=83】(複数回答可)



<市内の地域の内訳 (複数回答可) N=67>



(2)集計結果

①団体の取り組み、活動の問題点

◆会員数の増加や競技力の向上に向けて、特に取り組んでいること（主な意見を抜粋して掲載）

- ・ホームページの開設等。（スポ協加盟）
- ・団員募集のポスターを作成、掲示している。（スポ少加盟）
- ・活動日数の増加、会員募集のチラシ配布。（スポ少加盟）
- ・大会開催、講習会等。（レク協加盟）
- ・法的規制のないビームライフル（B R）を用いた体験会を県協会で主催して、希望者が将来本格的な射撃競技を始められるようにしている。（スポ協加盟）
- ・楽しく練習する方法を研究しながら、教室者を指導し、その結果団員増を狙っている。（スポ少加盟）
- ・65歳以上の会員獲得、勧誘。（レク協加盟）
- ・父母の負担低減による団人数の増加。（スポ少加盟）
- ・年1度のレクリエーション大会で体験をしてもらっている。（レク協加盟）
- ・競技力の向上に向けて、地域で活動しているVリーグチームとの連携を図る。（スポ協加盟）
- ・社会人、社内での会員の募集、競技の紹介。（スポ協加盟）
- ・学校区にチームがない場合、他の学校区のチームにはいれるよう条件を緩和した。またいろいろな情報をインスタにアップするようにした。チーム紹介、練習日、場所、試合結果など掲載し、興味があればメールでやり取りもでき、会員募集につなげている。（レク協加盟）
- ・初心者が気軽に入会できるようにトレーニングクラスを設けて入りやすいクラス分けをしている。（スポ少加盟）
- ・常に、新事業や新企画を考えている。会員の皆さんに、何を求めているかを、事務局だけではなく、部会を開くなど、沢山の方で意見交換している。（総合型）
- ・女性役員の登用。（レク協加盟）
- ・少年団、OB、OGによる「リーダー会」を主体としたレクリエーション事業の充実。（スポ協加盟）

※スポーツ協会加盟団体＝「スポ協加盟」、レクリエーション協会加盟団体＝「レク協加盟」、「スポーツ少年団加盟団体」＝「スポ少加盟」と表記しています（以下、同じ）。

◆会員数が増加または減少傾向、指導者が増加または減少傾向の理由（該当の団体のみが記載。主な意見を抜粋して掲載）

- ・子どもの数が少なく、スポーツをしようとしている子どもが増えている。（スポ少加盟）
- ・会員全員高齢のため病気がちの人が多く、やめていく人が多い。（レク協加盟）
- ・保護者の自己中心的な行動で会員及び指導者の変動がみられる。（スポ少加盟）
- ・少年団の指導資格変更のため令和元年に多くの資格を取らせた。しかし、今までボランティアであったが、2024年からは自己負担が課せられるので、その際、少年団指

導者は激減すると思われる。(スポ少加盟)

- ・中学生女子の選手の減少・女性チームの参加者（加入者）の減少。(スポ協加盟)
- ・ボートをする人の人口が減っている。会社での活動の支援が減っており人を集めにくい。(スポ協加盟)
- ・会員数減はコロナが理由。(スポ協加盟)
- ・学校区でのチーム構成のため、地区により人口の減少で人数が集まらず解散となるチームが多くなってきた。子育て世代のママさんは仕事に加え、子どもの習い事や送迎で自分のやりたいことが後回しになってしまふ。子育てが終わると親の介護などで家を空けることが難しく時間がとれない。(レク協加盟)
- ・資格取得する人が減少してきている。(スポ協加盟)
- ・競技会（スポーツ少年団）のフレームから種目が抜けたことは大きな原因の一つ。脱退理由には、所属のメリット（費用対効果や冠大会が無い等）が見いだせない、所属の要件である指導者基準が引き上げられ要件を満たすことが難しくなった等が考えられる。(スポ協加盟)
- ・学校施設開放事業の委託を中心としてクラブ運営を行っているため、すでに小中学校の体育館や運動場の利用状況はほぼ満杯のため、事業拡大は困難となっている。(総合型)
- ・少年団や団体スポーツをすることに保護者の理解が得られない家庭が増えた。理由としては、共働きの家庭が増えたことにより、送迎ができない、保護者負担が多いなど。(総合型)
- ・コロナ禍においても、バレーボールへの思いも途絶えず、各チームが許される範囲の中で活動の場も持てており、さらに漫画ハイキューの効果で小中高の構成員数が同年代の人口減少の影響を受けなかったと考えられる。反面部員集めに苦労しているチームもあり、若年層の減少をとどめることに苦労する。(スポ協加盟)
- ・
- ・指導員を増員し、父母の負担を軽減した。(スポ少加盟)
- ・2019年ラグビーワールドカップ人気の影響も大きいが、それ以前より増加傾向は続いている。ラグビーというスポーツ自体への人気かと思う。(スポ協加盟)
- ・小中学校の親も共に加盟してもらい、子どもが退会しても親は指導者として残れる環境づくりをしている。(スポ少加盟)
- ・ブログ等で発信している事は団員勧誘に役立っていると考えられる。(スポ少加盟)
- ・総合体育館に弓道場が開場し個人使用が可能となったため。(スポ協加盟)
- ・バドミントンがTV等で取り上げられることが増加したこともある。団員が少しずつ増えてきた。指導者については保護者が担っている。ただ、このコロナ禍で、増加傾向もとどまりつつある。指導者の高齢化もある。(スポ少加盟)

◆活動を継続していくにあたっての問題点（主な意見を抜粋して掲載）

- ・指導者の高齢化が進んでいるが、後任の指導者育成ができていない。(スポ協加盟)
- ・試合の運営等で大人の力が必要だが、なかなか集まらず、特定の人たちのみで活動している。(スポ少加盟)

- ・指導員の活動と仕事の両立の難しさ。（スポ少加盟）
- ・指導者に免許を課していることがおかしい。ただのスポーツであり、指導者はボランティアである。免許制にしてお金をとることをすぐにやめてほしい（スポ少加盟）
- ・学生等が就職で退会してしまう。（レク協加盟）
- ・土日の体育館の確保が難しい。また、指導者がボランティアになっていて継続性に問題がある。（スポ協加盟）
- ・コロナ禍で活動が非常に難しい。（スポ少加盟）
- ・練習拠点の笹川西小体育館が取り壊しで日曜日の練習ができなくなった。（スポ少加盟）
- ・競技・練習の場が津市にある三重県営ライフル射撃場となるため、いつでもどこでもおこなうことはできない。（スポ協加盟）
- ・四日市市内ではボート（漕艇）をするところがないため県外、市外にいく必要がある。マイナー競技だが、高校生などが活動できる環境があると活性化につながるので良い場所があれば検討いただきたい。（スポ協加盟）
- ・団員数が多くなり、グラウンドがせまくなってきた。小学校グラウンドもサッカーと日を分けて利用している為、練習場所確保が困難になっている。（スポ少加盟）
- ・スポーツ離れや少子化によって入団希望者が減少するとチームとしての活動が困難になっていく。（スポ少加盟）
- ・競技用具の不足（カヌー、パドル、ライフジャケット）、施設の不足。（スポ協加盟）
- ・多くの人に楽しみにしていただいているウォーキング大会が今年度から自主事業として行うことになったが、経費の使い方に制限があるため、今後の開催は難しくなる。（総合型）
- ・小学校区を基盤の地区として活動するバドミントン団体で組織しているが、加盟団体の減少で、協会の目的を発揮しづらくなっている。（レク協加盟）
- ・日本スポーツ少年団により、改定される制度変更に単位団がついていけないと思われる。また、種目により子どもの団い込みが散見され、異種目交流がしづらい状況も生まれている。種目が少年スポーツについては少年団加入を促進してもらう必要がある。（スポ協加盟）
- ・学校施設開放事業の委託を中心とした運営だけでは、事業拡大は困難なため、地域ごとに、あさけプラザやヘルスプラザのような施設を建てていただき、その施設を利用し、教室等を企画し、会員拡大につなげたい。（総合型）

◆ 他の自由記述意見（主な意見を抜粋して掲載）

- ・四日市市では国体を前にして大変立派なスポーツ施設ができ、大変うれしく思っている。従来の施設と併せて市内、県内はもちろん全国、世界的な規模の行事も取り入れて有効利用すると良い。四日市市の発展にもつながると思う。（スポ少加盟）
- ・市民大会等は競技性が高く、本格的に練習していないと参加しにくいと思うことがよくある。誰もが楽しく参加できる運動、スポーツをレクリエーション要素の強い形でイベントにできるとよいと思う。（スポ協加盟）
- ・競技団体の存在をもっと市民に対して周知してもらえる機会を作ってほしい。（スポ協）

加盟)

- ・スポーツ協会加盟団体の交流の場を多く設けてほしい。(スポ協加盟)
- ・スポーツ推進基本計画に「ACP」という言葉が入っている。たぶん、知らない人が多い。しかし、今、日本スポーツ少年団はこの「ACP」を3年前から必死で周知している。それを5年前から四日市のスポーツ基本計画に入れた。その流れからすると、次の「ACP」を入れたステップ2へ前進してほしい。私は「ACP」は日本を救うと確信する。(スポ少加盟)
- ・中学校の部活動を縮小させないで、社会体育と両輪で子どもたちの育成をしたい。そのための総合型スポーツクラブの充実を。(スポ協加盟)
- ・施設の改修や新設等の恩恵(利用料の減免や予約の優先等)を地元の団体に優先的に与えてほしい。(スポ少加盟)
- ・以前は公共施設の金額減免は「スポーツ少年団」と明記されていたが、現在は「地域の青少年」と緩和され、営利非営利の区分もあいまいで、スポーツ少年団のメリットが失われているとも言える。スポーツ少年団のスケールメリットを改めて考えて頂きたい。(スポ協加盟)

3 スポーツ推進委員向けアンケート調査

(1)集計結果

①選出された地域のスポーツ活動の現状や問題点に関する意見

(主な意見を抜粋して掲載)

- 多くのスポーツ大会を開催しているが、参加者の顔ぶれが残念なことに重複していて、新しい人が増えてこない。
- 一般サークルや子どもたちの少年団活動が活発な為、学校開放施設が既存サークルで目一杯で、新しいサークルが活動できない。
- 各大会（バレー、ソフトバレー、卓球、バドミントン、テニス、タスキー（ボッチャ）等を行っているが、子育て世代の人達の参加が少なく、参加者が高齢化している点が問題となっている。
- 各スポーツ団体におけるリーダーの育成が難しく、発足させた団体が自然消滅する場合がある。
- スポーツ推進委員や学校開放を通じてのスポーツ活動がごく一部の仲間内や知り合い等に限られ、新たな人材の確保や学校開放のスポーツ活動に興味を持つてくれる人、そもそもこのような活動を知っている人が少ない。広報などは読まない人が多く、大型ショッピングセンター等でアピールしてはどうか。
- 将来的には、総合型スポーツクラブに変更していくことが望ましいのではないか。

②市のスポーツ推進に対する意見（主な意見を抜粋して掲載）

<本編> P 22 に掲載したスポーツ振興のテーマに対する意見（具体的な意見等）には、以下のような記述がみられました。主なものを抜粋して掲載します（テーマ別に掲載）。

a. スポーツに関する情報発信や収集の強化

- 学校開放におけるスポーツ活動の情報発信をもっとしてはどうか。
- スポーツの情報発信の仕方が各スポーツ推進委員の考え方で行っているのが現状だが、基本的な発信の仕方を教えてもらえるとよいと思う。
- スポーツ推進委員の知名度が低いため、ホームページやケーブルテレビ等を利用してPRするとよいのではないか。

b. 公共のスポーツ施設の整備

- 国体整備で主なところは充実したので、地域での施設の整備が必要（スポーツインフラの充実）。
- トップレベルの大会を実施するには施設が小さすぎる（野球場、ドーム等）。
- 細部の建物のバリアフリーができていない。
- アクセスの充実を図ってほしい。

c. 学校開放施設の整備

- 学校の運動場だけでなく体育館の照明をLEDに早く。
- 管理面で学校に負担がかかるのでは。

d. スポーツクラブやサークルが活動しやすい環境づくり

- スポーツクラブ（総合型等）が優先的に施設等を利用できるようにしては。

- ・スポーツ、クラブ等が活動をする施設環境を充実してほしい（学校開放のみでは不可）。

- ・総合型地域スポーツクラブを各地区各ブロック校区でつくれる環境をつくれてほしい。

e. スポーツ大会やイベントの充実

- ・四日市市総合体育館を全国大会等の誘致に力を入れる（四日市市の中学生に夢を与えることの出来る大会、イベントを誘致してほしい）。

f. 誰もが気軽に運動・スポーツができる教室の充実

- ・広報等でPRしているが、なかなか参加するには敷居が高くて利用できない。

g. 子どもの体力強化（学校体育授業や運動部活動の充実）

- ・体育での少人数授業は丁寧に実施すべき。中学校の部活動に地域やNPO等の指導補助員を入れる。
- ・学校によってクラブ活動設備のバラツキが大きいので、これを補えるだけの公共施設の充実と利用しやすい体制づくりが重要では。

h. 障害者が運動・スポーツをしやすい環境づくり

- ・障害者が運動する環境がないので教室等を行ってほしい。
- ・障害者の方々が自由に活動できる施設環境の充実（施設数が極端に少ない）。

i. トップアスリートが身近にみられるイベントの開催

- ・プロの選手を間近に観ることで子どもたちがよりスポーツに関心を持ち、進んでスポーツを行うようになるのではないかと思う。
- ・競技場等の整備も多数必要である。

j. スポーツ指導者の養成

- ・三重にプロスポーツを。中高生の優秀な人材が県外に流れてしまう。
- ・トップレベルの大会を実施するには施設が小さすぎる（野球場、ドーム等）。

k. 市内選手の競技力強化および支援

- ・指導者は大変重要な位置づけであり養成に注力すべきと考える。目的に応じ計画的に養成する。

l. スポーツを通じた観光・経済の活性化

- ・四日市から多くのスポーツ選手を全国に送り出しているが、全く知らない選手が多い。もっと広めたい。全国区の四日市の優秀な人を。

m. スポーツを通じた観光・経済の活性化

- ・素晴らしい競技場が設立されたので、全国規模の大会を開催するべきであると思う。
- ・定期的なスポーツイベントと観光（四日市夜景など）を組み合わせるような長期的な事業を開拓するべきと思う。

③選出された地域のスポーツ活動への新型コロナによる影響に関する意見（主な意見を抜粋して掲載）

- ・各種スポーツイベントが中止になった。
- ・体育館の使用時間が夜8時と短くなかった。
- ・当地域では昨年学校開放が一時的に中止された。新しい取り組みなどが必要だと感じ

る。

- ・開催に際し、今まで以上の人員での運営が必要となっている。

④その他の自由記述意見（主な意見を抜粋して掲載）

- ・国体の関係で令和3年度までは、競技的なスポーツに力を入れてきたと思うが、これからは地域スポーツ、生涯スポーツ、障害スポーツに力を入れていただきたい。誰でも生活をしてく上でのスポーツを望んでいる。特に行政とスポーツ関係者との連絡を密にして、四日市市のスポーツ行政を日本中（世界中）に知らし、示すことができるようにしてほしい（行政の横の関係を充実してほしい）。
- ・スポーツから遠ざかっている人など、今、スポーツにふれていない人にいかにスポーツをさせるか考えなくてはならない。
- ・各地区（校区、ブロック等）が少子高齢化、人口減少がすすんでいくので、イベント開催等で他の地区の応援ができる体制や合同開催ができるとよいのではないか。スポーツ推進委員の校区外活動等。
- ・大会等が行われる会場が決まっており、地域からは遠く参加するのにリスクがある。高齢者は運転の不安、子どもにおいては公共交通機関の利用の不便さなどの問題がある。

3 スポーツ施設一覧

(1) スポーツ課の所管する運動施設

名称	概要	所在地
中央緑地運動施設		
総合体育館	アリーナ：バレー・ボール 4 面、バスケットボール 3 面、ハンドボール 2 面、バドミントン 20 面、卓球 48 台、固定観客席 3,000 席、移動観客席 512 席、車椅子用観覧スペース 16 台分、弓道場（近的射場 5 人立ち 2 射場、遠的射場 3 人立ち 2 射場）、多目的室 1、多目的室 2、トレーニングルーム、ウォーキングコース	四日市市日永東 1 丁目 3-21
中央第 2 体育館	バスケットボール 1 面、バレー・ボール 2 面、テニス 1 面、バドミントン 6 面、ハンドボール 1 面、卓球 12 台、観客席 144 席（固定）	四日市市日永東 1 丁目 3-21
中央陸上競技場	第 2 種公認陸上競技場、全天候トラック 400m、フィールド・コート天然芝（68m × 105m サッカー・ラグビー併用）、観客席（固定スタンド）2,500 席、（土盛スタンド）4,500 人、車椅子用観覧スペース 3 台分、写真判定装置、夜間照明 8 基、多目的便所	四日市市日永東 1 丁目 3-21
中央フットボール場	A フィールド（全天候サブトラック付人工芝サッカー場）、B フィールド（人工芝アメフト兼サッカー場）、C フィールド（人工芝ラグビー兼サッカー場）	四日市市日永東 1 丁目 3-21

名称	概要	所在地
霞ヶ浦緑地運動施設		
四日市ドーム	サッカー1面、少年サッカー2面、フットサル4面、ハンドボール4面、ソフトボール2面、少年野球2面、テニス・ソフトテニス12面、アメリカンフットボール1面、ホッケー1面、ドッジボール4面、ゲートボール12面、グラウンド・ゴルフ4面、200mトラックなど、イベント（式典・講演会・展示会・見本市・コンサート等）観客席4,704席（固定）、フロアーブルーム椅子使用で10,000人	四日市市大字羽津甲 5169
四日市テニスセンター	ハードコート16面（屋外コート8面（センターコート1面）観客席1,017席、サブセンターコート1面観客席470席、その他6面観客席555席、車椅子用観覧スペース33台分）、屋根付コート8面観客席740席、車椅子用観覧スペース20台分）、全コート夜間照明	四日市市大字羽津甲 5169
霞ヶ浦体育館	バスケットボール2面、バレーボール2面、テニス1面、バドミントン6面、ハンドボール1面、卓球10台	四日市市大字羽津甲 5169
霞ヶ浦第1野球場	両翼97.6m、センター120m、夜間照明6基、電光掲示板、観客席（メインスタンド）1,990席、（内野スタンド）2,810席、（外野スタンド）3,000席、車椅子用観覧スペース（1階）1・3塁側各5台分	四日市市大字羽津甲 5169
霞ヶ浦第2野球場	両翼90m、センター115m	四日市市大字羽津甲 5169

名称	概要	所在地
霞ヶ浦第3野球場	両翼 100m、センター122m、夜間照明 6 基、電光掲示板、放送設備、観客席（メインスタンド）988席、（1・3 墁側）各 314 席、車椅子用観覧スペース 8 台分）	四日市市大字羽津甲 5169
	50m プール（50m×25m、10 レーン最深 1.5m）、 25m プール（25m×15m、7 レーン最深 1.2m）、 流水プール（幅 5.5m 水深 1m、1 周 125m）、 幼児・子どもプール（水深 25 cm～65 cm）	四日市市大字羽津甲 5169
	艇庫内 18 艇収容可能、係留施設 30 艇	四日市市大字羽津甲 5169
楠緑地運動施設		
楠体育館・武道場	バスケットボール 1 面、バドミントン 6 面、バレーボール 2 面、卓球 9 台、観客席 260 席（固定）	四日市市楠町北五味塚 1215-1
楠多目的運動場	軟式野球、ソフトボール、陸上競技、夜間照明 6 基	四日市市楠町北五味塚 1215-1
楠テニスコート	砂入り人工芝コート 4 面、夜間照明 8 基	四日市市楠町北五味塚 1215-1
三滝武道館	柔道場 2 面（272 疊）、剣道場 2 面、選手控室	四日市市新浜町 17-23
三滝相撲場	屋形付土俵 1 面、観客席 288 席（固定）	四日市市新浜町 17-23
三滝テニスコート	砂入り人工芝コート 14 面（内夜間照明 4 面）	四日市市新浜町 17-23
温水プール	25m プール（25m×15m、7 レーン、最深 1.4m）	四日市市昌栄町 21-21
松原テニスコート	クレイコート 2 面	四日市市松原町 4-15
松原野球場	両翼 82m、センター99m	四日市市松原町 4-15
北条野球場	両翼 90m、センター113m	四日市市北浜町 15-3
垂坂ソフトボール場	ソフトボール場 2 面	四日市市大矢知町字大沢 1981-25

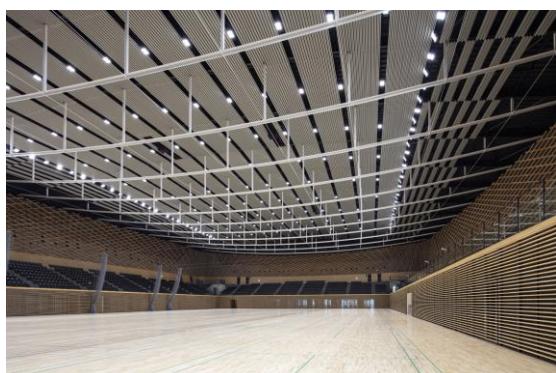
名称	概要	所在地
鈴鹿川河原田野球場	両翼 86m、センター100m	四日市市河原田町地先
鈴鹿川河原田ソフトボール場	両翼 65m、センター77m	四日市市河原田町地先
鈴鹿川グラウンドゴルフ場	グラウンド・ゴルフ、多目的利用可	四日市市河原田町地先
鈴鹿川ラグビー・サッカー場	ラグビー場・サッカー場 1面（芝張り）	四日市市内堀町地先
垂坂サッカー場	サッカー場 2面（グリーンサンド・クレー）	四日市市大矢知町字大沢 1981-25
本郷河川敷グラウンド	サッカー場、ソフトボール場	四日市市楠町本郷地先
桜テニスコート	砂入り人工芝コート 2面、クレイコート 3面、ハードコート 1面	四日市市桜町 6900
桜多目的広場	軟式野球、ソフトボール、サッカー、グラウンド・ゴルフ	四日市市桜町 6900
橋北交流会館体育館	バレーボール 1面、バドミントン 2面、卓球 4台	四日市市東新町 26-32
橋北交流会館運動場	少年サッカー1面	四日市市東新町 26-32

(2)スポーツ課以外の所管する運動施設

名称	概要	所在地
北勢中央公園 (三重県 県土整備部)	野球場、テニスコート	四日市市西村町 1080
三重北勢健康増進センター ヘルスプラザ (健康福祉部)	トレーニングジム、プール、ランニングトラック、軽運動室、卓球、グラウンド・ゴルフ場	四日市市塩浜町 1-11
四日市市障害者体育センター (健康福祉部)	体育室	四日市市西日野町 4070-1
四日市地域総合会館 あさけプラザ (市民文化部)	体育館	四日市市下之宮町 296-1
四日市市勤労者・市民交流センター (商工農水部)	多目的ホール（体育館）	四日市市日永東 1丁目 2-25
四日市スポーツランド (公益財団法人四日市市文化まちづくり財団)	サイクリングコース、アスレチックコース、チビッコプール、ローラースケート場	四日市市桜町 9868
伊坂ダムサイクルパーク (公益財団法人四日市市文化まちづくり財団)	サイクリングコース、ウォーキングコース	四日市市伊坂町 157-2

(3)地区運動広場

名称	概要	所在地
笹川西公園運動広場	少年野球場 1面、テニスコート 2面 (クレイ)	四日市市笹川 5丁目 (笹川西公園内)
小山田地区テニスコート	クレイコート 1面	四日市市山田町 1373-1
県地区テニスコート	クレイコート 2面	四日市市赤水町 1520
保々工業団地総合広場	多目的広場 1面	四日市市小牧町字高山 2800-6
三重団地テニスコート	クレイコート 2面	四日市市三重 9丁目 (11号公園内)
富洲原地区運動広場	サッカー場兼ソフトボール場 1面	四日市市天ヶ須賀新町 1-4
桜ハイツ中央公園運動広場	ソフトボール場 1面、テニスコート 1面 (ハード)	四日市市桜花台 2丁目 5826-6
小山田ソフトボール場	ソフトボール場 1面	四日市市鹿間 1200-5
山之一色スポーツ公園運動広場	ソフトボール場 1面、テニスコート 1面 (ハード)	四日市市山之一色町 777
県地区運動広場	ソフトボール場 1面、多目的広場 1面	四日市市上海老町 2101-5
采女が丘運動広場	多目的広場 1面、テニスコート 1面 (ハード)	四日市市采女が丘 1丁目 142-1
水沢地区運動広場	サッカー場 2面	四日市市水沢町 4279-1
垂坂地区運動広場	多目的広場 1面	四日市市南垂坂町 810-2
大谷台テニスコート	テニスコート 1面 (ハード)	四日市市大谷台 2丁目 1571-4
高花平テニスコート	テニスコート 1面 (クレイ)	四日市市高花平 3丁目 1-14



総合体育館アリーナ



霞ヶ浦第3野球場

4 四日市市スポーツ推進審議会委員名簿

※敬称略、委員は五十音順

役職	氏名	団体
会長	馬瀬 隆彦	特定非営利活動法人 四日市市スポーツ協会会長
副会長	馬場 宏	四日市市スポーツ推進委員協議会会長
委員	伊藤 和成	四日市市立中学校長会代表（富洲原中学校長）
委員	伊藤 政敏	四日市市身体障害者団体連合会スポーツ委員長
委員	岩井 道子	スポーツ指導者代表
委員	金原 正紀	四日市市立小学校長会代表（羽津小学校長）
委員	澤村 由紀子	四日市市立保育園長会代表（笹川西保育園長）
委員	瀬川 岳彦	四日市市子ども会育成者連絡協議会体育部長
委員	田中 由紀子	特定非営利活動法人 楠スポーツクラブマネージャー
委員	中瀬古 真喜子	四日市市スポーツ推進委員協議会女性代表
委員	樋口 龍馬	四日市市スポーツ少年団代表
委員	藤原 良美	四日市市立幼稚園長会代表（内部幼稚園長）
委員	堀木 俊男	四日市市レクリエーション協会会長
委員	森 淑子	生涯スポーツ団体代表

5 用語集

※並びは五十音順

【あ行】

アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）

日本スポーツ協会が開発し、普及を進めているもので、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きやからだを操作する能力を獲得し、高めるための運動プログラムのこと。

新しい生活様式

新型コロナウイルス感染症流行の長期化を想定し、感染症予防と経済活動の両立を図るための生活様式のこと。ICT機器を活用したリモートワーク、遠隔授業の推進や、ソーシャルディスタンスを保った生活を日常とすることが求められる。

美し国三重市町対抗駅伝

県内のスポーツ推進及び市町の振興を図るため、2008年（平成20年）に始まった市町対抗駅伝大会のこと。津市の県庁前から伊勢市の県営総合競技場までの42.195kmを小学生から一般選手が10区間で繋ぐ。

SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（social networking service）の略で、人と人とのつながりを促進・支援する、コミュニティ型のWebサイトおよびネットサービスのこと。

【か行】

健康ボランティア

地域で生活習慣病予防や介護予防のための運動をすすめるボランティアのこと。

コンベンション

大会、会議、セミナー、イベント、式典など目的を持って人々が多く集まる大規模な催し物のこと。

【さ行】

指定管理者

従来、地方公共団体や外郭団体に制限されていた公共施設の管理運営を株式会社やNPO法人といった民間事業者も参入できるようにした指定管理者制度に基づいて、地方公共団体が管理運営を任せること。

シティプロモーション

地域資源に対する市民等の誇りの醸成を基礎として、地域の魅力を創造し、磨き上げ、発信することによって、都市イメージの向上を図る活動。都市の魅力を都市内外に効果的に発信し、人、物、金、情報などの資源を都市内部へ取り込み、活用していくための取り組みのこと。

生涯スポーツ

性別や年齢を問わず、誰もが個々の体力や技術に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも親しむことができるスポーツのこと。

スポーツ基本法（2011年（平成23年）6月制定）

1961年（昭和36年）に制定されたスポーツ振興法を50年ぶりに全部改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたもの。

スポーツコミッショナ

スポーツをまちづくりや地域の活性化を図る手段のひとつと捉え、市、スポーツ関連団体、事業者等が連携及び協働して地域振興を目指すことを目的とした連携又は組織的な取り組みのこと。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

2008年度（平成20年度）から日本全国の小学5年生、中学2年生全員を対象として行われる、子どもの体力向上に生かす目的で実施されるスポーツテストのこと。

総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、さまざまなスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことで、現在、市内で7クラブが活動をしている。（特定非営利活動法人四日市ウェルネスクラブ、特定非営利活動法人楠スポーツクラブ、保々ふれあいスポーツクラブ、特定非営利活動法人総合型地域スポーツクラブさんさん、特定非営利活動法人ビバ・橋北、内部地区総合型地域スポーツクラブうつべ☆スター、総合型地域スポーツクラブすぽよん）

【た行】

第2期スポーツ基本計画（2017年（平成29年）3月策定）

スポーツ基本法の理念を具体化し、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として位置付けられるもの。

第2次三重県スポーツ推進計画（2019年（平成31年）3月策定）

「三重県スポーツ推進条例」のめざす姿「県民力を結集した元気なみえ」を実現するため
に、スポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため策定されたもの。

特定非営利活動法人四日市市スポーツ協会

1947年（昭和22年）、市民の体力向上及び本市発展の基盤を培うことを目的に市内のアマチュアスポーツを統合する団体として設立し、現在、48団体が加盟している。2006年度（平成18年度）から指定管理者制度により四日市ドーム及び29運動施設（2022年（令和4年）3月現在）の管理を行っており、各種市民大会やスポーツ教室を実施している。
※2022年（令和4年）4月より、公益財団法人四日市市スポーツ協会として活動予定

【な行】

ノーマライゼーション

障害者や高齢者などがほかの人と同様の生活を送れるように、社会基盤や福祉の充実などを整備していく考え方のこと。

【は行】

バリアフリー化

高齢者や障害者が社会生活を送る上で障壁となるものを取り除くこと。階段や通路に手すりやスロープを設置するなど物理的な障壁を取り除くことに加え、制度的、心理的な障壁を取り除くことも含まれている。

ビジネスパーソン

ビジネスに従事している実業家、経営者、会社員、事務員の総称。ビジネスマン・ビジネスウーマンに代えて、男女の性差なく平等に用いられる言葉。

プロスポーツ

プロフェッショナルスポーツの略称で、一般には職業として行われるスポーツのことを指す。スポーツをする能力が高く、それにより報酬を得ているプロフェッショナル選手やその指導者等で構成されたスポーツ・スポーツ組織のこと。

ボッチャ

ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目となっている。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たりして、いかに近づけるかを競う。

ポータルサイト

インターネットでさまざまなコンテンツにアクセスをするときに、その入口となるWeb サイトのこと。

【ま行】

三重県スポーツ推進条例（2014年（平成26年）12月制定）

スポーツの持つ多面的な価値を県民全体で共有し、県民の自主的、主体的なアクションにつながるようスポーツ推進の理念や取組方針を明らかにしていくことを目的に制定されたもの。

【や行】

ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などにかかわらず、できるだけ多くの人にわかりやすく、かつ最初から説明がなくとも利用できるようにつくられたデザインのこと。

四日市サイクル・スポーツ・フェスティバル

青少年の自転車競技への関心を高め、スポーツの全国大会開催を通じて地域の活性化を図ることを目的に水沢・桜地区で開催する自転車レースのこと。

四日市市公共施設個別施設計画（2021年（令和3年）3月策定）

2016年（平成28年）1月に策定された「四日市市公共施設等総合管理計画」や2019年（令和元年）11月に策定された「四日市市公共施設マネジメントに関する基本方針」の考え方を基に、四日市市が個別施設ごとに施設の現状や今後求められる役割などを整理し、今後の具体的な対応方針を定めた計画のこと。

四日市市スポーツ施設整備計画（2015年（平成27年）3月策定）

本市のスポーツ施設について、2021年（令和3年）開催予定であった三重とくわか国体も見据え、その現状と課題を明らかにするとともに、2015年度（平成27年度）から2025年度（令和7年度）までの10年間の施設整備の基本的な考え方や具体的な整備方針を示したもの。

四日市市スポーツ少年団

スポーツ少年団とは、スポーツを通じた青少年の心身の健全な育成を目的として結成された団体で、全国に多数存在し、市区町村等の単位による組織に加盟している。現在、四日市市スポーツ少年団には、54単位団が加盟している。

四日市市スポーツ推進委員

スポーツ推進を図るために、スポーツの技術指導や、スポーツに関するさまざまな指導・助言、住民と行政を結ぶコーディネーターとしての役割を担う指導者として、本市がスポーツ基本法に基づき委嘱している委員のこと。

四日市市民スポーツフェスタ

毎年 10 月に開催され、青少年から高齢者まで参加でき、市民の幅広い層に定着している本市の代表的なスポーツイベントのこと。1979 年（昭和 45 年）に体力つくり市民大会として体育の日に第 1 回大会が開催され、2003 年（平成 15 年）に四日市市民スポーツフェスタと名称変更した。

四日市市みんなのスポーツ応援条例（2016 年（平成 28 年）12 月制定）

議員提案により制定された条例で、「誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる活力あるまちづくりの創生に資することを目的として、スポーツの推進に関する施策の基本となる事項を定めたもの。

四日市市レクリエーション協会

1958 年（昭和 33 年）、本市の地域性に即したレクリエーション運動の振興に努めることを目的に設立し、現在 17 団体が加盟している。

【ら行】

リモートワーク

ＩＣＴ機器を活用し、オフィスに出社せず自宅や遠隔地などで業務を行う勤務形態のこと。

ロゲイニング

地図・コンパスを使って、野外に設置されたチェックポイントをできるだけ多く制限時間内に回り、得られた点数を競うアウトドアスポーツのこと。

第4次四日市市スポーツ推進計画

2022年（令和4年）3月

四日市市スポーツ・国体推進部スポーツ課

〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号

TEL 059-354-8429

FAX 059-354-8432

E-mail sports@city.yokkaichi.mie.jp